

病 院 年 報

— 第 2 2 号 —

令和 5 年度



杉田玄白記念公立小浜病院

病院理念と基本方針

病 院 理 念

『 地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院 』

基 本 方 針

- 1) 杉田玄白の進取の精神を受け継ぎ、良質で新しい医療を提案し、安全・安心な医療サービスに努めます。
- 2) 医療連携を推進し、中核病院として地域のニーズに応えます。
- 3) 公共性に配慮しつつ、健全な経営をめざします。
- 4) 教育・研修を充実させ、優れた人材を育成します。

巻頭言



病院長 谷 澤 昭 彦

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、社会においては人々の行動様式が変わり始めましたが、公立小浜病院では多くの医療機関と同様に感染流行状況を見極めながら感染対策を継続する日々でした。入院患者さんへの面会制限は段階的に緩和していきましたが、家族以外の友人・知人の面会を受け入れ始めたのは令和6年度になってからです。一方、病床確保料などの県からの支援は段階的に縮小されていき、病院経営の観点からは令和5年度は正念場の年でした。新型コロナウイルス感染症への対応を継続しつつ、如何にして病院の診療体制をコロナ前の状態に戻していくか、受診控えで減少していた外来・入院患者数を如何に回復させていくかということが大きな課題であったと考えます。

令和5年4月に新たに経営強化推進室を設けて経営改善に向けたマンパワーを強化し、同時に公立病院としての経営強化プラン策定に向けて具体的な協議を進めていきました。また、医師の働き方改革においては、時間外労働時間が年間960時間以内に収まるように勤怠管理システムの導入と診療科間の協力および診療科内での業務均等化に努めました。医師以外の職種においても時間外労働の負荷が大きい部署もあり、さらなる業務の効率化や職員間の業務負担の均等化が求められています。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、地域住民の方々の健康増進に資することを目的に健康講座を開催しました。今後も病気の予防や早期診断に繋がるように継続していきます。

令和5年度末には経営強化プランを固め、当院の短中期的な方針を決め収支の黒字化を目指した目標値を設定しました。幸いにして夏以降の患者数増加の効果から当院の令和5年度経常収支はプラスを維持できました。コロナ関連の補助金が大幅に減った中での黒字化でした。患者さんと接し日々の診療に努めてくれた多くの職員、またレセプト請求など多忙な業務をこなし経費削減への取り組みを続けた事務職員の努力の成果だと感謝しています。単に病院の経常収支が黒字になったことを喜ぶだけではなく、一人一人の職員に達成感をもたらし、次年度へのさらなる意欲に繋がることを期待しています。個々の職員が実践したい目指すべき医療、地域住民の方々が公立小浜病院に求め期待してい

る医療、また若狭地域の医療機関や介護福祉施設から求められている医療、県市町が考えている医療を分析調整して、公立小浜病院の将来像を描くための再スタートの令和5年度であったと考えます。

病院年報の中には令和5年度決算に関する報告も含まれていますが、年報は地域患者さんのために医療を提供した各部署・職員の活動の記録になります。令和2年からのコロナ禍での診療実績の低下から、コロナ前の状態に戻そうと努力した各部署の令和5年度の取り組みや成果について、この病院年報で目にしていいただければ幸いです。

令和6年7月

— 目 次 —

病院理念・基本方針

巻頭言 病院長

I. 病院概況

施設概況	2
沿革	4
建物配置図・断面図	6
組織図	7
役職員一覧	8
院内会議・委員会一覧	9
職員数	10

II. 活動状況

1. 各科・各部署の活動状況

内 科	12	救命救急センター	
循環器内科	15	救急総合診療科	38
小 児 科	16	病 理	39
精 神 科	18	歯科口腔外科	40
産婦人科	19	健診センター	43
外 科	20	血液浄化センター	44
整形外科	26	消化器センター	45
形成外科	27	画像診断センター	
脳神経外科	28	診療放射線科	46
心臓血管外科	29	薬 剤 部	47
眼 科	30	臨床検査科	49
耳鼻いんこう科	31	リハビリテーション科 ..	50
皮 膚 科	32	食事療法科	56
泌尿器科	33	臨床工学科	57
手術センター・麻酔科 ..	35	臨床心理室	58
放射線科	36	看 護 部	59

2. 院内委員会及び医療チームの活動状況

70

3. 学術活動等

91

Ⅲ．各種統計

外来患者数、入院患者数	102
平均在院日数、病床利用率、救急車搬送患者数	
時間外診療患者数、へき地巡回診療患者数	106
手術件数、分娩件数、内視鏡検査件数	107
薬剤部統計	108
画像診断センター統計	
リハビリテーション科統計、食事療法科統計	109
臨床検査科統計	110
地域連携・医療福祉相談件数	111

Ⅳ．決算概要

経営・財務指標	114
事業報告	115
事業収入に関する事項	116
事業費に関する事項	117

I . 病院概況

(令和5年4月現在)



本館・救命救急センター



西館（正面玄関）



東館



外来新棟



杉田玄白像



薬草園（東側玄関）

施設概況

所在地 福井県小浜市大手町2番2号
 設立形態 一部事務組合立病院
 構成市町 小浜市、若狭町、おおい町、美浜町
 代表者 組合長（小浜市長）

敷地面積 24,479 m²
 建築面積 9,029 m²
 延床面積 32,027 m²
 （本館は免震構造）



病床数 456床（一般296、療養50、結核8、感染症2、精神100）

診療科目 救急総合診療科、内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

入院基本料 一般病棟 急性期一般入院料1
 療養病棟 療養病棟入院料2
 結核病棟 7対1入院基本料
 精神病棟 15対1入院基本料（看護補助加算3）

特殊診療機能機器・設備等 救命救急センター(12床、うちICU・CCU 7床、無菌室1床)、HCU(15床)、健診センター(6床)、血液浄化センター(42床)、小児療育センター、画像診断センター(PET-CT、MDCT、MRI、IVR、骨塩量測定装置等)、免震構造(本館部分)、放射線治療装置、結石破碎装置等

併設施設 公立若狭高等看護学院、介護老人保健施設アクール若狭、院内保育所（ふくろう）、小浜市病後児保育所（とまと）

指定医療機関等の状況

健康保険法保険医療機関、国民健康保険療養取扱機関、労働災害補償保険指定医療機関、結核予防法指定病院、生活保護法指定病院、被爆者一般疾病医療機関、養育医療指定医療機関、厚生医療指定病院、育成医療指定病院、第2種感染症指定医療機関、救急告示病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、病院群輪番制病院、難病指定医療機関
福井県指定小児慢性特定疾病医療機関、管理型臨床研修指定病院、協力型臨床研修指定病院（福井大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院）、地域周産期母子医療センター、母体保護法指定施設、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設、救命救急センター（新型）、DMAT指定医療機関、地域包括医療・ケア認定施設
（財）日本医療機能評価機構認定病院（機能種別版評価項目 3rdG・Ver.2.0 認定）
※身体障害者福祉法指定医

専門医、認定医教育病院等、学会の指定状況

日本専門医機構認定【基幹：整形外科、総合診療】【連携：内科、小児科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、リハビリテーション科、総合診療科】

内科学会教育関連病院、内分泌学会認定教育施設、甲状腺学会認定専門医施設、腎臓学会認定教育施設、外科学会認定医修練施設、外科学会専門医制度修練施設、消化器外科学会専門医制度指定修練施設、消化器病学会専門医制度認定関連施設、整形外科学会専門医研修施設、脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設、小児科学会専門医研修関連施設、泌尿器科学会専門医教育施設、救急医学会認定救急科専門医指定施設、麻酔科学会認定病院、精神神経学会精神科専門医制度認定研修施設、脳卒中学会一次脳卒中センター、周産期・新生児医学会認定母体・胎児認定施設、口腔外科学会認定准研修施設



健診センター



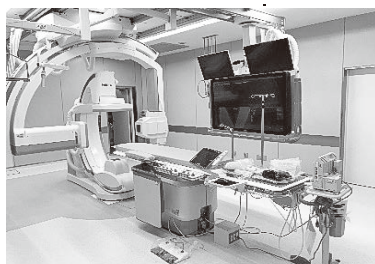
血液浄化センター



医師公舎・看護師宿舎



無菌病室



IVR 装置
（令和3年6月導入）



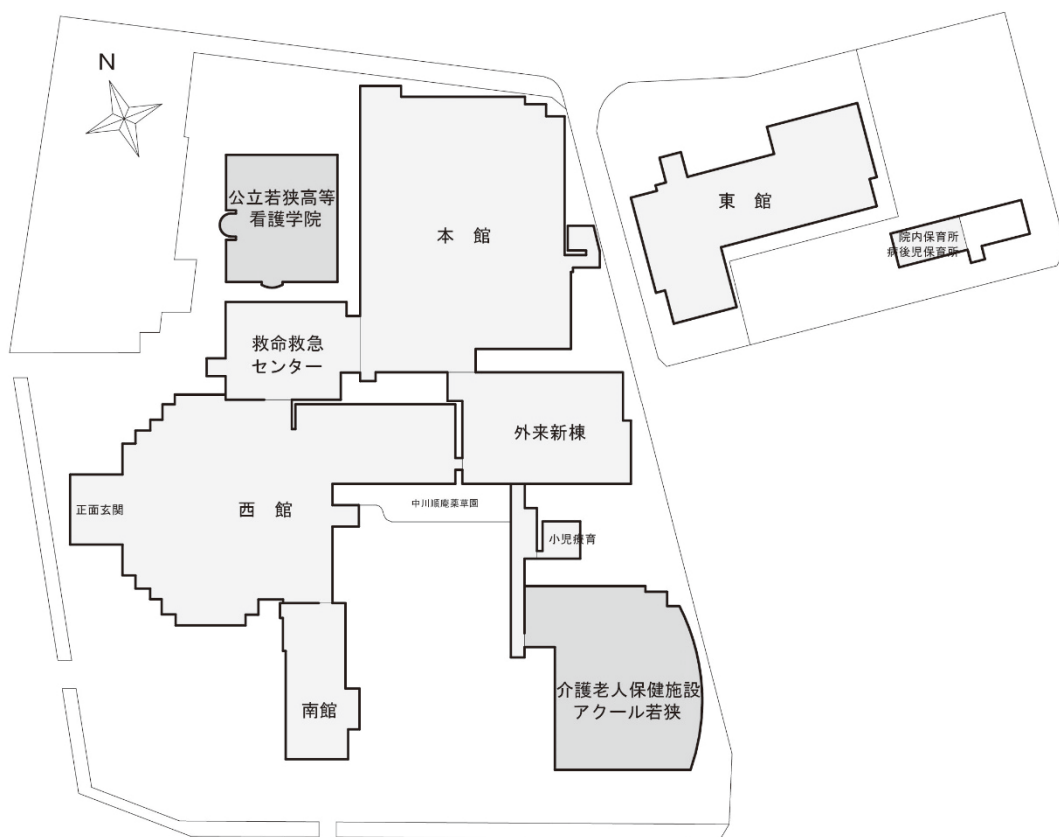
CT 装置
（令和5年12月導入）

沿革

	年	月	日	事 項
明治	16	1	4	「県立小浜病院」として開設
	26	4	1	郡制実施により「郡立小浜病院」と改称
大正	12	4	1	郡制廃止に伴い小浜病院組合を設け「共立小浜病院」と改称
昭和	26	4	1	町村合併により一市八村の組合立病院となり、「公立小浜病院」と改称
	30	1	1	町村合併により一市一町一村の組合立病院となる(小浜市、上中町、名田庄村)
	32	9	1	総合病院の承認を受ける
	35	6	12	救急告示病院の指定を受ける
	53	12	1	第2次救急病院群輪番制病院の指定を受ける
	55	4	1	へき地中核病院の指定を受ける
	58	11	24	創立100周年記念式典
平成	2	4	1	公立若狭高等看護学院開校
	3	5	15	自治体立優良病院表彰式において自治大臣表彰を受ける
	4	7	2	病院施設整備事業起工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	5	8	30	西館完成
	5	9	1	病床数変更 391床 (一般271床、精神100床、隔離20床)
	5	12	18	第2病棟、第3病棟 改修工事完了
	6	5	27	病院施設整備事業竣工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	7	6	1	脳ドック開設
	10	1	19	災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受ける
	10	4	1	院内保育所開設
	10	8	25	立体駐車場完成
	11	5	25	遠隔医療システム稼働
	11	12	13	リハビリテーション施設整備工事完成
	12	3	29	介護老人保健施設アクル若狭開設
	13	4	1	三方町、美浜町が病院組合へ加入
	15	7	1	レイクヒルズ美方病院開設
	15	8	11	高度医療施設整備事業 第1期工事起工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	15	10	30	単独型臨床研修病院の指定を受ける
	16	11	2	病床数変更 410床 (一般308床、精神100床、感染2床)
	16	11	10	高度医療施設整備事業 第1期工事竣工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	17	3	30	上中町、三方町が病院組合から脱退(合併による)
	17	3	31	若狭町が病院組合へ加入
	17	6	1	福井県地域療育拠点設置事業受託開始

	17	10	1	指定居宅介護支援事業開始
	17	10	3	第 1 期オーダーリングシステム運用開始、院外処方箋発行開始
	17	10	27	高度医療施設整備事業 第 2 期工事起工式典(本館、救命救急センター建設など)
	17	11	1	小浜市病後児保育事業受託開始、病後児保育所開設
	18	1	18	協力型臨床研修施設(歯科口腔外科)の指定を受ける
	18	3	2	名田庄村が病院組合から脱退(合併による)
	18	3	3	おおい町が病院組合へ加入
	18	3	20	(財)日本医療機能評価機構の審査を受ける(審査体制区分 3 Ver.4.0)
	18	4	1	救急総合診療科開設、精神科デイケア開始
	19	10	1	病院の名称を「杉田玄白記念 公立小浜病院」と改称、救命救急センター開設
	19	10	25	高度医療施設整備事業 第 2 期工事竣工式典(本館、救命救急センター建設など)
	19	10	29	第 2 期オーダーリングシステム運用開始
				病床数変更 456 床 (一般 296 床、療養 50 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
	19	11	1	療養病床(50 床)運用開始
	20	4	1	単独型臨床研修指定病院として医科臨床研修医を受入れ
	20	11	1	小児科休日当番医制度を開始
	21	3	30	DMAT 指定病院となる
	22	3	15	エネルギー研究開発拠点化事業竣工
	22	4	1	消化器センター開設
	22	7	1	DPC 対象病院となる
	23	2	19	高度医療施設整備事業 第 3 期工事起工式典(外来新棟建設など)
	23	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(審査体制区分 3 Ver.6.0)
	23	3	22	東日本大震災に係る救護班派遣(計 5 班)
	23	11	21	外来新棟 診療開始 (脳外科、泌尿器科、眼科、精神科、皮膚科、歯科口腔外科、リニアック、売店、一般食堂)
	24	11	24	高度医療施設整備事業 第 3 期工事竣工式典(外来新棟建設など)
	25	4	1	小児療育センター開設
	25	5	25	中川淳庵薬草園を開園
	25	11	24	開設 130 周年記念若狭健康フォーラムを開催
	26	1	12	電子カルテシステム運用開始
	26	4	1	病床数変更 456 床 (一般 246 床、療養 100 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
	28	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1)
	28	4	27	熊本地震に係る救護班派遣
	28	6	1	地域包括ケア病棟(52 床)運用開始
	30	3	1	病床数変更 456 床 (一般 296 床、療養 50 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
令和	3	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0)
	5	4	1	臓器移植法に基づく脳死臓器提供施設に認定

建物配置図



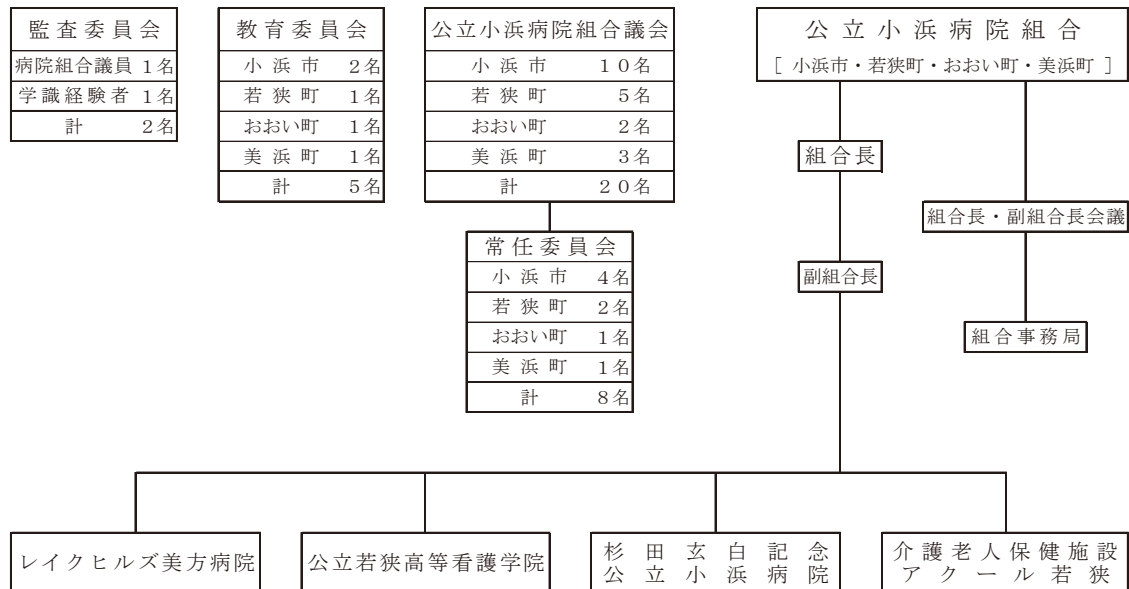
各階案内図

本 館		小児療育センター		南 館	
9階	会議室	1階	小児療育室	4階	福井県健康管理協会
8階	一般病床、感染症病棟、結核病棟	外來新棟		3階	管理部門
7階	一般病棟	2階	外來診療科	2階	管理部門
6階	一般病棟	1階	外來診療科、放射線治療、災害処置室、食堂、売店	1階	管理部門
5階	一般病棟			アクール若狭	
西 館		救命救急センター		東 館	
4階	療養病棟	ICU、CCU		精神科病棟	
3階	一般病棟	救急診療室 救急専用病床		精神科病棟	
2階	手術センター、中央材料室、外來診療科、管理部門			精神科デイケア	
1階	外來診療科、外來検査室、受付、会計、薬剤部、紹介患者窓口				

組織図

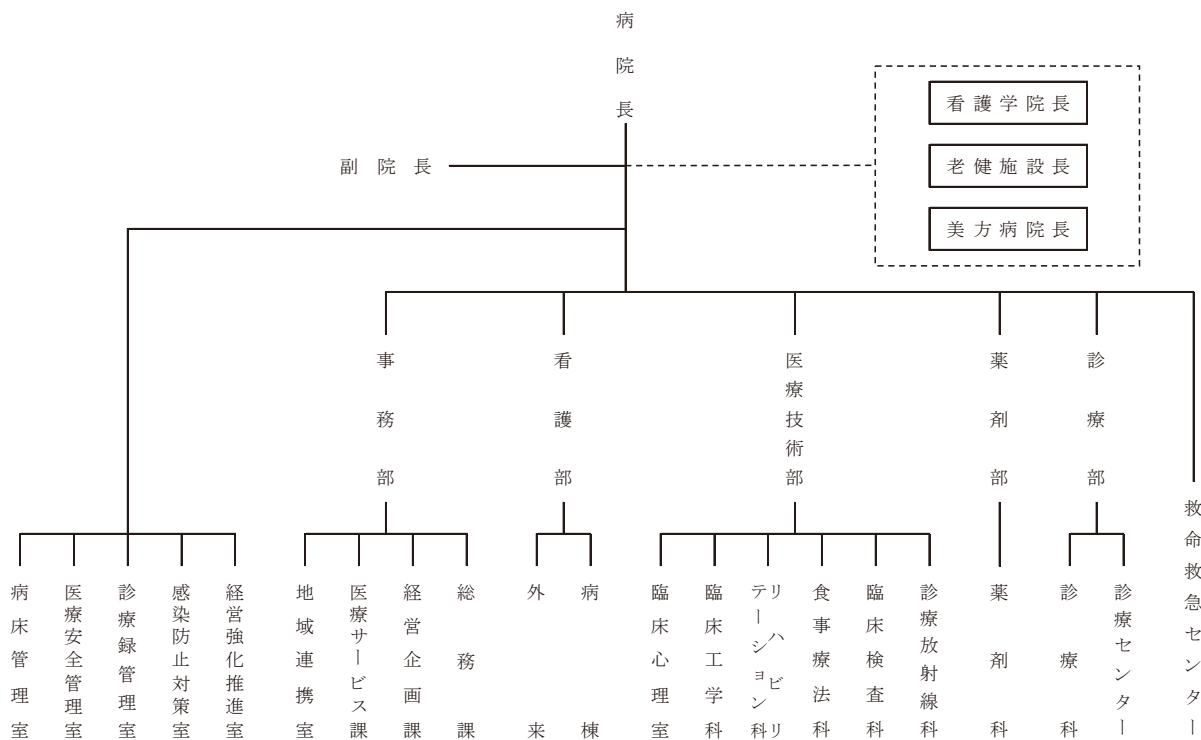
公立小浜病院組合 組織図

平成24年4月1日～



杉田玄白記念 公立小浜病院 組織図

令和5年4月1日～



公立小浜病院組合役職員一覧（令和5年度）

公立小浜病院組合

組 合 長	松 崎 晃 治	(小浜市長)
副 組 合 長	渡 辺 英 朗	(若狭町長)
〃	中 塚 寛	(おおい町長)
〃	戸 嶋 秀 樹	(美浜町長)
〃	谷 口 竜 哉	(小浜市副市長)

杉田玄白記念 公立小浜病院

病 院 長	谷 澤 昭 彦	(小児科)
名 誉 院 長	小 西 淳 二	(内科)
〃	吉 田 治 義	(内科)
副 院 長	廣 瀬 敏 士	(脳神経外科)
〃	鈴 木 裕 志	(泌尿器科)
副院長（兼 統括診療部長）	菅 野 元 喜	(外科・消化器外科)
診 療 部 長	荘 司 勸	(麻酔科)
〃	汐 見 雄一郎	(内科・循環器内科)
〃	原 慶 和	(小児科)
〃	服 部 由 香	(産婦人科)
〃	林 泰 生	(外科・消化器外科)
〃	土井田 誠	(歯科口腔外科)
薬 剤 部 長	白波瀬 正 樹	(薬剤師)
医 療 技 術 部 長	島 田 宏 司	(診療放射線技師)
看 護 部 長	中 村 ひとみ	(看護師)
事 務 部 長	田 邊 靖 雄	(事務職員)

公立若狭高等看護学院

学 院 長	谷 澤 昭 彦	(兼 務)
副 学 院 長	山 口 洋 子	
事 務 長	荒 木 義 智	

介護老人保健施設 アクルス若狭

施 設 長	廣 瀬 敏 士	(兼 務)
総 看 護 師 長	佐 波 由美子	
事 務 長	坂 本 孝 司	

レイクヒルズ美方病院

病 院 長	東 博 司	(内 科)
総 看 護 師 長	窪 田 裕 子	
事 務 長	乗 替 保	(～R5.5)
	田 邊 靖 雄	(R5.6～R5.9・兼務)
	木 下 達 男	(R5.10～)

院内会議・委員会一覧

【 会 議 】

組合事業運営会議

部長会議

医療安全会議

所属長会議

診療科代表者会議

病院運営会議

【 委 員 会 等】

倫理委員会

画像診断運営委員会

人事委員会

臨床検査適正化委員会

医療安全管理委員会

院内保育所運営委員会

臓器移植普及推進検討委員会

栄養治療食委員会

防災対策委員会

図書委員会

医療ガス安全管理委員会

血液浄化センター運営委員会

放射線安全委員会

患者サポート委員会

院内感染対策委員会

行動制限最小化委員会

安全衛生委員会

褥瘡対策委員会

情報システム委員会

医療機器安全管理委員会

薬事委員会

虐待防止委員会

診療録管理委員会

ハラスメント防止対策委員会

DPC(診療内容検討)委員会

リハビリテーション運営委員会

院内研修管理委員会

医療放射線管理委員会

地域医療連携委員会

医師の負担軽減および処遇の改善委員会

接遇委員会

健診センター運営委員会

広報委員会

人事評価制度運営委員会

緩和医療検討委員会

薬草園運営委員会

救命救急センター運営委員会

透析機器安全管理委員会

診療材料検討委員会

院内感染対策チーム(ICT)

医療機器選定委員会

精神科リエゾンチーム

輸血療法委員会

排尿ケアチーム

化学療法室運営委員会

栄養サポートチーム(NST)

クリニカルパス推進委員会

抗菌薬適正使用支援チーム

手術センター運営委員会

術後疼痛管理チーム

職 員 数

職員数の推移（各年度 4 月 1 日時点）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
医 師	45 (5)	52 (5)	48 (6)	52 (9)
臨床研修医（医科）	(6)	(8)	(7)	(6)
臨床研修医（歯科）				
薬剤師	10	10 (2)	12 (1)	13 (1)
診療放射線技師	12	12	12	12
臨床検査技師	14 (2)	13 (2)	15 (3)	16 (1)
歯科衛生士	1 (3)	1 (4)	1 (4)	1 (3)
管理栄養士	3 (1)	4	5	6
栄養士	3 (1)	3	3	3
理学療法士	14	18	17	17
作業療法士	14	14	15	16
言語聴覚士	3 (1)	3 (2)	4	4 (2)
臨床工学技士	7	7	7	8
視能訓練士	2	2	2	2
臨床心理士	2	2	3	3
助産師	15 (6)	14 (6)	13 (7)	11 (8)
看護師	232 (27)	243 (31)	248 (34)	256 (34)
准看護師	7 (12)	5 (12)	5 (10)	5 (10)
看護補助員	32 (15)	31 (17)	32 (14)	30 (13)
事務職員	43 (6)	45 (6)	48 (5)	48 (6)
その他職員	21 (28)	19 (34)	18 (34)	17 (36)
合 計	480 (112)	498 (129)	508 (125)	520 (129)

（ ）内は非常勤職員数を示した別掲数

医師の非常勤職員数には、他病院等からの嘱託医師数は含まず。

Ⅱ. 活動状況

1. 各部署の活動状況

内 科

[常勤医師] 汐見 雄一郎 永谷 菜穂 井上 元気 村田 陽介
田邊 陽邦 藤井 裕也 堀口 慈希 長谷川 竜也
眞田 采也加 齋藤 大雅 吉田 治義※ 吉田 美智子※
荒木 克夫※ 坂下 紗弓 井川 彰久(～R5. 9. 30)
倉掛 義之介(R5. 10. 1～) <※は嘱託医師>

[非常勤医師] (内分泌) 小西 淳二 岡本 健太郎 (神 経) 山村 修
(消化器) 高橋 和人 (肝臓) 野ッ俣 和夫
(糖尿病) 松原 靖 田中 大祐
(リウマチ・膠原病) 秋月 修治 上月 友寛 岩崎 毅
(呼吸器) 伊藤 功朗 西 健太 前谷 知毅 西岡 憲亮
(血 液) 松田 安史 細野 奈穂子 山内 英暉

【診療状況等】

当院の内科は循環器、消化器、呼吸器、腎臓、神経、糖尿病、内分泌、膠原病、血液の各専門外来があります。近隣の開業医の先生方からの紹介はもちろん、一般内科として受診された患者さんや、救急外来を受診された患者さんも適切な診療科の診療にスムーズにつながられる体制があります。また、より高次医療機関での治療が必要な場合は大学病院や他の医療機関と連携し、速やかに適切な医療を提供できる体制を整えています。

嶺南地域は全国同様に高齢化が進んでおり、急性期の疾病はもちろんのこと慢性疾患の増悪や合併症の増加、身体機能の衰えにより自宅での日常生活が遠のいてしまうことに対して、早期からのリハビリの介入、医療社会福祉士(MSW)を含めた多職種での退院調整に取り組んでいます。

予防医学の面では、一般市民の方を対象とした健康講座で胃がんをテーマに取りあげ、内視鏡検査の重要性をわかりやすく説明する機会を設けました。また市内広報誌を利用しパーキンソン病について初期の症状や注意する点について解説し受診のきっかけとなるようなアプローチを行っています。そして自覚症状がないがゆえに受診が遅れがちとなる糖尿病に関しては、専門医の尽力のもと糖尿病教育入院のパスも導入しました。

当院の内科は福井大学、京都大学、自治医科大学からの若手医師の派遣で成り立っています。専門分野以外の症例も広く学ぶため週1回のカンファレンスで症例についてのディスカッションを積極的に行い、幅広い知見をもちコミュニケーション能力の高い人材育成に努めてまいります。

<糖尿病>

当専門外来では、京都大学の糖尿病・内分泌・栄養内科から派遣される専門医により、毎

週金曜日の外来診療を行っています。他科と連携した合併症の治療と同時に、糖尿病学会認定療養指導士資格を有する管理栄養士による治療前後の栄養評価と、それに基づく食事指導を実践しており、患者さん個人の生活習慣や嗜好などを加味した個別指導を目指しています。また疾患の性格上、高い再診率が特徴ですが、近年の病診連携の充実により、紹介・逆紹介数も増えています。

<リウマチ・免疫膠原病>

毎週月曜日に京都大学の免疫・膠原病内科医が外来を行っています。

診療内容は、免疫異常の発症を基盤とする膠原病、自己免疫疾患、リウマチ疾患、アレルギー疾患などが中心となり、これら疾患の多くは、多臓器の障害を引き起こす全身性疾患であり、全身の臓器に対する幅広い見識が必要であることから、関連診療科との連携を密にとりながら、身体全体を見据えた総合的治療を行っています。

<呼吸器>

呼吸器内科は、主に京都大学呼吸器内科と連携して診療を行っています。放射線画像診断や気管支鏡検査を実施し、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、肺がんなどの診断および治療を行っています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応においても、他の内科医師と連携し診療にあたりました。

<消化器>

当科は地域の中核病院として消化器疾患を幅広く診断・治療できるよう努力しています。通年施行している上下部内視鏡検査のほかに、止血術や内視鏡的粘膜切除、また最近では内視鏡的粘膜下層剥離術も食道、胃、大腸と幅広く安全に施行しております。また胆膵領域では胆膵のスペシャリストである京都大学の非常勤医師と協力し、超音波内視鏡や内視鏡的逆行性胆管膵管造影など質の高い診療を行っています。また炎症性腸疾患や慢性肝炎、進行癌に対する化学療法のように、定期的な通院治療が必要な疾患も増えておりますので、常に新しい情報をご提供し、不安なく治療を続けて頂けるよう多職種のスタッフと協力し日々の診療に従事してまいります。

<内分泌>

毎週月・木曜日に甲状腺疾患を中心とする専門外来を開設しており、多くの患者さんが定期的に治療を受けておられます。特色のある治療としては、バセドウ病に対するアイソトープ治療を実施しています。これまでの実績を踏まえて、甲状腺学会認定専門医施設となっています。

<神経>

毎週月曜日に福井大学の神経内科専門医が外来を担当しています。当専門外来では、頭痛、めまい、しびれ、麻痺、ふらつき、物忘れ、意識障害、振戦など、様々な症状の診察、治療を行っています。パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症などの脳神経内科の疾患に対しては、診断や薬物治療だけでなく、リハビリテーションや行政機関と連携し、ご家族も含めた支援を行いました。また、認知症、脳血管障害に関しても関係各科と協力して、より充実した診療の提供をさせて頂きました。

<腎臓>

糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの原発性腎臓疾患および高血圧、膠原病や糖尿病による二次性腎障害などを対象に、検尿異常や電解質異常から腎不全まで幅広く診断治療を行っています。確定診断のための腎生検は福井大学に依頼しました。院内外で発生した末期の慢性腎臓病（CKD）および急性腎障害（AKI）の透析治療や血漿交換などには救命救急センター等各診療科と連携して血液浄化センターで受付しています。血液透析に代わる、高齢者の在宅医療に適した持続腹膜透析（CAPD）治療の管理も継続して行っています。

循環器内科

[常勤医師] 汐見 雄一郎 堀口 慈希 井川 彰久 (～R5. 9. 30)

倉掛 義之介 (R5. 10. 1～)

[非常勤医師] 木下 秀之 土井 孝浩 塩見 紘樹 牧山 武

石田 健太郎 臼井 公人

【診療状況等】

《検査治療実績》

心臓カテーテル検査および末梢血管造影など	99 件 (154 件) (前年度数値)
冠動脈ステント留置術・形成術(PCI)	63 件 (74 件)
下肢動脈ステント留置術・形成術 (EVT)	5 件 (7 件)
ペースメーカー植え込み術 (新規)	16 件 (18 件)
ペースメーカー電池交換	4 件 (16 件)
急性心筋梗塞 (DOA 等で病名としての診断を含む)	14 件 (3 件)
経皮的な肺補助装置 (PCPS/V-A ECMO)	2 件 (1 件)
植込み型心電計 (ICM)	3 件 (0 件)

循環器内科では冠動脈疾患、弁膜症、心筋疾患、心不全、不整脈、動静脈疾患に対しての診断および治療を行っております。冠動脈疾患や下肢閉塞性動脈硬化性疾患は積極的に診断と加療を進めていますが、高齢者も多くより低侵襲での精査加療を心がけております。段階を踏んで冠動脈 CT や心筋血流シンチグラフィーで虚血や病変をスクリーニングし、大きなイベントを起こす前に治療介入をします。カテーテル検査や治療もできるだけ侵襲が少なくなるように多くは橈骨動脈から行っています。予定検査の場合は 2 泊 3 日、予定治療は 3 泊 4 日で行います。高齢者が多い若狭地区では大動脈弁狭窄症を中心に弁膜症も多く、無症候性の方も多くいます。高齢者で基礎疾患があっても手術が困難でも、フレイルなどの問題がなければスクリーニングして治療希望があれば、TAVI (カテーテルによる弁置換) を福井大学循環器内科・京都大学循環器内科にて行ってもらっています。不整脈については、頻脈性不整脈のアブレーションは当院では難しい場合があるため、患者さん本人や家族の方々との相談の上、福井大学病院を中心とした専門施設に紹介を行っております。一方、徐脈性不整脈については、当院でペースメーカーの埋め込みを行っております。緊急のケースも適切に対応いたしますが、通常は 8～10 日ほどの入院後、かかりつけ医に戻りながら、ペースメーカーの管理を当院で継続しております。

私たちのチームは、最先端の医療知識と温かい心で、患者さん一人ひとりに寄り添いながら治療にあたっています。常に患者さんの立場に立ち、安心して治療を受けられるよう全力を尽くしております。これからもより良い医療サービスを提供し、地域社会に貢献してまいります。

小 児 科

[常勤医師] 谷澤 昭彦 原 慶和 佐野 正太郎 齋藤 志織

[非常勤医師] (神経) 小坂 拓也 (心臓) 岡崎 新太郎

[常勤臨床心理士] 林 晃平 蒲原 健人 高島 晋介 ※小児科・精神科兼任

[非常勤臨床心理士] 塩本 毅明 ※小児科・精神科兼任

【診療状況等】

若狭地区小児医療において当科の役割としては、地域の中の病院としての機能と専門性をもって対応する機能の2つを有していると考えます。小児期に起こるあらゆる問題に対して診断・治療をおこない、当院だけで対応できない疾患についてはその疾患の特異性を考慮した専門病院への紹介を行っています。紹介後も継続した定期フォローアップを要するものではできるだけ紹介先病院と連携して地元での役割を果たすことに力を注いでいます。

平成20年11月より小児科休日診療を開始しています。これは小浜医師会の行っている休日当番医制度と連携して、小児科標榜医以外の開業医院が当番の日には病院で小児科診療を行うというものです。これにより若狭・小浜管内では休日日中は必ずどこかで小児科医による診察が受けられるというメリットが生まれています。

小児療育センターを配し、嶺南地域で「地域で通える療育」を大切にしています。重度心身障害児、超低出生早産児の発達フォローや、神経発達症（注意欠如多動症、限局性学習症、自閉スペクトラム症など）の就学前支援、就学後の学校との連携などを行っています。小浜市では平成20年8月から小浜市内の5歳児を対象に「5歳児健康相談」を継続しており、療育の多方面からのアプローチが行われています。

周産期医療では重症合併症のない低出生体重児、病的新生児に対しての受け入れを行っています。重症児や超早産児など当科で対応が難しい症例についてはあらかじめ産婦人科より母体搬送を依頼して頂き、専門機関での治療をお願いしています。母体搬送ができない症例については応急的な処置後に新生児搬送をするという流れになっています。また通常の出産後のケアにおいては母乳育児を推進し、できるだけ母子カップルとその家族にやさしい病院でありたいと思っています。

専門外来ではアレルギー外来、腎臓外来、内分泌外来、夜尿症外来、神経発達外来、心臓外来、カウンセリング外来を実施しており、当院医師と非常勤医師、臨床心理士、小児リハビリスタッフで担当しています。不登校や摂食障害、チック症などの児童精神科領域のお子さんや思春期のこどもたちのカウンセリング治療も当院精神科と共同して取り組んでいます。

《専門外来》

アレルギー外来（週1回）、腎臓外来（月1回）、内分泌外来（月1回）

夜尿症外来（予約制）、神経・発達外来（月1回）、カウンセリング（予約制）

心臓外来（月1回）

《地域保健事業・教育関連事業》

- * 予防接種（外来）：毎週火曜日 午後（予約制）
- * 学校医・嘱託医等：小浜第二中学校学校医、嶺南東特別支援学校医
小浜市児童発達支援センター『母と子の家-CokoUta』嘱託医
- * 乳児健診（当院外来）：毎週水曜日 午後（予約制）
- * おおい町乳幼児健診（なごみ保健センター、あっとほーむいきいき館）
1歳6ヶ月児健診、3歳児健診、その他乳児健診
- * 高浜町乳幼児健診（高浜町保健センターkurumu）
1歳6ヶ月児健診、3歳児健診
- * 若狭町乳幼児健診（パレア若狭）
3歳児健診
- * 小浜市乳幼児健診（健康管理センター）
6-7ヶ月児健診、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診、5歳児健康相談
- * 小浜市就学支援委員会 委員
- * 小浜市発達障害者支援専門委員会 委員
- * 嶺南地区 SC（スクールカウンセラー）の会
年2回 ①6/25 ②12/10 両回とも小浜病院 9F 中会議室
- * こどもとそだちの相談会 相談員（主催：福井県教育委員会・嶺南教育事務所）
①2023年10月14日 嶺南教育事務所
②2024年2月3日 嶺南教育事務所

《福井県小児救急講習会》

- ①2023年11月22日 講師：佐野正太郎 おおい町こども家族館
- ②2023年11月29日 講師：佐野正太郎 若狭町パレア若狭
- ③2023年12月6日 講師：斎藤詩織 小浜市健康管理センター
- ④2024年1月11日 講師：斎藤詩織 高浜町保健福祉センター

精神科

〔常勤医師〕 鵜戸 逸友 坂井 秀至 米村 悠 山村 茂樹

〔非常勤医師〕 藤原 広臨 鶴見 孝介 諏訪 太朗 川島 啓嗣

【診療状況等】

我が国全体の問題であります。特に当院の医療圏内においては、高齢化が急速に進んでおり、外来、入院における、認知症の割合は増すばかりです。老々介護など認知症を在宅で診ていく上で、状況が逼迫することはままあり、3ヶ月程度の期間を定めて認知症患者に入院して頂くことが増えています。今後、国の病床削減の方針に対応すべく、長期入院、社会的入院の割合を減らしていきたいのですが、認知症患者の入院数増加は当科の平均在院日数を押し上げる主因となっています。

一方で急性期医療や、他科と連携した身体合併症管理やリエゾン精神医療といった総合病院の中の精神科の本来の役割も担っています。今後は近隣の医療機関などとも連携して、機能分化を進める必要があります。

0.8%～1%の有病率と言われている統合失調症に対し、難治性統合失調症治療薬のクロザピンを使用できる施設として登録されています。

発達障害圏の診療も増えてきています。薬物療法やカウンセリングの必要性は日増しに増えており、我々がより専門性を獲得していく必要があります。

【統計資料】

- ・入院 1日平均 77.8人 (74.4人)
- ・新規入院者数 99人 (95人)
- ・外来 1日平均 52.5人 (50.9人)
- ・初診 427人 (448人)

＜治療場面別＞

- ・救 急 : 18例 (21例)
- ・行動制限 : 39例 (36例)

＜治療形態別＞

- ・任 意 入 院 : 63例 (69例)
- ・医療保護入院 : 54例 (57例)
- ・措 置 入 院 : 2例 (3例)

※ () 内は前年度実績

産婦人科

[常勤医師] 服部 由香 新谷 万智子 加藤 優里 中森 あかり

[非常勤医師] 品川 明子 大沼 利通 藤田 将行 川村 裕士 宮崎 由美子

【診療状況等】

当年度の外来患者数（妊婦健診を除く）は1日平均 36.5 人、入院患者数は1日平均 9.7 人でした。

外来では、妊婦健診が延べ 2,790 件、エコー検査（妊婦健診を除く）が 2,907 件、がん検診（健診センター業務外）が 1,341 件、人間ドック等の検診業務が 382 件でした。

また、助産師による母乳外来では延べ 411 件の患者さんが施術を受けられました。

分娩数（22 週以降）は 233 例で、内、帝王切開は 41 例（17.6%）でした。帝王切開の半分は緊急帝王切開でした。母体合併症や早産のための母体搬送は 15 件あり、13 例は福井大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターで、また、2 例は他施設で受け入れして頂きました。

手術センター管理の手術件数（帝王切開術を除く）は 43 例でした。

【手術症例数】

帝王切開	41 例
子宮外妊娠	1 例
子宮摘出（筋腫・腺筋症）	腹腔鏡下 5 例 ・ 開腹 1 例
子宮頸がん（含 前癌）	円錐切除術 6 例
子宮体がん（含 前癌）	開腹 0 例
卵巣腫瘍（開腹/良性）	腹腔鏡下 7 例 ・ 開腹 1 例
卵巣がん	0 例

個別検診（市町からの補助金助成あり）は毎年 5 月～翌年 1・2 月まで（締切は市町により異なります）におこないます。

締切日が近くなると、みなさん受診され、待ち時間が長くなりますし、月経が重なってしまい検査を受けられない場合もありますので、期日にゆとりをもたせた受診をおすすめします。

外 科 ／ 消化器外科

〔常勤医師〕 菅野 元喜 林 泰生 前田 敏樹
 岸 和樹 渡辺 倫夫 平山 楓
 山本 晃平

【各領域別手術件数】

過去3年間の消化器外科手術件数	2021年		2022年		2023年	
1 全手術数（外来手術含む）	341		374		447	
2 鏡視下手術（補助下手術含む、EMR・ESD除く）	238		280		336	
3 全麻手術数	278		330		372	
4 緊急手術数	42		74		84	
5 術式別手術件数	全	鏡視下	全	鏡視下	全	鏡視下
-1 食道癌切除術	0	0	1	1	0	0
-2 幽門側胃切除術（幽門保存切除術含む）	17	15	8	7	9	9
-3 胃全摘術（噴門側胃切除術含む）	4	4	2	1	6	4
-4 結腸切除術	43	36	34	30	55	49
-5 直腸前方切除術	3	3	9	9	12	12
-6 直腸切断術	1	1	1	1	3	3
-7 肝切除術（葉切除以上）	0	0	0	0	0	0
-8 肝切除術（区域・亜区域切除術）	4	3	2	1	2	2
-9 肝切除術（上記以外）	8	8	6	4	7	4
-10 膵頭十二指腸切除術	0	0	0	0	0	0
-11 膵体尾部切除術（胃癌手術に伴うものは除く）	0	0	0	0	0	0
-12 膵切除術（その他）	0	0	0	0	0	0
-13 胆嚢摘出術	50	50	66	63	73	70
-14 脾摘術	0	0	0	0	1	1
-15 虫垂切除術	27	27	33	33	26	26
-16 ヘルニア手術（小児除く）	61	44	61	53	78	67
-17 良性肛門疾患に関する手術	19	2	17	0	15	0
-18 小児外科手術（ヘルニア含む）	6	5	8	8	10	10
-19 乳腺外科手術	10	0	15	0	12	0
-20 呼吸器外科手術	11	11	6	6	12	12

【診療状況等】

I 呼吸器外科

〔呼吸器外科最近の話題〕

呼吸器手術での周術期管理の工夫：人工気胸下両側肺換気胸腔鏡手術の開発

- 特徴： 1.気胸手術では責任病変の確認が容易で、隠れたブラ・ブレブの検出・処理にも有利。
- 2.肺胞蛋白症のように末梢型の局在性びまん性肺病変では病変の確認は容易。
- 3.呼吸機能不良症例で1側肺換気は不能であったが安全に手術が完遂可能。

〔呼吸器外科 肺癌・縦隔腫瘍 治療方針〕

肺癌手術適応：非小細胞肺癌 cStage I～IIIA, 限局型小細胞肺癌 cStage I

I	胸腔鏡を先行し、胸膜播種・切除不能が想定される脈管・気道・胸壁浸潤・肺内転移の有無を確認（試験胸腔鏡）
II	上記がなく、胸腔鏡下手術が可能な場合には胸腔鏡下手術
III	上記がなく、胸腔鏡下手術の難易度が高い場合には、開胸下により手術施行
IV	上記が確認されても、コントロール不能の気道閉塞による感染・出血等を伴う場合には、胸腔鏡下あるいは開胸下により手術施行（サルベージ手術）

II 食道外科

〔食道外科 食道癌 治療方針〕

0	食道癌胸腔鏡下手術適応：cT4を除く cStage I～IVa 症例（食道癌取扱い規約第10版）
I	胸腔鏡・腹腔鏡を先行し、胸膜播種・腹膜播種・肺転移・肝転移・切除不能が想定される脈管・気道浸潤の有無を確認（試験胸腔・腹腔鏡）
II	上記がなく、鏡視下手術が可能な場合には胸腔・腹腔鏡下手術
III	上記がなく、cT4 あるいは bulky cT3 症例等鏡視下手術の難易度が高い場合には開胸・開腹下に手術施行
IV	上記が確認されても、通過障害・出血等を伴う場合には、胸腔・腹腔鏡下あるいは開胸・開腹下に切除ないしバイパス手術施行（サルベージ手術）

III 乳腺外科

〔乳腺外科最近の話題〕

2022年3月 トモシンセシスマンモグラフィー装置及び臥位マンモトーム検査台を導入。より精緻なマンモグラフィー検診が可能となりました。また、ステレオガイドマンモトーム検査でも臥位で検査を施行でき患者さんの負担を軽減可能となりました。

遺伝性乳癌・卵巣がん症候群検査開始

乳腺外科・段階的乳癌精密検査

1) 触診・マンモグラフィー (MMG) 検査・超音波 (US) 検査

トモシンセシスマンモグラフィー装置導入 (2022 年 3 月)

2) 乳腺カンファレンス：読影認定医を中心に外科スタッフ全員で判定を行います。

3) MR 検査：良悪の判定が難しい場合には、MR 検査で病変への造影剤の流入速度を測定し判定

4) 超音波(US)ガイド CNB(Core-Needle Biopsy)/ステレオ(MMG)ガイドマンモトーム生検：癌が疑わしい場合には、局所麻酔下に小さな標本を摘出し病理組織診断（顕微鏡検査）で診断を確定します。

臥位マンモトーム検査台導入 (2022 年 3 月)

5) PET 検査：乳癌の診断が確定した場合には PET 検査で全身の転移、他臓器癌合併の有無を確認し、最善の治療を御提示し、治療方針を相談します。

[手術方針]

I	高度進行癌に関しては NAC (Neo-Adjuvant Chemotherapy ; 術前補助化学療法) を先行し腫瘍の縮小を図り根治を目指す
II	乳房切除・温存療法 (部分切除)・再建に関しては患者さんの希望で選択
III	リンパ切転移の可能性が高い場合にはリンパ節郭清を付加
IV	リンパ切転移の可能性が低い場合にはセンチネルリンパ節生検で診断を確定、転移を認めた場合のみにリンパ節郭清を付加

IV 胃外科

[胃外科最近の話題]

抗がん剤、特に分子標的治療薬の胃癌術後の生存期間延長効果が明らかとなり、また、腹腔鏡下緩和・サルベージ手術に CD-IIIa 以上の合併症が認められず、今後も全身状態の悪化を伴うような高度進行胃癌に対し低侵襲腹腔鏡下緩和・サルベージ手術を継続してゆく方針としました。

[治療方針]

1) 穿孔性胃・十二指腸潰瘍等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく、低侵襲な腹腔鏡下手術の適応としています。

2) 胃癌等悪性疾患に対しては進行度に応じて、内視鏡治療 (EMR/ESD)、腹腔鏡下手術、開腹手術、化学療法等を選択しますが、術前補助化学療法でダウンステージを計り根治を目指し、また、出血・狭窄のコントロールが難しい場合には手術を先行することもあります。

いずれにしても患者さんの負担を最小限にとどめ侵襲の少ない治療に努めています。

〔胃癌 手術方針〕

I	腹腔鏡下手術適応：内視鏡外科診療ガイドライン 2014 年版推奨の深達度が固有筋層に止まり(M～MP)/リンパ節転移も領域リンパ節に 1～2 個に止まる(N0・1) ような c-Stage IA/IB 症例(胃癌取扱い規約 14 版)(LTG/LPG/LDG: 腹腔鏡下胃全摘/噴門側/幽門側胃切除術)
II	肝転移・腹膜播種等を伴うような c-StageIV 症例でもコントロール不能の狭窄・出血等を伴う場合には腹腔鏡下手術適応可能(緩和・減量・サルベージ手術)
III	その他は開腹下に手術

V 大腸・肛門外科

〔大腸外科最近の話題〕

最近の虫垂炎治療の趨勢は待機的虫垂切除術(Interval appendectomy)が優勢となってきましたが、これを採用する際の当院における手術症例の病理学的検討から、75 歳以上の高齢者に虫垂癌の合併が有意に多いことが明らかとなりました。

〔治療方針〕

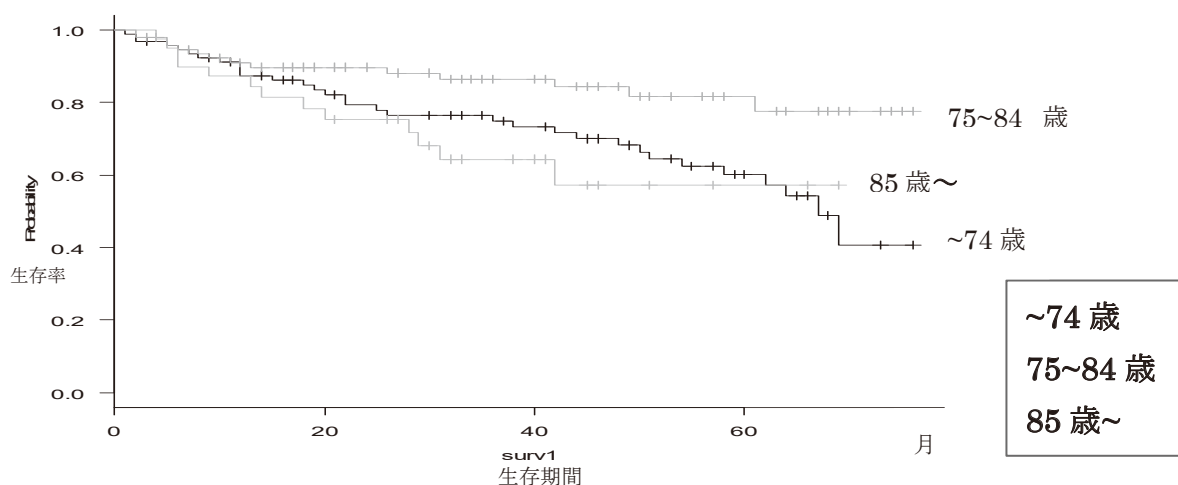
- 1) 虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞(イレウス)等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく、低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 虫垂炎に関しては保存的加療により切除範囲を縮小可能な Interval appendectomy も積極的に導入しています。
- 3) 大腸・直腸癌等悪性疾患に対しては進行度に応じて、内視鏡治療(EMR/ESD)、手術、化学療法を選択します。手術に関しては、部位に関わらず他臓器合併切除を要するような巨大腫瘍以外は腹腔鏡下手術を原則としますが、切除不能例や高度進行症例では術前化学放射線療法でダウンステージを計り根治を目指し、また、出血・狭窄のコントロールが難しい場合には、手術を先行することもあります。また、未治療糖尿病例・長期ステロイド投与例や直腸超低位前方切除術症例等縫合不全が心配される場合には一時的に人工肛門を造設することもあります。

いずれにしても低侵襲治療を旨とし、永久人工肛門は可能な限り回避するよう心掛けています。

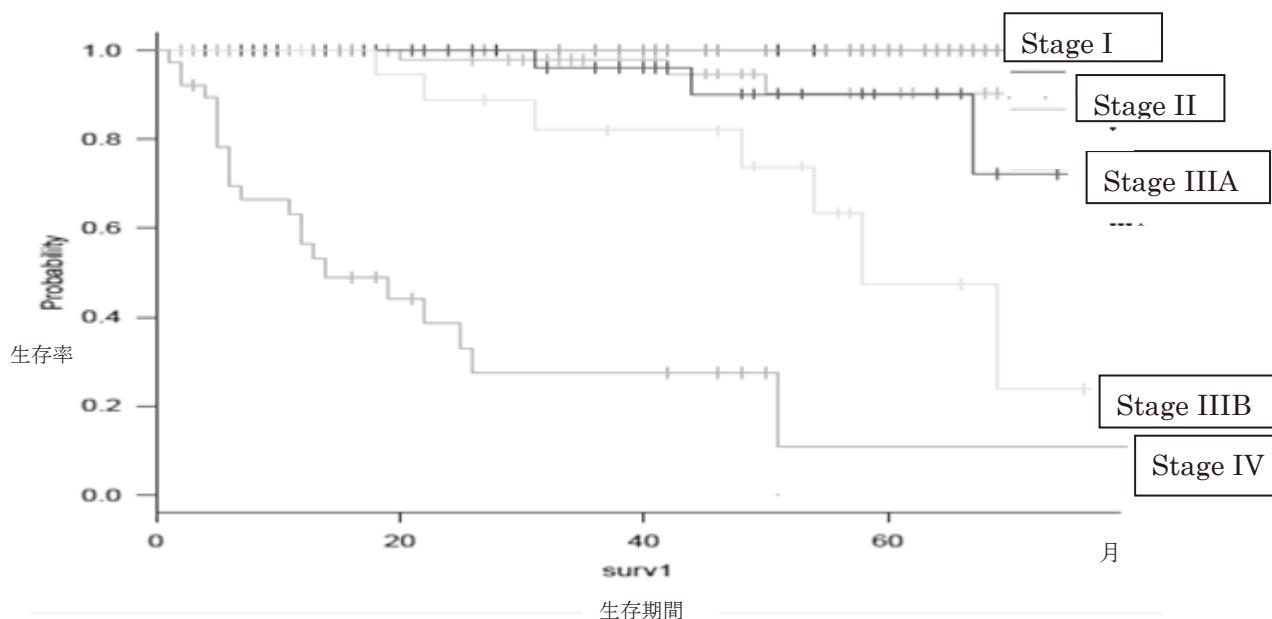
〔大腸・直腸癌手術・治療方針〕

I	c-Stage ・部位に関わらず、腹腔鏡下手術が可能で合併切除を要したり、標本摘出に大開腹を要するような巨大腫瘍以外は腹腔鏡下手術適応
II	上記以外は開腹手術適応
III	切除不能例や高度進行症例では術前化学放射線療法でダウンステージを計り根治を目指す
IV	出血・狭窄のコントロールが難しい場合には手術を先行する
V	下部吻合例では一時的人工肛門造設や経肛門減圧チューブ留置を行うこともある

当院年齢階級別生存曲線
(~74 歳:75~84 歳:85 歳~)



大腸癌・直腸癌ステージ別生存率



VI 肝臓外科

〔治療方針〕

- 1) 巨大肝嚢胞・肝膿瘍・肝外傷等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 肝癌に対しては腫瘍サイズ・部位・進行度・肝予備能に応じて、肝切除術、RFA（ラジオ波焼灼療法）、TACE（肝動脈化学塞栓療法）、全身化学療法を選択します。
- 3) 手術（肝切除）に関しては術前肝機能で *Child-Pugh* 分類 A を適応とし、葉切除以上では残肝ボリュームメトリーによる残肝機能の評価を前提とし、50%以下の場合

は術後肝不全を回避するため経皮経肝門脈塞栓術(PTPE)で残肝機能の改善を図り安全に切除ができるよう心掛けています。アプローチは開腹が原則で、外側区域切除・肝表面の部分切除のみを腹腔鏡下に施行しています。

- 4) また、根治切除を目指し切離断端から 2mm 以内に腫瘍が存在した場合には露出がなくても病理組織診断では断端陽性としています。

〔肝癌手術・治療方針〕

0	術前肝機能 <i>Child-Pugh</i> 分類 A
I	術前診断で確実に切除可能と判断される悪性腫瘍に関しては最初から開腹下に肝切除術を施行
II	上記 I 以外は、腹腔鏡観察下（試験腹腔鏡）に多発肝転移・腹膜播種がなく切除可能と判断された場合には、開腹下に肝切除術を施行
III	上記 II のうち、切除範囲が外側区域切除・肝表面の部分切除にとどまる場合は腹腔鏡下切除も可とする
IV	病理組織診断：2mm 以内断端陽性

VII 膵・胆道外科

〔治療方針〕

- 1) 胆石症、膵・胆道良性腫瘍等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 膵・胆道癌等悪性疾患に関しては進行度に応じて手術、化学療法を選択しますが、非常に悪性度が高く早期より肝転移・腹膜播種を伴うことも多いため手術に際しては大きな開腹創が無駄とならないよう先行試験腹腔鏡を原則としています。切除が不能であっても出血・狭窄を伴い摂食不能・黄疸等を認める場合にはバイパス手術を施行したり、ステント留置後に化学療法を開始することもあります。

〔膵・胆道癌手術治療方針〕

I	術前診断で確実に切除可能と判断される悪性腫瘍：最初から開腹下に膵頭十二指腸切除術 PD、膵体尾部切除 DP、膵全摘、胆管切除術
II	上記以外：腹腔鏡観察下（試験腹腔鏡）に肝転移・腹膜播種がなく、さらに大網等の膵臓周囲の剥離により肝動脈・上腸間膜動脈・門脈等への腫瘍の明らかな浸潤がなく切除可能と判断された場合には、開腹後に膵頭十二指腸切除術 PD、膵体尾部切除術 DP、膵全摘術、胆管切除術（膵・胆道悪性腫瘍手術）
III	腹腔鏡観察で切除不能と判断された場合には、試験腹腔鏡のみとするか、通過障害・出血を伴う場合には、腹腔鏡下あるいは開腹下にバイパス手術を施行
IV	膵体尾部の良性疾患（膵ラ氏島腫瘍・IPMA 等）：腹腔鏡下膵体尾部（・脾合併）切除術適応可

整形外科

〔常勤医師〕 竹野 建一 坂下 輔 渡邊 裕美子

〔非常勤医師〕 入江 善二 小久保 安朗 長谷 健司 渡邊 修司

【診療状況等】

常勤医師 3 名と非常勤医師による体制を継続しており、初期治療につきましても、当院でしっかりと診療させていただきます。

外来は初診、再診に分かれ、あらゆる整形外科領域の症例を治療しております。

高齢化社会の昨今、転倒による骨折、骨粗鬆症、変形性疾患、廃用症候群の増加がみられており、少ない医師で対応しなければならないことに歯がゆさを感じておりますが、福井大学医学部附属病院や地域の診療所の先生方と連携し、患者さんに良質な医療を提供できるように努めてまいります。

手術は外傷を中心とし、変形性関節症に対する人工関節術、関節鏡手術、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術、ヘルニア摘出術も適応に応じて行なっています。

症例によっては福井大学医学部附属病院整形外科より非常勤医師に来て頂き、手術を行なっています。今後も他科の先生方と協力して充実した診療を行ってまいります。

手術件数 ※手術センター施行のみ計上

術式	令和 4 年度	令和 5 年度
観血的骨接合術(骨折)	151	136
腱鞘切開術	47	31
人工骨頭置換術（股関節）	32	32
人工膝関節置換術	18	15
人工股関節置換術	7	9
経皮的鋼線刺入術（骨折）	10	7
腰椎椎間板摘出術	0	0
その他	86	57
計	351	287

形成外科

〔非常勤医師〕 片山 泰博

【診療状況等】

毎週火曜日に京都大学形成外科所属の医師が、皮膚科をはじめ院内各科と連携し診療を行っています。小浜病院では外来診療に引き続いて、午後に手術も行っています。

形成外科の診療内容は、頭から足先まで多岐に渡りますが、当院では主に次の項目について治療を行っています。

手術は手術センターでの局所麻酔手術を基本にしています。

手術の内容、必要とする医療機器によっては、他施設を紹介させて頂くことがあります。

1. 皮膚の外科として皮膚のがんや、皮膚腫瘍・皮下腫瘍の摘出・切除の手術
2. あざ（単純性血管腫;毛細血管奇形、いちご状血管腫;乳児血管腫、太田母斑）などの治療
3. きず（創傷）の外科として、皮膚潰瘍や手術後の創部の治療
4. 顔面の骨折（頬骨、鼻骨など）の治療
5. 顔面・手足の先天奇形の治療
6. 陥入爪（まきづめ）のワイヤー治療（3TO ; VHO 法）

【手術件数】 91 件（前年度 86 件）

脳神経外科

[常勤医師] 廣瀬 敏士 荒井 大志 萩原 峻太

[非常勤医師] 松田 謙 木戸口 正宗

【診療状況等】

脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症などを含め、脳神経外科疾患全般に対し、ガイドラインに準拠しながら、良質で新しい医療を提供できるように心がけています。

2021年度より新しい血管撮影装置を導入し、患者さんの負担を軽減し、より一層安全で確実な血管内治療、脳血管撮影検査を提供していきます。

また臨床での知識・技術の見識を広げるため、当院で経験した症例に対する学会発表や論文作成なども積極的に行っています。

今後も嶺南地域の一次脳卒中センターおよび脳神経外科施設として脳神経外科一同で力を合わせ、手術治療、外来診療により力を発揮していきたいと思いをします。

【手術統計】

2023年4月1日～2024年3月31日

○直達手術 53例

脳血管障害	破裂脳動脈瘤開頭クリッピング術	2例
	開頭血腫除去術	5例
	定位脳内血腫除去術	1例
脳腫瘍	定位脳腫瘍生検術	2例
外傷	開頭血腫除去術	6例
	慢性硬膜下血腫穿頭術	17例
水頭症	VP シャント術	4例
	LP シャント術	5例
その他	頭蓋形成術	3例
	脳室ドレナージ術	1例
	気管切開術	4例
	異物除去術	3例

○血管内手術 28例

脳血管障害	破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	4例
	未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	1例
	機械的脳血栓回収術	7例
	頸動脈ステント留置術	6例
	血管拡張薬動注療法	10例

心臓血管外科

〔非常勤医師〕 福井 伸哉 田邊 佐和香 高森 督

【診療状況等】

心臓血管外科は、福井大学の応援協力を得て、毎月第 2 および第 4 金曜日に外来診療を行っています。

当科の主な診療疾患は、心臓疾患（虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患、虚血性・拡張性心筋症）、大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）、末梢動脈性疾患（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病）、静脈性疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤）となっており、これらの疾患への外科的治療の必要性についてのご相談や、手術後の外来通院加療を行っています。

また心臓・大血管の治療に対しては術前に詳細な検査が必要となりますので、循環器内科と連携を取りながら行います。

当科では患者さんの心臓・血管に関する相談にも十分に対応し、ご希望に応じて適切な検査や治療等についてアドバイスさせて頂いています。

眼 科

[常勤医師] 柿本 宙志

[非常勤医師] 稲谷 大 小森 涼平 折井 佑介 眞田 侑季

【診療状況等】

常勤医師 1 名、福井大学眼科学教室からの応援医師 3 名、看護師 1～2 名、視能訓練士 2 名、補助員 1 名、受付 1 名で診療を行っております。

外来患者数は 1 日平均 49.2 名、入院患者数は 1 日平均 1.8 名でした。

眼科診療は、午前中は一般外来、午後からは手術、視野検査、コンタクト外来などを行っており、外来での診療検査機器は、ハンフリー視野計、蛍光眼底造影カメラ、網膜光干渉断層計、角膜内皮細胞数測定計、前房フレア値測定装置、角膜形状測定装置などがあり、様々な疾患の診断や治療効果の評価に対応することができます。

(第 1・3 月曜日 午後、水曜日 午後)

コンタクトレンズ外来を行っており、ハード、ソフト及びディスポーザブル等、各種類の処方を行っています。また第 2・4 水曜日には、メーカーの技術員が来院しており、コンタクトレンズの微調整や特殊なオーダーメイドなどもできます。

(火・木曜日 午後)

手術日となっており、主に白内障の手術を行っています。

(第 2・4・5 月曜日 午後、金曜日 午後)

主に白内障手術説明会、視野検査などを行っています。白内障手術説明会は予約制としており、白内障についての説明、手術方法及び合併症などの説明に十分な時間をかけて、患者さんと家族の方々によくご理解して頂くように努めています。

【手術件数】

水晶体再建術	280 件
緑内障手術（流出路再建術）・水晶体再建術	13 件
緑内障手術（眼内ドレーン挿入術）・水晶体再建術	29 件
結膜嚢形成術（部分形成）	2 件
硝子体内注射	184 件
翼状片手術（弁移植）	3 件
眼瞼内反症手術	2 件
結膜腫切除術	1 件
計	514 件

耳鼻いんこう科

〔常勤医師〕 富田 かおり 宮崎 悠人

〔非常勤医師〕 藤枝 重治 成田 憲彦 高林 哲司

岡本 昌之 意元 義政

【診療状況等】

常勤医師は、令和4年度から引き続き、富田・宮崎の2名体制です。外来は1診のままなので曜日と時間を決めて交代で外来診療を行っています。副鼻腔手術にナビゲーションシステムを導入し、より安全確実な副鼻腔手術が可能となっています。コロナ禍以来、上気道を扱う耳鼻いんこう科でしたが、嚴重な感染対策の元に通常の診療を継続し、明らかな感染の拡大はありませんでした。

若狭地域には耳鼻咽喉科医が少ない為、身近な耳鼻咽喉科として地域の方々のお役に立てるよう努力を続けてまいります。

【統計資料】

手術件数（外来手術や病棟処置は含まない。左右のある手術については片側を1として計上）

【耳】

鼓膜切開術	41
鼓膜チューブ挿入術	38
外耳道異物除去術	13
鼓膜形成手術	1
鼓膜穿孔閉鎖術	1
アブミ骨摘出術・可動化手術	2
鼓室形成手術	1

【鼻】

内視鏡下鼻中隔手術1型	34
内視鏡下鼻腔手術1型	29
経鼻腔的翼突管神経切除術	20
内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型	3
内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術4型	22
鼻腔粘膜焼灼術	19
鼻骨骨折徒手整復術	3
鼻茸摘出術	1

【口腔咽頭喉頭】

口蓋扁桃手術（摘出）	11
喉頭・声帯ポリープ切除術	10
軟口蓋形成術	8
扁桃周囲膿瘍切開術	7
気管切開術	4
深頸部膿瘍切開術	2
咽頭異物摘出術	2
嚥下機能手術（喉頭気管分離術）	1
舌悪性腫瘍手術（切除）	1

【頭頸部】

リンパ節摘出術	10
甲状腺部分切除術（片葉）	2
甲状腺悪性腫瘍手術	2
甲状腺部分切除術（両葉）	1
頸癭、頸嚢摘出術	1
頸部郭清術（片側）	1
耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	1
唾石摘出術（表在性）	2
頬骨骨折観見的整復術	1

総計 306

入院患者数（病名別）

めまい症	26	急性扁桃炎	9	COVID-19	4
突発性難聴	3	急性咽頭喉頭炎	8	その他	7
顔面神経麻痺	5	扁桃周囲膿瘍	10	手術患者	103
睡眠時無呼吸症候群	26	悪性腫瘍	5	総計	206

皮 膚 科

[非常勤医師] 澤井 孝宏 三宅 俊哉 浦田 陽一郎
 入江 浩之 勝尾 公祐 千田 晃嘉

【診療状況等】

さわい皮ふ科クリニック（美浜町）の澤井医師、京都大学皮膚科からの応援医師により、外来診療を行っています。

また外来以外でも、京都大学皮膚科医師 による週 1 回の褥瘡回診と月 1 回の褥瘡ケース・カンファレンスを実施しています。

【統計資料】

延べ外来患者数 7,267 人（前年度 6,082 人）

1 日平均外来患者数 30.0 人（前年度 25.1 人）

泌尿器科

[常勤医師] 鈴木 裕志 高原 典子 勝木 舞結

[非常勤医師] 多賀 峰克 関 雅也 福島 正人

【診療状況等】

1) 診療全般

令和 5 年度は手医師が 1 名増員となり、3 名体制で診療しました。

2) 外来診療

令和 5 年度の外来診療目標は、患者 1 人当たりの単価増加、検査件数の前年度比 10%増でした。1 日平均外来患者数は 38.3 人と前年度から増加はありませんでしたが、検査件数では膀胱鏡検査は 199 件から 210 件 (5%増)、超音波検査は 917 件から 1,254 件 (37%増)、尿流測定は 74 件から 86 件(16%増)、CT 検査は 339 件から 391 件(15%増)となり、ほぼ目標を達成しました。また、外来での抗がん化学療法のものべ件数は 44 件から 71 件(61%増)と増加しました。結果として、診療単価は 296 円増となり、保険分累計では 2,143 千円の増収となりました。

3) 入院診療

令和 4 年度と比較して、入院患者数累計では 285 人の減少となり、1 日平均入院患者数は 11.1 人から 10.3 人に減少しました。しかし、診療単価の増加により保険分累計では 1,256 千円と軽微な増加になりました。

4) 手術件数 (1 月～12 月) 表

手術総件数は令和 4 年度と比較すると 151 件から 169 件に増加しました。ロボット支援下手術が主流となってきた前立腺全摘除術や膀胱全摘除術は昨年度同様に実施する症例はありませんでした。膀胱癌や尿路結石に対する内視鏡手術件数は大きな変化はありませんでした。一方、前立腺肥大症に対する内視鏡手術が著明に増加しました。新型コロナウイルス感染症が蔓延していた間、薬物療法で治療していた前立腺肥大症の方の手術希望が増加したためと考えます。経尿道的尿管ステント留置術の増加はメタルステントの留置や外科手術時の蛍光尿管カテーテル留置が増加し、手術センターで実施することが増加したためです。手術センターで実施する手術以外の短期滞在手術である前立腺針生検は令和 4 年が 49 件に対して令和 5 年では 42 件とやや減少しました。一方、内シャントの狭窄に対する経皮的血管拡張術(PTA)は 40 件から 43 件に増加しました。

5) 令和 6 年度の目標

- (1) 外来診療 ・ 外来患者数の増加 (前年度 10%増)
 ・ 外来検査件数の増加 (前年度 5%増)
 ・ 指導管理料等の増加
- (2) 入院診療 ・ 内視鏡手術件数の増加
 ・ クリニカルパスの見直し

【手術統計】

手術名	2019	2020	2021	2022	2023
経尿道的膀胱腫瘍切除術	22	40	30	32	32
体外衝撃波碎石術（ESWL）	33	18	25	25	26
ブラッドアクセス造設術	25	22	17	13	13
経尿道的尿管碎石術（TUL）	30	27	16	21	21
尿道ステント前立腺部尿道拡張術	9	5	14	7	6
経尿道的前立腺つり上げ術	0	0	0	0	1
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	5	6	12	5	17
経尿道的膀胱結石摘出術	3	5	7	6	4
経尿道的尿管腫瘍切除術	0	0	0	4	2
経尿道的尿管ステント留置術	3	2	5	9	14
包茎手術（環状切開術）	5	5	5	1	3
停留精巣固定術	1	1	4	0	0
経皮的腎・尿管碎石術（PNL）	3	0	3	0	0
精巣固定術（精巣捻転に対する）	1	1	3	2	0
尿道異物摘除術	0	0	2	1	0
経尿道的電気凝固術	3	1	2	3	10
根治的腎摘除術（鏡視下）	1	0	2	1	0
尿管鏡検査	1	0	2	7	0
経皮的腎生検	0	0	1	1	1
陰嚢水腫手術	2	2	1	0	4
外尿道腫瘍切除術	0	1	1	0	2
経尿道的尿管ステント抜去術	0	1	1	0	0
経尿道的尿管狭窄手術	0	3	1	2	3
経皮的腎瘻造設術	3	1	1	1	2
高位精巣摘出	2	2	1	2	2
腎尿管全摘膀胱部分切除術（鏡視下）	2	4	1	2	4
尿管皮膚瘻造設術（膀胱全摘除術を伴うもの）	0	2	1	0	0
膀胱全摘除術（開腹）	0	2	1	0	0
膀胱瘻設置術	1	1	1	1	0
前立腺全摘除術（開腹）	2	0	0	0	0
その他の手術	8	5	0	5	2
計	165	157	160	151	169

手術センター・麻酔科

[常勤医師] 荘司 勸 内野 絢子 宗石 啓和

[非常勤医師] 松田 富雄 田邊 毅 小柳 覚 福岡 直
 白塚 秀之 田中 弓子 山岸 一也 松木 悠佳
 齊藤 律子 佐上 祐介

[臨床工学士] 2 名 [看護職員] 17 名 [看護補助員] 1 名

【診療状況等】

当年度の手術件数は 1,803 件であり、その内、麻酔科管理症例は 787 件となっており、麻酔科管理件数は増加しております。

手術センターでは、看護師による術前・術中・術後訪問を実施することにより患者さんと家族の方々の不安・心配の軽減に努め、また、薬剤師による手術センターの医薬品管理、臨床工学技士による医療機器の管理など、より安全に周術期管理ができる様に努めています。

また、令和 5 年より医師・看護師・薬剤師による術後疼痛管理チームを作り、術後の痛みの軽減に努めています。

【麻酔種別手術センター手術件数】（前年度件数）

全身麻酔 726 件（ 649 件）

脊椎麻酔 188 件（ 235 件）

局所麻酔 845 件（ 909 件）

硬膜外麻酔 3 件（ 21 件）

伝達麻酔 41 件（ 43 件）

その他 0 件（ 0 件）

計 1,803 件（1,857 件）

放射線科

[常勤医師] (画像診断) 川上 悟司 吉川 大介

(放射線治療) 丸山 市郎

[非常勤医師] 岡沢 秀彦

【診療状況等】

放射線科は、令和 5 年度は常勤 3 名、非常勤 1 名の体制で診療を行いました。

放射線診断部門では、常勤医師 2 名による CT・MRI の読影、血管造影、IVR と非常勤医師 1 名による核医学診断を行いました。核医学診断、単純 X 線写真、上部消化管検査、注腸検査、時間外および診断医の多忙時の読影は遠隔診断システム（京都プロメド）にて対応しました。

放射線科の装置では、X 線 TV システムと 256 列の MDCT 装置の更新がありました。X 線 TV システムの更新により、高精細な透視画像による各種の IVR 手技が可能となりました。更に、患者さん及び術者の被ばく線量の低減が可能となります。MDCT 装置が 256 列の検出器になり、検査時間の短縮と体動等による画質の低減、作成画像の鮮明化が図られました。

従来同様に、256 列 MDCT、1.5 T の全身用 MRI、PET-CT、SPECT-CT、心臓・脳血管用フラットパネル血管造影装置、フラットパネル X 線 TV システム、CR 一般撮影装置により撮像された画像に対して診断を行いました。モニター診断による画像読影と電子レポートの配信を行いました。

放射線治療部門では、常勤医師 1 名による放射線治療を行いました。内訳は、表に示す通りです。今後も、がんの集学的治療の選択枝の一つとして放射線治療を実施することで、地域の医療に貢献したいと考えています。

【統計資料】

検査件数

	CT	MRI	PET-CT
令和 3 年度	10,906	3,672	297
令和 4 年度	11,356	3,628	322
令和 5 年度	11,962	3,603	405

新規に放射線治療（体外照射）を開始した患者数

(人)

	診療科別
内科	19
外科	11
院外	11
泌尿器科	5
耳鼻科	3
整形外科	2
計	51

(人)

	疾患別
乳がん	19
骨転移	8
肺がん	6
前立腺がん	3
喉頭がん	3
骨髄腫	2
食道がん	2
悪性リンパ腫	2
直腸がん	1
横紋筋肉腫	1
尿管がん	1
胃がん	1
胃 MALT	1
脳転移	1
計	51

救命救急センター・救急総合診療科

〔センター長〕 大森 啓子

〔常勤医師〕 四本 仁寛 和田 亨 桑村 紀子 辻本 佳久

〔看護職員〕 29名 〔その他〕 2名

【診療状況等】

大森・四本・和田・桑村・辻本の5人体制です。四本・和田・桑村は若狭に根付いて、ますます頑張ってくれています。辻本は小浜病院救急医として4年目で、スタッフ、初期研修医にも慕われています。

前年度に引き続き5人体制で、内科・外科の先生方をはじめ、様々な診療科の先生、地域の先生方に救急診療を助けて頂いています。これまで以上に小浜病院の救急外来診療を充実させ、地域の方々、当院職員に愛され、頼りにされるよう頑張っていきたいと思います。

【統計資料】

月別	令和4年度		令和5年度	
	患者数	うち救急搬送	患者数	うち救急搬送
4月	1,199	133	927	149
5月	1,298	149	1,130	135
6月	1,020	135	1,005	134
7月	1,745	158	1,447	159
8月	1,919	206	1,494	195
9月	1,345	125	1,348	178
10月	1,214	152	1,174	149
11月	1,404	141	1,046	129
12月	1,674	182	1,330	163
1月	1,399	163	1,561	181
2月	990	139	1,275	114
3月	1,092	168	1,056	138
合計	16,299	1,851	14,793	1,824

病 理

[非常勤医師] 内木 宏延 山口 愛奈

【診療内容等】

病理組織診断件数は、昨年度 1,569 件と比べ、今年度 1,814 件と増加しました。提出科別には、内科・循環器科(41%)、外科(23%)、婦人科 (10%)、泌尿器科 (6%) 口腔外科 (5%)、その他の科となっています。検査材料別には、生検・ポリペクトミー等（消化器・呼吸器・泌尿・生殖器・乳腺・口腔・皮膚他）が 74%を占め、手術検体・腫瘍等の摘出検体が 26%の比率となっています。

術中迅速病理診断は 17 件で、内容は、乳腺腫瘍・センチネルリンパ節 (12)、消化器腫瘍 (4)、肺腫瘍 (1) となっています。術中迅速病理診断は、ごく限られた検体（範囲）から特殊な手法により直ちに標本を作製するため、かなり制限された条件下の病理診断となりますが、診断精度の維持・向上に努めています。

また、病理診断の一部である細胞診検査に関しては、当院の細胞検査士（スクリーナー）への指導・ディスカッションを行なっています。現在、細胞検査士が 2 名常勤しており、所要時間（日数）・処理能力・診断技術面で日々、向上に努めています。

悪性腫瘍（がん）の発見・診断・治療にとって細胞診検査はきわめて重要なものであり、今後ますます必要性が高まっていくと考えられます。地域の中核医療機関として今後もこの態勢を維持することが期待されます。

病理解剖（剖検）については、非常勤のため剖検自体を担当（執刀等）することは困難ですが、ホルマリン固定後臓器の検索・標本作製・病理診断を行なっています。C P C（臨床病理検討会）は、一般的にはこのような病理解剖例について解剖で得られた知見を、医師をはじめとする多くの関係スタッフで共有し、今後の診療に活かすために行なわれますが、今年度はありませんでした。

現在、病理医の診断日は週 2 日となっています。患者様への治療がより速く開始される様、臨床との連携を図りつつ、迅速な診断報告に努めていきたいと考えます。

歯科口腔外科

〔常勤医師〕 土井田 誠 水井 工 片岡 辰明

〔歯科衛生士〕 5名

【診療状況等】

歯科口腔外科では、消化器・呼吸器の入り口である顎・口腔の形態と機能のより良い保全に向けて医療の提供を行っております。令和5年度の外来患者数は1日平均52.3（前年54.5）人、新規入院患者数は年間89（前年75）人、入院手術件数は年間87（前年77）件うち全身麻酔手術は22（前年10）件、外来手術件数（普通抜歯・難抜歯は除く）は年間309（前年253）件、病理検査件数は年間103（前年95）件うち生検6（前年8）件でした。当科での取扱い疾患（診療内容）は以下の如くです。

< 歯 科 >

- ・ 一般歯科治療（う歯・歯周病の治療、義歯などの補綴治療）
- ・ 有病者歯科治療（＊1）
- ・ 周術期口腔ケア（＊2）

< 口腔外科 >

- ・ 埋伏歯（埋伏智歯、埋伏過剰歯）（＊3）
- ・ 顎関節症および顎関節炎
- ・ 顎口腔領域の嚢胞
- ・ 顎口腔領域の炎症性疾患（頭頸部領域の菌性感染症）
- ・ 口腔顎顔面外傷（軟組織損傷、歯の損傷、顎顔面骨折など）
- ・ 顎口腔領域の良性・悪性腫瘍
- ・ 口腔粘膜疾患（白板症、口腔扁平苔癬など）
- ・ 口腔乾燥症（ドライマウス）・舌痛症（＊4）

（＊1） 全身疾患を有する患者さんの治療は、院内関連諸科、かかりつけ医療機関等との連携を密に行っています。たとえば、脳梗塞や心筋梗塞の予防のため血液をサラサラにする薬（抗凝固薬や抗血小板薬）を服用中の患者さんにつきましては、内科・脳外科などと連携の上、休薬の可否を検討しますが、原則として休薬せずに抜歯を行い、局所止血にて対応することが多くなっています。また、骨粗しょう症等でビスフォスフォネート製剤等を使用または使用予定の患者さんで、抜歯等による薬剤関連顎骨壊死のリスクが高いと思われる場合につきましては、事前

に口腔ケアを徹底して顎骨壊死のリスクを低下させるとともに、薬剤使用中に拔牙が必要な場合には、処方医と相談し、必要／可能であれば休薬して拔牙しています。

- (※ 2) 近年、口腔疾患は心疾患・糖尿病・誤嚥性肺炎などの全身疾患に影響を与えることが明らかになってきました。そのため口腔ケア（口腔衛生状態の改善のためのケアや治療）の重要性が高まっています。特に周術期においては、全身麻酔時の気管内挿管で口腔常在菌を気道へ迷入させる恐れがあり、術後の誤嚥性肺炎などを引き起こす可能性があります。また、術後に絶食となる場合は経口摂取時よりも口腔常在菌が増加し、感染症を引き起こしやすくなります。そのため、当科では、全身麻酔手術や化学療法／放射線療法を受けられる患者さんを対象に、口腔に起因する全身的な合併症の軽減を目的として、歯科医師による診察・処置や歯科衛生士による口腔清掃指導・専門的口腔ケア（器械・器具を用いた歯面清掃）を行っています。

具体的な周術期口腔ケアの対象は、当面、①悪性腫瘍に対する全身麻酔手術を予定（または術後概ね 3 か月以内）の患者さん、②化学療法・放射線療法を予定（または実施中）の患者さんとなります。

- (※ 3) 智歯（おやしらず）は 18 歳頃から萌出を開始しますが、現代人の顎の大きさは小さくなっている傾向にあり、これに対して歯の大きさはそれほど小さくなっていませんので、最後に生えて来る智歯（第 3 大臼歯）の萌出スペースが不足して、顎骨に埋まったまま（埋伏智歯または水平埋伏智歯）の患者さんが多く見られます。このような状態では、智歯周囲炎（おやしらずの炎症）を起こし易く、歯肉の腫れ、痛みを繰り返し起こすことになります。

埋伏智歯拔牙術は、当科入院手術の半数以上を占め、外来小手術の中でも 15% 程度を占め、当科にとっては重要な手術のひとつとなっています。智歯周囲炎を繰り返す場合は勿論ですが、智歯周囲炎を起こす可能性の高い埋伏智歯については、発症する以前にでも拔牙しておくのが良いと考えられます。拔牙の容易さから考えますと、下顎埋伏智歯は 10 代後半、上顎埋伏智歯は萌出（の可能性）を待って 20 代前半くらいまでに拔牙しておくのが適切と考えられます。症例によっては外来局麻下での拔牙も可能ですが、拔牙の難易度、予定手術時間、患者さんのご希望などにより、入院下での静脈内鎮静法を併用した局所麻酔下、さらには全身麻酔下での拔牙にも対応しています。

また、通常のオルソパントモ X 線写真で下顎埋伏智歯の根尖が下顎管に近接して下歯槽神経損傷を起こし易いと判断された場合には、CT 撮影を行い、拔牙法を詳細に検討し、場合によっては、歯冠切断法（埋伏歯冠のみを切断除去し歯根は残す方法）や 2 回法（歯冠切断後に歯根が移動して下顎管から離れてから改めて安全に歯根を抜去する方法）にて対応することもあります。

- (※4) 口腔乾燥症に対しては、シェーグレン症候群も考慮した系統的な検査・診断を行い、原因を究明した上で、各種内服薬（塩酸セビメリン製剤等）、含嗽剤、口腔保湿剤、人工唾液、漢方薬等を組み合わせた系統的な治療を行っています。また、舌痛症（近年では末梢痛覚神経障害性慢性疼痛と考えられています）や味覚障害の病因には、口腔乾燥、栄養障害、精神心理的要因、口腔カンジダ症などが複雑に関連していることを念頭に置き、系統的な検査・診断・治療を行っています。

上述の埋伏智歯抜歯の他にも、局所麻酔下での口腔外科的疾患の手術（嚢胞・腫瘍摘出術、顎骨骨髓炎手術等）においては静脈内鎮静法を併用し、患者さんに安全でストレスの少ない手術の遂行に心掛けています。全身麻酔下手術においては麻酔科医師と検討のうえ手術療法を施行しています。また、全身疾患のある患者さんの手術においては、関連各診療科の専門医と協力の上、術前～術後管理を一貫して行い、患者さんの QOL の向上に努めています。当科の手術日は月曜日の午後および金曜日の午後となっています。

口腔外科領域においても病-診連携・病-病連携の推進は重要であり、一次医療機関の先生方と患者さんの共同管理に努めながら、また院内他科との連携等、総合病院歯科口腔外科ならではの特徴を活かした歯科口腔外科診療を通じて、地域住民の方々の口腔の健康の維持・増進に貢献していきたいと考えています。

現在、当科には公益社団法人日本口腔外科学会認定専門医・指導医および卒後臨床研修指導医が常勤しており、地域の総合病院歯科・口腔外科として患者さんのために良質な医療の提供を継続したく考えています。当院は平成 18 年 1 月 18 日付で厚生労働省より歯科医師卒後臨床研修施設指定病院（施設番号：051316）、また、平成 24 年 10 月 1 日付で公益社団法人日本口腔外科学会認定准研修施設（施設番号：准 3029）に認可され、平成 23 年 10 月からは岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野より口腔外科医師（研修医）を断続的に受け入れ、歯科医師卒後臨床研修を行っており、当院麻酔科医師の指導の下、麻酔科研修も実施しています。

健診センター

〔担当医師〕 廣瀬 敏士（脳神経外科） 丸山 市郎（放射線科） 荒木 克夫（内科）

〔看護職員〕 1 名 〔事務職員〕 2 名

【診療状況等】

健診センターでは令和 5 年度も従来通り、1 日ドック、2 日ドック、脳ドック、PET 健診、協会けんぽ健診、特定健康診査、各種の健康診断、がん個別検診（胃、大腸）を行いました。

担当は、脳ドックを廣瀬医師（脳外科）、その他の健診を荒木医師（内科、嘱託）と丸山医師（放射線科）が行いました。他には、看護師または看護助手等 1 名が診察介助と身体計測等を行い、常駐する事務職員 2 名が各種の受付業務に対応致しました。

従来と同様に、消化器センター（胃内視鏡、大腸内視鏡）、循環器科（心電図判定）、外科（マンモグラフィ読影）、婦人科（婦人科診察・細胞診）、眼科（眼底所見の判定・眼圧測定）、耳鼻科（聴力検査）、画像診断センター（腹部超音波検査、遠隔画像診断による胸部単純 X 線写真・PET 検査・胃部 X 線検査の読影、MRI・MRA 検査の読影）、検査科（検体検査、呼吸機能検査、心電図検査、病理検査）等の院内各部署に協力して頂き、運営いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響もほぼ無くなり、例年並みの検査件数となりました。受診者数は以下のとおりです。

	1 日 ドック	2 日 ドック	P E T	脳ドック	特定 健診	健康 診断	協会 けんぽ	個別 検診
平成 27 年度	721	64	26	136	65	197	247	25
平成 28 年度	715	63	41	131	71	198	304	51
平成 29 年度	739	50	17	142	62	160	394	61
平成 30 年度	731	50	10	162	73	200	502	57
令和元年度	745	50	14	132	65	206	400	35
令和 2 年度	707	51	17	123	60	222	313	64
令和 3 年度	719	51	14	149	76	218	278	67
令和 4 年度	721	34	16	133	74	212	298	63
令和 5 年度	742	48	18	111	87	185	336	84

引き続き、生活習慣病の 1 次・2 次・3 次予防とがんの早期発見を通して、地域医療に貢献したいと思います。

血液浄化センター

〔常勤医師〕 吉田 治義（内科、センター長代理）

高原 典子（泌尿器科、副センター長） 坂下 紗弓（内科）

〔非常勤医師〕 荒井 宏之 武呂 幸治 高柳 俊亮 西川 雄大

西川 翔 糟野 健司 西森 一久

〔臨床工学技士〕 7 名 〔看護師〕 13 名 〔看護補助員〕 1 名

【診療状況等】

令和 5 年 3 月に腎臓内科医の酒井雅人医師が退職し、4 月に坂下紗弓医師が福井大学腎臓内科より着任しました。

当センターでは、医師、看護師、臨床工学技士によるチーム医療体制で、慢性腎不全の透析導入や通院透析、急性腎不全の入院透析、および持続緩徐式血液濾過透析(CHDF)、腹水濾過濃縮再静注療法(CART)などの特殊治療に当たっています。栄養相談室や地域連携室のスタッフの協力により良い透析生活ができるようサポートしています。センター内での治療では血液濾過透析(HDF)による透析効率の向上を図り、集中治療室での出張透析は計 22 回行い、CHDF などの個別透析治療にも対応しました。新型コロナウイルス感染の血液透析患者には隔離透析を行い、本年度は 28 例に計 119 回実施しました。内シャントの作成と狭窄の診断・治療は、高原 典子医師が中心となって、泌尿器科医師が協力病院と連携して実施しました。透析患者に多い下肢閉塞性動脈硬化症の治療管理には、看護師が毎月 1 回フットチェックを行っており、重症例には循環器内科による血管内治療が福井大学循環器内科と連携して積極的に行われ、好成績を挙げました。

令和 5 年度の血液透析治療の延べ件数は 18,190 件で、昨年度より 590 件増加しました。

年度末の血液透析患者数は 113 名で、昨年度から 6 名減少、腹膜透析患者数は 3 名で、増減なしでした。特殊血液浄化治療については、血漿交換 (PE) 0 回、CHDF 延べ 44 日、エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) 0 回、CART 10 回、顆粒球吸着療法 8 回、LDL 吸着(LDL-A) 8 回でした。

消化器センター

〔常勤医師〕

(内科) 永谷 菜穂 井上 元気 村田 陽介 田邊 陽邦 齋藤 大雅
荒木 克夫

(外科) 菅野 元喜 林 泰生 前田 敏樹 岸 和樹 渡辺 倫夫
平山 楓 山本 晃平

[非常勤医師] 塩川 雅広 松森 友昭 栗田 威 西川 義浩 中村 武晴
蘭 誠 高橋 和人 松本 慎平 村本 雄哉

【診療状況等】

消化器センターとして令和5年度は内科医師の増員があり内視鏡検査・治療件数が大幅に増加しました。

早期癌に対する内視鏡治療の適応や外科的治療の内容など術前に内科・外科・画像診断部門が合同カンファレンスを行うことで適切な治療方法をディスカッションし、また術後の結果も同様に共有することでよりよい医療を提供できるよう尽力しています。

《統計》

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
上部消化管検査	2,351	2,123	2,358	235
（粘膜下層剥離術）	23	6	13	7
（内視鏡的胃ろう増設術）	22	30	18	△ 12
下部消化管検査	1,080	899	1,272	373
（大腸ポリープ切除術）	158	153	291	138
（粘膜下層剥離術）			13	13
（シグモイドファイバー）	90	76	100	24
膵胆管造影検査	176	140	174	34
（内視鏡的胆道碎石術）	29	12	19	7
（乳頭切開術+碎石術）	45	35	47	12
小腸内視鏡	1	6	4	2

画像診断センター・診療放射線科

[常勤医師]

(放射線科診断) 川上 悟司 吉川 大介

[放射線技師] 12 名 [看護師] 6 名

【診療状況等】

画像診断センターでは、CT、MRI、PET-CT、X 線撮影装置、X 線透視装置、超音波装置などを有し、日々検査を行っています。

診療放射線技師は、各診療科の依頼を受け、精度の高い診療のために必要な画像情報の提供を行っています。24 時間 CT、MRI などの検査が行える体制を整え、高精度な画像情報の提供が行えるよう努めています。

今年度は CT 装置の更新を行いました。スキャン時間の大幅な短縮による撮像時間の高速化、高分解能、広い撮像範囲、低被ばく化が可能となり、より精度の高い画像情報の提供が行えるようになりました。特に心臓撮影に特化した技術により、以前よりもより高精度な心臓検査が行えるようになりました。

X 線を用いた消化管造影検査や血管造影・血管内手術といった画像診断およびそれを用いた治療は、外科や循環器内科や脳外科によっても行われています。

乳房撮影や乳房超音波検査においては、女性の診療放射線技師が検査を担当し、患者さんに安心して検査を受けて頂ける環境作りに努めています。

今後も、診療部、看護部、事務部などと連携を取りながら、高精度な画像情報の提供、また安全安心に検査を受けていただけるよう努めていきます。

薬 剤 部

〔職員数〕（令和 5 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む）

薬 剤 師 14 名 薬剤助手 4 名（うち派遣 2 名含む）

薬剤部理念

医薬品の適正使用を通して、質の高い薬物治療の提供およびチーム医療に貢献します。

【診療状況等】

令和 5 年度は、保冷医薬品管理システムを導入し、高額な冷所保存医薬品の適切な品質管理を実施し、無駄な在庫を減らし、患者待ち時間短縮に貢献できました。期限切れ院外処方箋枚数減少にも力をいれ、外来看護師等の協力のもと、令和 4 年度の半分以上にすることができました。

また薬薬連携強化のため、疼痛コントロールにオピオイドを持続皮下投与する患者さんへの PCA ポンプへの薬液充填、操作方法を積極的に指導できました。

下記に、薬剤部業務について紹介します。

《調剤》

薬剤部は 1 階と 2 階にわかれており、1 階では主に内服・外用調剤を、2 階では注射調剤を実施しています。

休日・夜間問わず、365 日 24 時間薬剤師を配置し、業務を行っています。薬剤師は、医師の処方に基づき、用法用量、相互作用や検査値等問題がないかどうか確認しながら調剤をしています。調剤業務は薬剤師の基本業務であり、業務の効率化をはかるため、内服薬の場合は錠剤自動分包機や散剤自動分包機を、注射薬の場合はピッキングマシーンを活用しています。

《注射薬調製》

クリーンベンチ内では清潔操作を心がけながら TPN（Total Parenteral Nutrition）調製を、安全キャビネット内では抗癌剤曝露防止に努めながら抗悪性腫瘍剤調製を実施しています。無菌製剤処理加算件数は、TPN においても抗悪性腫瘍剤においても令和 4 年度に比べて増加しました。

《薬剤管理指導》

入院患者または家族の方々へ正しい服用方法を説明し、副作用の防止・早期発見のための服薬説明を実施し、医薬品適正使用を推進しています。薬剤管理指導業務件数、退院時服薬指導加算件数、麻薬管理指導加算は、令和 4 年度に比べて大きく増加しました。入院だけでなく、外来患者へはインスリンや成長ホルモンの使用方法や保管方法についても指導しています。

《医薬品情報管理》

採用している医薬品が適正に使用されるよう、厚生労働省や製薬企業から常に最新の医薬品情報の収集を行っています。得られた情報は、必要に応じて医療スタッフに直接情報

提供を行い、毎月 1 回発行の薬剤部だよりに掲載しています。また医療安全対策室と連携し、ビーフリード輸液の未開通事例や、インスリンバイアル製剤投与時のインスリン専用シリンジ使用について、定期的に情報発信しています。

《チーム医療》

感染対策チーム、栄養サポートチームや術後疼痛管理チームをはじめ、緩和医療チームや褥瘡関連など、他職種と連携を取りながらさまざまな医療チームに参加し、薬の専門家として貢献しています。

《その他》

入院時の持参薬照会・代替薬の処方提案、麻薬・向精神薬・毒薬等の適切な管理、院内製剤の調製、薬学部学生の実習受入のほか、新人看護師や研修医に対する入職時の医薬品に関する研修、麻薬・向精神薬や抗菌薬、抗癌剤などの研修会の講義を行うなど多岐にわたります。

さらに災害医療に対しても積極的に関わっており、DMAT 隊員として 1 名タスク登録しています。令和 6 年 1 月 1 日発生した能登地震の際には、翌 2 日から中心メンバーとして現地入りしました。

臨床検査科

[職員数] (令和 5 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む)

臨床検査技師 17 名

【診療状況等】

◇ 検査件数

検査件数(外注を含む総件数)は、R2 年度 1,060,720 件、R3 年度 1,056,433 件、R4 年度 1,015,978 件、R5 年度 1,132,031 件(医療行為月報を基に集計)、依頼されています。検査試薬・機材等のコストパフォーマンスにも留意し、効率的かつ正確・安全・確実な業務遂行のため、改善を重ね努力しています。

また、コロナウイルス PCR 検査も院内で多数検査しました。

◇ 精度管理について

内部精度管理については、隔週一回のミーティング時に各分野交替で状況報告と意見交換をしています。試薬・装置・コントロール検体の管理や手技の改良等を行ない、検査精度の向上につなげています。外部精度管理については、日本臨床検査技師会(全国)や福井県臨床検査技師会(県内)のコントロールサーベイ、試薬メーカーのサーベイ等に参加し各分野とも良好な成績を得ています。

◇ 院内感染対策委員会

狭義の院内感染のみならず、感染症に関する情報提供、予防・診療の検討、指針の策定や指導も行なっており、臨床検査技師も重要な任務を担っています。

◇ 糖尿病療養指導

糖尿病療養指導士の資格保有技師が 2 名いますが、患者さんの期待に少しでも応えられるよう、学会や研修会に参加しスキルアップに努めています。

◇ 心臓超音波検査・心臓カテーテル検査への参画

生理機能検査分野の業務充実として、循環器内科医師等の協力・指導を頂き、心臓超音波検査(心エコー)を行っています。今後研鑽に努め、循環器診療の充実・効率化に寄与できるよう努力していきたいと考えています。心臓カテーテル検査では、ポリグラフの測定・記録に昼夜問わず担当しています。

リハビリテーション科

【職員数】（令和 5 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む）

理学療法士 17 名 作業療法士 16 名 言語聴覚士 6 名

補助員 5 名（精神保健福祉士 1 名含む）

【基本理念】

患者さまが自分らしく生活できるためのリハビリを提供します。

【令和 5 年度 診療目標】

- 1) 各部門において継続実施可能な業務内容・業務量を評価・分析し目標達成を目指す。
- 2) 相互協力(連携)・教育を通じて働きがいのある職場を作る。
- 3) 患者さんファーストの意識を持ち、安心・安全なリハビリテーションを実施する。

【診療状況等】

I 各療法別の紹介

新型コロナウイルス感染症に伴い、科内でスタッフの体調管理、感染予防対策を徹底した上で、大きな診療制限をかけることなく、必要なリハビリテーションを実施しました。外来と入院の診療を分離して行うように、予約時間や訓練場所の調整を行いました。新型コロナウイルス感染後の患者さんに対しても、ベッドサイドにてリハビリテーションを実施し、ADL（日常生活動作）改善や退院支援を図りました。

理学療法

1. 活動報告

1) 診療内容

理学療法の対象疾患は脳卒中などの中枢神経疾患、骨折や変形性関節症などの整形外科疾患、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患、心不全や心筋梗塞などの心疾患、さらに癌や小児疾患など多種多様です。それらの疾患により当院に受診された入院・外来患者さんに対して理学療法評価に基づいた診療計画を立案し、個々の状態に合わせて病棟や病室、リハビリ室で理学療法を実施します。早期から理学療法を実施することで臥床による廃用を予防・改善し早期退院を目指します。

理学療法の内容は筋力トレーニングや関節可動域練習、神経筋促通などの運動療法や寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・歩行・段差昇降などの動作練習を中心に行います。その他に、消炎鎮痛目的に物理療法も行っています。また退院前カンファレンスや退院前訪問指導にも積極的にに関わり、退院後により良い生活が送れるように家族やケアマネージャー、介護事業所スタッフや福祉用具専門員等と連携をとっています。

2) 昨年度との比較

理学療法部門の目標は「研鑽」「教育」「連携」「接遇」「運営」に関する内容を挙げ取り組みました。「研鑽」に関して、オンラインでの研修会や学会等に積極的に参加し、職員それぞれの専門性を高めることや、知識の再学習・再認識を行い自己研鑽に

努めました。「教育」に関して、新人職員に対し部門で作成した教育プログラムに基づき指導を行い理学療法士としての経験・知識の獲得に努めました。また研修会講師の依頼を受け、病院職員に対しての教育にも努めました。「連携」に関して、疾患別チーム制で診療を行い、科内・病棟・地域との情報共有を密に図りました。「接遇」に関して、患者さんやその家族の方々への接遇に関する様々な情報を共有し把握することで接遇向上に努めました。「運営」に関して、目標単位数を設定し職員それぞれが単位取得を意識し達成に向けて努めました。また、リハビリ総合実施計画書や目標設定等支援管理料、診療情報提供書など各種書類を作成し加算算定にも努めました。

その他、福井県理学療法士会の活動も継続し、「若狭で活躍できるセラピストの育成」を目的に、院外の理学療法士とオンラインにて意見交換や研修会を実施しました。

3) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症への対策が緩和されていく中でも、院内感染を防ぐための予防対策が必要な時に行えるようにすることが必要です。また、新人教育や職場内教育などの人材育成を継続し、質の高いリハビリテーション医療を提供していきます。病棟稼働率や感染対策などにも柔軟に対応し、最大限のリハビリテーション効果を発揮できるように各疾患チームの編成を検討し人員配置を行います。院内や地域の課題に対して、リハビリテーション科として積極的に関与し、地域医療推進に努めていきます。

2. 研修会・勉強会参加

セミナー参加 101 件（オンライン）

学会参加 17 件（オンライン 16、現地 1）

日本心臓リハビリテーション学会、関西中部心不全栄養療法研究会、福井心不全治療研究会、二州・若狭合同ブロック学会、静岡県理学療法学会、福井県理学療法学会、日本理学療法学会、東海北陸理学療法学会、日本呼吸・循環器理学療法学会、日本呼吸ケアリハビリテーション学会、日本神経理学療法学会、福井県心臓リハビリテーション研究会、日本理学療法管理学会、日本物理療法研究会、福井県理学療法士連盟研修会、自治体病院協議会研修会、福井地域包括リハケアシステム推進事業自立支援研修会

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・中学校職業紹介
- ・外傷性脳出血後に運動開始困難を呈し股関節伸展と足関節背屈の随意運動に困難さが残存した症例－後進歩行と靴下・靴の更衣動作に着目して－ 時下由宇 東海北陸理学療法学会 2023. 9. 30
- ・日本理学療法士協会認定理学療法士臨床認定カリキュラム呼吸編 講師 松井文昭 2023. 10. 29
- ・小浜市多職種連携研修会褥創ケア インストラクター 内方美佳、松井文昭、飛永茂博、笹本大介、井上大暉、坂本圭太、東野快成、田中良成 2023. 12. 14

作業療法（身障・発達分野）

1. 活動報告

1) 診療内容

身体領域作業療法では、脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、がん疾患などの患者さんを対象に、日常生活動作がより円滑になるようにリハビリを行っています。内容は、①食事・排泄・更衣等の生活動作練習、②家事などの応用動作練習、③集中・注意・記憶等に関する高次脳機能練習、④生活環境設定、⑤座位・立位などの基本動作練習、⑥関節運動・筋力運動などの機能練習、などを行っています。

発達作業療法では、療育が必要なお子さんに支援を行っています。必要に応じ、視覚検査・発達検査等も行っています。また、地域の各機関と連携を取り、包括的支援にも取り組んでいます。

2) 昨年度との比較

処方数・実施数は昨年度と比較し概ね同程度となっています。

病棟での生活動作練習を意識的に実施し、各部門・他職種等チームでの連携の強化に努めました。また、新人教育システムの更新、業務の効率化にも努めました。

3) 今後の課題

- ・業務の質を向上し、患者さんにより効果的なリハビリを提供するよう努めます。
- ・部門内外での相互協力と連携を意識し、円滑なリハビリを提供するよう努めます。

2. 研修会・勉強会参加

- ・北信越地区スポーツ障害予防・指導者講習会
- ・福井県作業療法士会特別支援教育委員会
- ・第2回自立支援研修会、
- ・第10回福井県作業療法学会

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・中学校職業紹介
- ・3士会合同自立支援研修会 坂本将悟 2023.8.17
- ・OTが行う学童野球チームでのトレーナー活動についての報告 吉村真樹 第10回福井県作業療法学会 あわら市商工会 2024.3.16

作業療法（精神分野）

1. 活動報告

1) 診療内容

①活動性・自主性の向上。②対人関係、人付き合いの練習。③生活リズムの調整。④認知・身体機能の維持、改善。⑤活動と休息のバランスを身につける。⑥感情の表現と発散、気分転換。⑦自己価値の再発見。⑧日常生活に必要な生活技能の練習をする。⑨興味の拡大。⑩社会性の向上。⑪自己理解を深める。などを目的に、入院・外来患者さんの症状に合わせ集団プログラムや個別プログラムを実施しています。

2) 昨年度との比較

対象患者の平均年齢は年々上昇しています。それに伴い、患者さんの必要性に合わせて、プログラムの変更を行っています。

3) 今後の課題

認知症患者への対応、安全管理の徹底、退院促進、地域生活の援助、就労支援に努めます。

2. 研修会、勉強会参加
 - ・福井県作業療法士会研修会
3. 研修会・講義の講師派遣、発表
 - ・看護学院講義
 - ・わかさつくし会ジョブセミナー講義

精神科デイケア

1. 活動報告
 - 1) 診療内容

①通所者の居場所を提供し、生活圏・対人交流範囲の拡大を図る場。②様々なグループ活動を通じて、円滑な対人交流、社会性、自主性を獲得する場。③生活リズムを維持し、日常生活技術を獲得する場。④個々の通所者の病状、能力に見合った現実的な就労支援をする場。⑤医療的な関わりによって病状の再燃を防止し、病状悪化の際はそれを早期に把握するなど、通常の外來診療を補完する治療の場。⑥同居している家族との適切な距離を保つために、日中過ごす場。⑦疾患のセルフコントロールの学習・練習の場。これらの役割をベースに、患者さん個々の目的・目標に近づけるように、多職種が連携して日々様々な大小の集団プログラム（月に 20 弱のプログラム数を実施）を運営しています。
 - 2) 昨年度との比較

患者さんの要望や必要性に合わせて、月毎のプログラムは変更しています。
 - 3) 今後の課題

多様化する通所者の目的や目標の傾向に応じたプログラム運営、安全管理の徹底に努めます。
2. 研修会・勉強会参加
 - ・ジョブガイダンス
 - ・自立支援協議会主催の各種研修会・勉強会

言語聴覚療法

- 1 活動報告
 - 1) 診療内容

当病院の外來、急性期病棟、包括病棟、療養病棟、精神科病棟、また介護老人保健施設で言語聴覚士が関わっています。

成人患者では主に脳疾患や内科的疾患による言語障害、音声障害、高次脳機能障害や摂食・嚥下障害の方に対し、検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行っています。近年、高齢化が進むなかで、摂食・嚥下障害の患者さんが増えてきています。患者さんの安全な食事摂取をめざし、間接的嚥下訓練や直接的嚥下訓練を行っています。

外來では特に小児の患者さんが多く、構音障害や言語発達遅滞、自閉スペクトラム症等の疾患に対し、言語・コミュニケーションリハビリを行っています。若狭圏域唯一の小児療育拠点病院としての機能が維持できるよう努めています。
 - 2) 昨年度との比較

成人では、新人の入職と実習生の来院があり、例年以上に教育に力を注ぎました。小児では、増員により新人の教育体制が整い、さらに多くの患者さんにリハビリが

できるようになりました。

3) 今後の課題

- ・新人の教育に力を入れ、各スタッフの技術向上を目指します。
- ・感染対策を心掛けた上でリハビリを行います。
- ・質の高いリハビリを提供します。

2. 研修会・勉強会参加

- ・日本言語聴覚士協会 全国研修会・実務者講習・学会
- ・福井言語聴覚士協会 新人研修・学術集会
- ・失語症講習会
- ・福井神経疾患セミナー2023
- ・ナースの星 WEB セミナー・福井言語聴覚士協会新人研修

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義

II 各科カンファレンスの実施

各科、各病棟カンファレンスを積極的に実施しています。

内科：必要時に医師・看護師を交え、入院患者さんの現在の様子や情報交換など行い、今後の方針などを話し合います。

脳外科：週 1 回。医師と看護師を交え、入院患者さんの現在の様子や情報交換など行い、今後の方針の検討など話し合います。

整形外科：月 1 回。医師と看護師と地域連携室職員を交えて、患者さんの現在の様子や退院に向けての状況など情報交換や今後の検討などを話し合います。

小児科：月 3 回。医師と患者さんの現在の様子や今後の方針などを話し合います。

精神神経科：週 3 回（入院 2 回、外来 1 回）。医師、看護師、ソーシャルワーカーを交え、患者さんの症状の情報交換や今後の方針など話し合います。

リハビリ科：月 1 回。リハビリスタッフ内で情報交換など行い、今後の患者さんの治療方針などを話し合います。

【カンファレンス日程】

カンファレンス名		日程
5 F カンファレンス	全員	第 2・4 木曜
6 F カンファレンス	全員	第 3 月曜
整形外科カンファレンス	全員	第 3 月曜
7 F カンファレンス	ケース	第 1.3.4 水曜
	全員	第 2 水曜
脳外科カンファレンス	全員	毎週木曜

西 3 カンファレンス	ケース	毎週火曜
療養病棟カンファレンス	全員	第 3 金曜
ICU カンファレンス	ケース	月～金曜
小児カンファレンス	ケース	第 1、3 火曜 第 3 金曜
リハビリ科カンファレンス		第 2 水曜
東館カンファレンス		毎週火・木曜
デイケアカンファレンス		不定期
退院前カンファレンス		随時

Ⅲ 福井県地域包括ケアリハ推進事業

当院は広域支援センターの役割を担い、地域包括ケアシステムの実現に向けて、リハビリテーションを提供する基盤を強化し、地域包括支援センターを支援する人材を育成していきます。

Ⅳ 地域支援体制

- ・障害児通園施設指導
- ・児童発達センターCokoUta 作業療法指導
- ・若狭地区障害児自立支援協議会
- ・外部専門家活用研修

Ⅴ 実習生の受け入れ

教育研修機能の充実及びリハビリテーション職種の後輩育成のため、当科開設以来、理学療法、身障作業療法、精神作業療法、言語療法において福井県内の養成校、地元出身学生を中心に、評価・臨床実習の受け入れをしています。

Ⅵ 職業紹介講演会で講師派遣

小浜中学校、小浜第二中学校、上中中学校、名田庄中学校に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を派遣しました。仕事の内容ややりがいなど、治療道具などを用いて紹介しました。

食事療法科

〔職員数〕（令和 5 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む）

管理栄養士 6 名 栄養士 3 名 調理師 6 名 調理補助員 6 名

【診療状況等】

・給食管理

医師により入院患者さんの食事内容が指示され、それに基づいた食事の提供を行っています。令和2年4月より院外調理による食事提供になり、調理業者との連携をとりながら、入院患者さんに満足していただけるように年 1 回嗜好調査を実施し、食事の改善等に努力をしています。

・栄養管理

入院時に患者さんの栄養管理計画書を作成し、それに基づいた栄養管理を行い記録します。そして栄養状態は定期的に再評価し、必要に応じた計画書の見直しを行います。

また入院、外来患者さんに栄養指導を行い、病態に応じた食事相談や食事療法を提案させてもらいます。

栄養サポートチームでは、管理栄養士として低栄養患者さんの改善に努めています。令和4年8月より、早期栄養管理加算の算定も実施しています。

・その他

地域ケア会議へ毎月 1 回参加し、地域高齢者の健康支援を推進しています。福井県内の養成校や地元出身学生を中心に、臨床実習の受け入れと、日本病態栄養学会認定教育施設におけるNST臨床実習生、静脈経腸栄養（TNT-D）認定養育施設における臨床実習生の受け入れをしています。

また、地元中学生への職業紹介講演会に講師派遣しました。

臨床工学科

〔職員数〕 令和 5 年 4 月 1 日現在

臨床工学技士 7 名

【診療状況等】

業務内容・勤務体制

1) 血液浄化センター業務

血液浄化センター内で 1 クール最大 40 名の治療に対応する為、透析用精密機械室や治療室で準備や透析液の管理、シャント部への穿刺、機器の操作や片付け清掃及び配管消毒等を主に行なっています。また、治療中における機器トラブルの対応や定期的に透析装置の点検・部品交換も行なっています。透析治療は月・水・金は 3 クール、火・木・土は 2 クールで行っています。早出・遅出・土祝日の変則勤務で対応し、治療中は 1 名以上の技士が担当するよう努めておりますが、他業務と兼務する状況が続いており、迅速な対応が難しい状況となっています。その他、感染病棟への出張透析や救命救急センター 2 階での緊急透析や急性期・重症期における持続緩徐式血液透析濾過透析(CHDF)や各種血液浄化にも対応し、オンコール体制としています。

令和 5 年度 特殊血液浄化実施状況

治 療 名	実 施 数
CART(腹水濾過濃縮再静注法)	10 回
CHDF(持続緩徐式血液透析濾過透析)	延べ日数 44 日
LDL-A (LDL 吸着療法)	8 回
GCAP(顆粒球吸着療法)	8 回
出張(緊急)透析	28 回

2) 手術センター業務

手術内容に応じた医療機器の準備と始業点検・定期点検の実施、手術中は医療機器の設定や接続等の操作補助とトラブル時の対応を行なっています。手術時以外では救命救急センターの生体情報モニターや汎用型輸液・シリンジポンプ等、限定機種ではありますが定期的に点検を行なっています。手術センターでの業務は技士 2 名が担当し、平日日勤帯の手術に対応できるよう 1 名が常駐しています。

3) 心血管カテーテル業務

主にいろいろな生体情報を記録できる装置（ポリグラフ）や血管内部の様子を観察できる装置(IVUS)等の操作を、また必要時には IABP、PCPS 等の準備や清潔操作の補助を行なっています。血液浄化勤務と兼務となりますが技士 2 名が担当し、臨床検査技師と協力体制を取り 24 時間オンコールで対応しています。

4) 医療機器管理業務

限定機種ですが、汎用型輸液・シリンジポンプや AED 等定期点検を昨年度同様、平日日勤帯で臨床業務の合間に行なっています。貸出・返却のデータ入力により、電子カルテ上で院内共有ポンプの在庫数が確認出来るようになっていきます。今後も使用状況、稼働数把握に努めていきたいと思っています。

臨床心理室

〔職員数〕 令和 5 年 4 月 1 日現在

公認心理師 4 名（常勤 3 名、非常勤 1 名）

臨床心理士 1 名（非常勤）

【診療状況等】

令和 5 年度は、さらなる実施件数の増加があり、心理専門職へのニーズの高さを日々実感しております。昨年度末より参入した緩和ケアの分野では、個別の介入依頼も増加しており、チーム医療へのニーズの充足やチーム機能の向上にも貢献出来ていると感じられます。

心理検査および心理療法等実施件数の推移

年度別実施件数	小児科	精神科	SC・もの忘れ健診 等	総実施件数
令和 3 年度	900	662	180	1,742
令和 4 年度	944	865	147	1,956
令和 5 年度	956	1,004	165	2,125

【業務内容】

- ・小児科での心理検査（新版K式発達検査・田中ビネー・WISCなど）および心理療法
- ・精神科での心理検査（WAISなど）および心理療法
- ・もの忘れ健診での認知症スクリーニング/脳ドックでの認知機能アセスメント
- ・公立若狭高等看護学院へのスクールカウンセラー派遣
- ・嶺南地区スクールカウンセラー交流会の開催（6月・12月の計2回）
- ・外部機関への講師および相談員派遣
- ・緩和医療検討委員会および緩和ラウンドへの参加

【今後の展望】

依然として心理専門職への院内外からのニーズの高さを感じています。それらに応えるべく更なる研鑽を積み重ね、今後も地域住民の方々の心身の健康増進に貢献出来るよう努めます。

【研修会・学会参加】

- ・福井県公認心理師、臨床心理士協会主催研修会
- ・日本心理臨床学会
- ・第 6 回福井県緩和ケアチーム検討会
- ・日本認知療法/認知行動療法学会
- ・兵庫県臨床心理士会主催研修会
- ・福井県緩和ケア研修会

【講師・相談員派遣】

- ・令和 5 年 9 月 09 日 二州健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 林晃平
- ・令和 5 年 9 月 23 日 若狭健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 蒲原健人
- ・令和 5 年 10 月 21 日 小浜市母と子の家 CokoUta CokoUta カフェ 蒲原健人 高島晋介
- ・令和 5 年 11 月 30 日 仁愛大学大学院 地域支援臨床心理学特論Ⅱ 蒲原健人
- ・令和 6 年 3 月 9 日 二州健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 林晃平
- ・令和 6 年 3 月 17 日 若狭健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 蒲原健人

看護部

〔職員数〕 令和 5 年 4 月 1 日現在

看護師 256 名（34 名） 助産師 11 名（8 名） 准看護師 5 名（10 名）

看護補助員 30 名（13 名） 外来診療補助員（9 名） （ ） 内 非常勤職員別掲

看護部理念

地域の皆さまのその人らしい生活の実現に向けて、安全・安心な看護を提供します

看護部方針

1. その人らしさを大切にする看護を提供します
2. チーム医療に積極的に参加します
3. 専門職業人としての自覚と誇りを持てる人材を育成します
4. 経済性に配慮した取り組みをします
5. ワークライフバランスを推進します

看護部目標

1. 看護の質の向上
 - ・暗黙知の看護実践を言語化・見える化し感性を育む
 - ・委員会活動を看護実践の成果に結びつける
2. 組織・個人のタイムマネジメント
 - ・看護業務効率化と生産性向上に向けて取り組む

看護部目標 総評

1. 看護の質の向上

リフレクション、ナラティブ、PDCA サイクルに基づく活動とその成果の発表等、看護の振り返りや言語化を教育の軸にして取り組んだ。年度当初の教育計画通り実施できたが、感性や看護の質の向上は可視化が難しいうえに単年度で成果が表れるものではないと考えられるため、次年度以降も継続的に取り組む必要がある。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後は、一般患者と共に感染患者も受入れる病床運営に移行した。それに加えて後期は患者数が増加したが、各部署の協力の下、看護部としては

最大限病床運用・調整に参画できたと考える。しかし、一方で業務量増大による看護職員の負担が伴い、日々の業務遂行に精一杯で質向上を追求する余力がなかったことは否めない。

このような状況においても、加算算定取りこぼしを防ぐ取り組み、新たに夜間看護職員配置加算を算定する等で収益を確保し経営に参画できた。

2. 組織・個人のタイムマネジメント

8月以降の患者数増加に伴い業務量が増大し、超過勤務は昨年の1.03倍と微増、目標の20%削減には届かなかった。一方で各部署の努力と相互協力により看護職員の休日は確保され、振替休日残時間数は昨年より47%削減、年次休暇取得率も昨年の14%から27%と上昇した。しかし、年次休暇取得状況には偏りが見受けられる。勤務者数の確保と休暇取得は相反するため労務管理には苦慮しており、今後も課題となる。

今年度の常勤看護職の離職率は6.02%であった。全国平均と比べると低い離職率だが、昨年度比で約1.5%上昇したことは、今年度の身体的・精神的負担の大きさと共に、奨学金返還の義務年限を終了した3～4年目の看護職の就業に対する価値観の変化という要因もあると考えている。

限られた人員で働きやすい職場をつくるには、ひとり一人のパフォーマンスを上げること、自助努力では限界を迎えている業務改善に他部門の協力が得られるよう看護部として交渉・働きかけを続けていくこと、若い世代の看護職のキャリア形成への動機づけとなるコミュニケーションや関りが必要である。

看護部活動

月	日	活動内容
4月	1日～5日	新入職者対象病院オリエンテーション
	3日	看護学生インターンシップ受入 2名
	6日～14日	新入職者（新人看護師）対象 看護部オリエンテーション
	15日	新人看護師ローテーション研修開始（～5月31日）
5月	11日	看護の日記念行事看護展開催 主任会主催 「あなたらしく暮らすための看護」～自助、共助、公助の心を育もう～
	13日	福井県看護協会 2023 看護の日記念大会 参加
	31日	新人看護師ローテーション研修終了 敦賀市立看護大学看護キャリアゼミⅡ ゲストスピーカー参加
6月	1日	新人看護師 部署配属
	9日	敦賀市立看護大学 就活ガイダンス医療施設説明会 参加
	21日	小浜第二中学校交流会「ふるさと仕事塾」 参加
7月	5日～7日	就業体験事業（インターンシップ）の受入 福井県立若狭東高等学校 2年生 8名
	10日	新人看護職員研修（福井県委託事業 看護協会研修） 新人看護師 13名 参加
	12日	敦賀市立看護大学 実習オリエンテーション 出席
	15日	名田庄中学校交流会 「医療に関する職業を学ぶ会」 参加 敦賀市立看護大学オープンキャンパス 医療施設説明会 参加
8月	3日	令和5年度「看護の心」普及事業 一日看護体験受入 高校生 37名受入
	7日	看護学生インターンシップ受入 3名
	7、9、10、29日	令和5年度看護学生インターンシップ事業受入 14名
	28、29日	看護学生インターンシップ受入 1名

9 月	1、19 日 15 日 30 日	令和 5 年度看護学生インターンシップ事業受入 3 名 新人看護職員研修（福井県委託事業 看護協会研修） 新員看護師 9 名 参加 敦賀市立看護大学オープンキャンパス 医療施設説明会 参加
10 月	10 日 26 日 28 日 30 日	公立若狭高等看護学院 3 年生看護を語ろう会 参加 師長主任会合同研修「目標管理 中間評価」 小浜中学校「生命の誕生」講演講師 福井県看護協会主催 専門・認定看護師出前講座 開催 講師：敦賀医療センター がん化学療法看護認定看護師 辻真梨亜 氏
11 月	2 日 11 日 24 日 25 日	小浜中学校「医療に携わる方々から学ぶ」参加 福井県看護協会主催 専門・認定看護師出前講座 開催 講師：福井大学医学部附属病院 乳がん看護認定看護師 浦井真友美 氏 公立若狭高等看護学院・レイクヒルズ美方病院との看護管理者合同研修 「組織における人の動かし方」 講師：河野秀一氏 福井県看護協会主催 専門・認定看護師出前講座 開催 講師：公立丹南病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 居関友也 氏
12 月	1 日 9 日 14 日 18 日	公立若狭高等看護学院 1 年生看護を語ろう会 参加 看護業務の効率化“幸せふくいへの挑戦事例 アワード 2023 タスクシフト・多職種連携部門 優秀賞受賞 看護部 上中中学校「医療の仕事に関する講演会」参加 福井県看護協会福井県ナースセンター 新人看護師等採用強化事業 「先輩看護師と看護学生の交流会」参加
1 月	26 日	公立若狭高等看護学院 2 年生看護を語ろう会 参加
2 月	17 日 21 日 21 日、22 日	看護職就職説明会 in ふくい 2024 参加 公立若狭高等看護学院 1 年生基礎キャリアゼミナール 参加 新人看護職員研修（福井県委託事業 看護協会研修） 新人看護師 14 名 参加
3 月	6 日 11 日 19 日 29 日	敦賀市立看護大学 臨地実習指導者会 参加 公立若狭高等看護学院 看護学生対象 就職説明会 20 名参加 看護学生インターンシップ受入 1 名 看護学生インターンシップ受入 2 名

クリニカルラダー別教育 研修実績

②=オンデマンド研修

レベル	日程	内容	担当
レベル I	4 月 6 日	杉田玄白記念公立小浜病院 看護職員に求められるもの 看護部長 中村ひとみ	看護部
		院内感染予防対策 講義・演習 感染管理認定看護師 刀根正彦・森脇由希江	感染対策委員会
		日常生活援助① 清潔援助・体位交換等	プリセプター会
	4 月 7 日	接遇研修	接遇倫理委員
		新人教育について	看護部
		日常生活援助② 食事介助・移乗等	プリセプター会

	4月10日	医療安全 医療安全管理者 上原慶子	医療安全管理室
		看護倫理 看護者の倫理綱領 接遇倫理委員長 植村成子	接遇倫理委員会
		医療ガスについて	看護部
		看護技術① 酸素吸入・吸引	プリセプター会
	4月11日	看護技術② インスリン注射・皮下注射・筋肉注射 糖尿病療養指導士 佐藤ひろみ	プリセプター会
		看護技術③ 経管栄養・血糖測定	プリセプター会
		吸入について	プリセプター会
	4月12日	電子カルテ 看護記録ガイドライン	記録委員会
		看護技術④ 膀胱留置カテーテル挿入と管理・導尿・ 浣腸・排便	プリセプター会
	4月13日	看護技術⑤ 心電図モニター・十二誘導心電図	プリセプター会
		看護技術⑥ 検体の取り扱い・採血	プリセプター会
	4月14日	ローテーション研修について	看護部
		㊤「3日坊主にならない入職時の学習方法」 「あなたのコミュニケーションの特徴を知ろう」	看護部
		新人看護師研修について	看護部 プリセプター会
	4月27日	看護技術⑦ 静脈注射輸液ポンプ・シリンジポンプ研修	注射委員会 プリセプター会
	5月11日	㊤転倒・転落予防のためのアセスメントを知ろう	看護部
	6月29日	3ヵ月フォローアップ研修	プリセプター会
		㊤「口から食べたい」を叶える看護師の口腔ケア・ 摂食嚥下支援	
	7月7日	㊤バイタルサインから患者の現在と未来を見抜く	看護部
	7月13日	入院時記録に関する研修	記録委員会
		㊤バイタルサインは何を示す？ ～患者の現在を見極め、未来を見通す～	看護部
	7月27日	フィジカルアセスメント研修 呼吸・体温・意識障害	プリセプター会 認定看護師会
	7月28日	フィジカルアセスメント研修 循環	
	8月10日	NANDA- I 看護診断	記録委員会
		㊤患者が見える、ケアが伝わる看護記録	看護部
	8月24日	シミュレーション研修	プリセプター会
	9月14日	㊤ナースコールにも慌てない！ チームで多重課題に立ち向かえ	看護部
		多重課題・時間切迫シミュレーション研修	プリセプター会
	10月5日	㊤「わかる」が「できる」になる急変対応 ～新人看護師のあなたにできる第一歩～	看護部
	10月26日	6ヵ月フォローアップ研修	プリセプター会
	11月9日	㊤褥瘡ケアの「いろは」 ～予防・発見・悪化防止の3ステップ～	看護部
	11月30日	看護技術⑧ 輸血研修	プリセプター会
	12月10日	ICLS 研修 救急総合診療科医師	認定看護師会 プリセプター会

	12月14日	㊟看護師が知っておきたい薬物療法 ～安心・安全と効果的な治療のために～	看護部
	1月25日	看護技術⑨ 人工呼吸器研修	プリセプター会
	1月27日	ICLS 研修 救急総合診療科医師	認定看護師会 プリセプター会
	2月8日	㊟患者の希望を叶え、家族を支えるエンド・オブ・ライフケア	看護部
	3月7日	最終研修	プリセプター会
レベルⅡ	6月16日	チームメンバー研修Ⅰ	教育委員会
	6月23日	リーダー業務研修Ⅰ	教育委員会
	7月25日	接遇研修(患者対応・満足)	接遇倫理委員会
	7月21日	アナフィラキシーショック研修	注射委員会
	9月5日	麻薬・向精神薬の取り扱い	注射与薬委員会
	9月21日	倫理的姿勢について	接遇倫理委員会
	9月22日	KYT 研修(基礎編)	安全対策委員会
	9月25日	事故発生時/急変時の看護記録	記録委員会
	10月30日	KYT 研修(実践編)	安全対策委員会
	11月7日	私の看護観 発表	教育委員会
	12月8日	経路別予防策・針刺し事故防止策	感染対策委員会
	2月5日	チームメンバー研修Ⅱ	教育委員会
	2月29日	リーダー業務研修Ⅱ	教育委員会
レベルⅢ	4月20日	次期プリセプター研修	教育委員会
	7月20日	リーダーシップ研修Ⅰ	教育委員会
	8月25日	プリセプター研修Ⅰ	教育委員会
	10月24日	キャリアアップ研修	教育委員会
	8月22日	抗がん剤曝露対策研修	注射委員会
	10月17日	時系列分析 RCA 研修	安全対策委員会
	11月17日	倫理原則について	接遇倫理委員会
	12月14日	災害発生時の対応	災害対策委員会
	12月21日	看護実践報告会 ・「患者の状態悪化に伴うグリーフケア」 本館 6 階 高木優実 ・「患者・家族への退院支援から看取りまでの関わり」 本館 7 階 山本亜美 ・「回復期へ向かう患者への支援～排泄自立獲得と自宅退院に向けて～」 本館 8 階 仲野晴香 ・「顎間固定を受けた小児の周術期看護からの学び」 手術センター 岩岡莉央	教育委員会
	1月23日	リーダーシップ研修Ⅱ	教育委員会
	1月30日	プリセプター研修Ⅱ	教育委員会
レベルⅣ	9月12日	チーム医療研修Ⅰ	教育委員会
	10月10日	指導者対象輸液ポンプの使い方	注射委員会
	11月21日	ナラティブ発表会	教育委員会
	3月11日	目標管理研修	教育委員会
	3月12日	チーム医療研修Ⅱ 報告会 本館 4 階：富田絵美	教育委員会

		本館 5 階：石坪祐太 本館 6 階：中嶋容子 本館 7 階：松岡しのぶ 血液浄化センター：荒木久仁子 救命救急 1 階：赤崎亜紀 手術センター：泉香於里	
レベル V -1	10 月 28 日	目標管理「中間評価」	看護部
	1 月 5 日	師長代理研修 報告会 本館 5 階：内角久美子 本館 7 階：岩田江身子 本館 8 階：木村貴子 救命救急センター2 階：大森史恵	主任会
	11 月 10 日	ナラティブ発表会 西館 4 階：池野みゆき 本館 6 階：高瀬由紀子 本館 7 階：松宮由実	主任会
	2 月 23 日	目標管理「最終研修」	看護部
	2 月 2 日、 3 月 1 日	部署 PDCA 成果発表	主任会
レベル V -2	4 月 19 日	㊦「ワーク・エンゲイジメント向上につながる労務管理～「働きがい」のある職場づくりの具体策～」	看護師長会
	5 月 17 日	医療安全「心理的安全性」	
	6 月 21 日	㊦「質管理～看護を可視化し、質改善につなげる～」	
	7 月 19 日	労務管理 グループワーク	
	8 月 16 日	パートナーシップマインドアンケート分析	
	9 月 20 日	㊦「新しい時代に求められる看護管理～倫理的文化を育むための質管理の役割～」	
	10 月 18 日	接遇倫理研修 事例検討	
	10 月 28 日	目標管理「中間評価」	看護部
	11 月 15 日	㊦「地域をつなぐ多職種連携と看護のリーダーシップ」	看護師長会
	12 月 20 日	マネジメントリフレクション	
	1 月 17 日	医療安全	
	2 月 21 日	パートナーシップマインドアンケート分析	
	2 月 23 日	目標管理「最終評価」	看護部
看護補助員	5 月 22 日 31 日	弾性ストッキングの履き方&脱ぎ方	医療安全管理室
	6 月 1 日 6 日	看護補助者研修	教育委員会
	11 月 1 日 6 日	感染対策(嘔吐物処理の強化研修)	感染対策委員会
	2 月 6 日 13 日	接遇研修	接遇倫理委員会
外来診療 補助員	12 月 7 日	感染対策研修	感染対策委員会
	1 月 19 日	接遇研修	接遇倫理委員会

全職員 対 象	5 月～6 月	看護補助体制充実加算算定のための研修	看護部
	8 月 4 日 9 月 1 日	認知症看護研修 「認知症看護とケアの実際」 講師：認知症看護認定看護師 徳庄徳嗣	認定看護師会
	9 月	23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	看護部
	10 月 27 日	ナラティブ発表会 発表者 本館 4 階：富田絵美 本館 6 階：中川千春 本館 8 階：田中裕美子	主任会
	2 月 9 日	看護研究発表会 ・「失禁関連皮膚炎予防に対する取り組み ～看護師・看護補助員への意識調査を行って～」 本館 6 階 東谷紗希 ・「集中治療領域における早期リハビリテーション導入による効果の検証」 救命救急センター2 階 近藤恵美 ・「COVID-19 患者の隔離病床入院中における心理的ストレス調査」 本館 8 階 呉服かほり	教育委員会
	3 月 7 日	看護倫理 4 原則を用いた症例検討会	接遇倫理委員会
	3 月 14 日	令和 6 年能登半島地震災害支援活動報告会 ・福井県看護協会 災害支援ナースの活動について 本館 5 階 秋長健太 ・日本災害看護学会 被災地看護支援について 西館 3 階 河原千都（災害看護専門看護師）	看護部

院外実習生受け入れ

学校・施設名	実習内容
公立若狭高等看護学院	基礎看護学実習、基礎初期実習 領域別看護学実習 総合実習
敦賀市立看護大学（助産学専攻科）	助産学実習 3 名
敦賀市立看護大学（看護学科）	領域別実習（小児） 救急看護学実習
神戸常盤大学短期大学部 （看護学科通信制過程）	精神看護学実習 学生 2 名 実習期間 2 日間

病院見学・インターンシップ受け入れ

	学 校 等	人 数
病 院 見 学	福井大学医学部看護福祉学部看護学科	1 名
	看護師	3 名
	看護補助員	1 名
	外来診療補助員	3 名
インターンシップ	福井県立大学看護福祉学部看護学科	3 名
	福井県立大学	1 名
	敦賀市立看護大学	3 名
	公立若狭高等看護学院	18 名
	富山県立大学	1 名

研修会講師派遣・地域活動への派遣

主催	内容	派遣者
福井県看護協会	医療看護安全委員会 新人看護職員研修 講師	医療安全管理者 上原慶子
	医療安全管理者研修	
	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル講師	看護部副部長 植村成子
	看護職員認知症対応力向上研修講師	認知症看護認定看護師 徳庄徳嗣
	嶺南地区研修「認知症看護」 ファシリテーター	
	救急看護研修 フィジカルアセス メントシリーズ (呼吸)講師	救急看護認定看護師 千秋美佳
	訪問看護ステーション めいほう	精神科認定看護師 國友博昭
	敦賀市生協訪問看護ステーション ハピナス	災害看護専門看護師 河原千都
認定看護師出前講座	特別養護老人ホーム 松寿苑	感染管理認定看護師 森脇由希江
	介護老人保健施設 アクール若狭	
	嶺南こころの病院 福利厚生施設 悠々	精神科認定看護師 國友博昭
	訪問看護ステーション グッとサポート	
	小浜市民生員対象地域強化事業 「ゲートキーパー養成研修」	
	レイクヒルズ美方病院	皮膚・排泄ケア認定看護師 的場悦子

	訪問看護ステーション グッとサポート	認知症看護認定看護師 徳庄徳嗣
	保健福祉センターなごみ	
	ぴーすふるわかさ 災害看護研修	災害看護専門看護師 河原千都
	ぴーすふるわかさ 防災研修	
	第2回若狭町減炎ナース育成研修	
福井大学医学系部門	障害者就労継続支援施設 小浜 Go 膳プロジェクト検診	災害看護専門看護師 河原千都
	令和5年度若狭町瓜生地区における 拡大検診への参加	
福井大学大学院医学系研究 附属・地域医療高度化教育 研究センター 看護キャリア アップ部門	令和5年度認定看護師教育課程 感染管理分野非常勤講師	感染管理認定看護師 森脇由希江
福井感染制御ネットワーク	感染対策に関する研修会 講師	
北陸 PEG 在宅医療研究会	第17回福井PEGワークショップ	皮膚・排泄ケア認定看護師 的場悦子
日本災害看護学会	令和6年能登半島地震への看護職 派遣(被災地看護支援)	災害看護専門看護師 河原千都
小浜助産師会	うぶごえ活動 母乳育児相談 産後ケア ベビーマッサージ 離乳食キッチン プレパパ&プレママ講座	齋藤美紗子 北村桂子 桂田理津子 石橋春奈 芝田純子 鈴木幸子 小林みゆき 藤田絵美
若狭ロータリークラブ後援 小浜市立小浜第二中学校	2年生と交流会 「ふるさと仕事塾」	片山 花音 今村 夏生 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 おおい町立名田庄中学校	1・2年生と交流会 「医療に関する職業を学ぶ会」	吉村 有加 今村 夏生 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 小浜市立小浜中学校	2年生との交流会 「医療に携わる人々から学ぶ」	畠中 駿 今村 夏生 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 若狭町立上中中学校	2・3年生との交流会 「医療の仕事に関する講演会」	武田 空 藤田 絵美 北村 眞由美
小浜市立小浜中学校	生命誕生講演会	北村 桂子
災害派遣医療チーム活動	能登半島地震 災害派遣医療チーム活動	田中友子、高本祐三恵 近藤恵美、内田雅文 新原徳芳、千賀大地 畑中薫、近藤浩文

日本看護協会	能登半島地震 災害支援ナース活動	秋長 健太
・ 公立若狭高等看護学院への非常勤講師派遣 ・ 地域への救護班派遣 多数 ・ 地域活動、施設ラウンド、会議への参加・協力 多数 ・ 防災訓練、DMAT 訓練等、随時派遣		

資格取得等

資格	氏名
令和 5 年度 福井県保健師助産師看護師実習指導者講習会	松宮由実 西勇貴
令和 5 年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	田中友子 吉田真紀
令和 5 年度認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	清水佐江子 高本祐三恵
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 ー「認知症ケア加算 2 および 3」該当研修ー	近藤恵美、勢間泰子 生田日佳理、清水茉由 鳴戸永美、泉香於里 見城裕也
福井県看護職員認知症対応力向上研修 ー「認知症ケア加算 2 および 3」該当研修ー(福井県委託事業)	堂前貴美 高田順子 堂本さおり 武岡治代
’ 23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	赤崎亜紀、平野佳奈子 石橋春奈、内角久美子 岩田江身子、木村貴子 川島花笑
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版 2022	信谷ちさと
小児在宅移行支援指導者育成研修 修了	今村夏生、竹田菜那
外来における在宅療養支援能力向上のための研修 修了	坂野直美、坪内真紀 塚原里奈、畑中里菜
訪問看護人材養成基礎カリキュラム 修了	中畑久美子
摂食嚥下障害看護認定看護師 B 課程 取得	宮谷綾
がん薬物療法看護認定看護師教育 B 課程 修了 特定行為研修修了(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連)	小島銀也
日本病態栄養学会認定 NST 研修 修了	小林みゆき
認定医療メディエーターB(認定医療対話推進者)取得	辻京子
アドバンス助産師 取得	西尾奈保子、石橋春奈
福井県緩和ケア研修会 修了	松宮由実
3 学会合同呼吸療法認定士 取得	大森史恵、近藤恵美
福井糖尿病療養指導士 取得	中川千春、岡智巳
第 15 回下部尿路症状の排尿ケア講習会 修了	前田敏江、東朋未

院外看護研究発表会

演題名	発表者	大会	会場	日付
地域防災に対して要配慮者と支援者との合同研修会開催の意義	河原 千都	日本災害看護学会 第 25 回年次大会	アクリエひめじ	2023.9.3
A 病院で出産した褥婦の妊娠期におけるバースプランの認識	梶川 詩乃	第 39 回福井県看護学会	福井県看護協会	2023.9.9
精神科病棟における認知症看護～カンフォーダブル・ケアに関する意識の調査からの取り組み～	仲野 優哉	日本精神科看護協会 福井県支部学術集会	アオッサ地域 交流プラザ	2023.10.21

2. 院内委員会 及び 医療チームの 活 動 状 況

倫理委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長 3 名、診療部長 1 名、医療技術部長、薬剤部長、看護部長、事務部長、
外部委員 2 名（弁護士・一般）、病院長（アドバイザー）、事務局（事務部）

《協議事項・活動状況等》

審査

開催日	審査	申請者	計画名
2023.6.09	迅速	小児科 谷澤昭彦	COVID-19 に関するレジストリ研究 【承認済み計画の一部変更】
2023.6.19	迅速	学院 柳橋博子	妊産婦の里帰り分娩の効果に関する 研究
2023.6.23	迅速	内科 永谷菜穂	消化器内視鏡に関連する疾患、治療 手技データベース構築（12.2 版）
2024.1.12	迅速	麻酔科 宗石啓和	当院における術後尿道カテーテル関 連膀胱不快感（CRBD）の発生状況に ついての検討
2024.3.15	迅速	麻酔科 宗石啓和	当院での非閉塞性腸管虚血症 15 例 に対する後方視的検討
2024.3.15	迅速	看護部 中川幸江	集中治療領域における早期リハビリ テーションプロトコール導入による 効果の検証
2024.3.15	迅速	診療放射線科 中森由浩	骨シンチグラフィにおける収集時間 短縮と診断能の相関及び診断精度向 上のための研究

医療安全管理委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、医療安全管理室長（副院長）、医療安全管理者、診療部長、
薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、医療技術部長（医療機器安全管理責任者）、
看護部長、事務部長、看護部副部長（医療安全担当）、老健施設長、
老健総看護師長、総務課員

《協議事項・活動内容等》

（協議事項）

- ・医療安全管理指針の見直し
- ・インシデント報告への対応等
- ・医療安全研修会の企画・実施・報告
- ・各種マニュアルおよび書式等の見直し
- ・ご意見箱の投書内容とその対応の報告
- ・その他

(活動内容)

1) 毎月第2月曜日(定例)委員会 2) 毎週火曜日(定例)小委員会

3) 毎月第4火曜日 小委員会による院内ラウンド

4) 研修会

(1) 全職員対象医療安全研修会

①令和5年7月14日(院内WEB配信:7月24日~8月18日)受講率98.5%

「院内急変時対応 チームビルディング」

②令和5年12月15日(院内WEB配信:12月26日~1月27日)受講率98%

「第11回5S活動報告会」

(2) 医療放射線管理研修会「診療放射線安全使用のために」

医療機器安全管理研修会「MRI事故防止のための当院の取り組み」

院内WEB配信:3月5日~3月26日 受講率82%

(3) 医薬品安全管理研修「医薬品に関する医療安全情報」

院内WEB配信:3月18日~4月5日 受講率53%

(4) 気切チューブ関連 院内認定研修 令和5年6月30日

参加者:医師、研修医、看護師 計48名・新規院内認定者11名

(5) 救急対応BLS・AED研修(コメディカル対象)

令和5年度は計5回開催、参加者97名

(6) 末梢静脈栄養法について 令和5年11月8日

参加者:医師、研修医、薬剤師、医療後術部、看護師、事務部 計50名

5) 医療安全情報の発信

6) 医療安全地域連携加算に係る連携

加算1:市立敦賀病院 令和5年10月31日(敦賀病院が来院)

令和5年11月28日(当院が訪問)

加算2:林病院

令和5年11月21日

<医療安全研修会>



<BLS・AED研修>



<5S活動報告会>



<地域連携加算に係る連携カンファレンス>



<気切チューブ関連研修>



臓器移植普及推進検討委員会

委員長 副院長

委員構成 脳外科医長、臨床検査技師、救命救急センター看護師長、救命救急センター主任看護師、血液浄化センター主任看護師、手術センター看護師、総務課員

《協議事項・活動状況等》

(協議事項)

- ・脳死下臓器提供マニュアルの見直し
- ・院内職員へ周知するための啓発活動
- ・シミュレーション実施、実施に向けての研修等

(活動状況)

委員会、イベント等

令和5年4月27日：2023年度活動計画打ち合わせ

令和5年4月28日：第1回委員会

令和5年5月11日：看護の日イベント（臓器移植ブース設置）

令和5年6月23日：第2回委員会

令和5年7月25日：第3回委員会

令和5年8月25日：第4回委員会

令和5年9月29日：第5回委員会



【 10/1 ～ 10/31 臓器移植普及推進月間 】

＜看護の日 臓器移植ブース＞

→ポスター掲示、リーフレット配布、電子カルテ内グリーンリボン表示等

令和5年10月27日：第6回委員会

令和5年11月24日：第7回委員会

令和6年1月26日：第8回委員会

令和6年3月22日：第9回委員会

研修会・協議会等

令和5年5月26日：第1回院内コーディネーター研修会

令和5年08月09日：第1回臓器移植普及推進連絡協議会

第2回院内コーディネーター研修会

令和5年8月14日：シミュレーション動画研修

令和5年8月16日： //

令和5年8月24日： //

令和5年9月29日：第3回院内コーディネーター研修会

令和5年10月17日：第4回院内コーディネーター研修会

令和5年12月19日：第5回院内コーディネーター研修会

令和6年02月07日：第2回臓器移植普及推進連絡協議会

防災対策委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、老健施設長、医療技術部長、薬剤部長、救命救急センター長
救急総合診療科医長、看護部長、主任看護師、副学院長、老健総師長
事務部長、総務課長補佐、総務課係長

《協議事項・活動状況等》

開催日： 5 月 15 日、2 月 2 日

- (1) 災害対応マニュアル改訂箇所アンケート結果について
- (2) DMAT 活動報告会の開催
「能登半島地震 被災地での DMAT 医療支援活動」



医療ガス安全管理委員会

委員長 手術センター長

委員構成 薬剤部長、医療技術部長、看護部長、総務課長、手術センター看護師長、
総務課長補佐

《協議事項、活動内容等》

開催日： 令和 6 年 3 月 29 日

- (1) 令和 5 年度医療ガス設備保守点検について
- (2) 医療ガス安全管理講習会について
- (3) 医療ガス安全管理講習会の開催（4 月 10 日）



放射線安全委員会

委員長 画像診断センター長

委員構成 放射線取扱主任者、医療技術部長、看護部長、主任診療放射線技師、総務課員

《協議事項・活動状況等》

6 月 30 日：原子力規制委員会への令和 4 年度放射線管理状況報告書の提出

9 月 28 日：委員会開催（放射線障害予防規程改定について）

院内感染対策委員会 (ICT)

委員長 病院長

委員構成 副院長、感染防止対策室長 (ICD)、統括診療部長、診療部長、薬剤部長、
薬剤師、医療技術部長、臨床検査科長、臨床検査技師、看護部長、
看護部副部長、感染管理責任者専従看護師、事務部長、事務部次長、
事務部課 (室) 長、老健施設長、老健総看護師長

《協議事項・院内活動状況等》

- ・委員会：毎月第3木曜日（定例）
- ・ICT環境ラウンド 1回／週
- ・抗菌薬適正使用支援（AST）カンファレンス 1回／週
- ・厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）
- ・感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）サーベイランス
- ・日本環境感染学会サーベイランス（JHAIS）
- ・感染防止対策加算に係る院内感染対策研修会（年2回）
- ・感染対策向上加算1に係る抗菌薬適正使用支援研修会（年2回）
- ・感染対策向上加算1に係る相互チェック
- ・外来感染対策向上加算に係る外来医療機関との連携会議（年2回）
- ・院内感染対策マニュアルの整備・改訂について
- ・薬剤耐性菌、その他感染症の発生状況について
- ・細菌検査室報告
- ・抗菌薬使用状況について
- ・ICT（インфекション・コントロールチーム）活動について
- ・アウトブレイク対応
- ・新人職員オリエンテーションの実施

《院内感染対策講演会・抗菌薬適正使用支援研修会の開催》

開催日：令和5年8月29日

演題：『新型コロナウイルス感染症のまとめ－2類感染症相当時期を振り返って－』

泌尿器科 ICD 鈴木裕志 医師

『令和5年5月8日以降における当院の新型コロナウイルス感染症院内感染
対策－新型コロナ感染対策について－』

感染防止対策室 ICN 刀根正彦 看護師

『抗菌薬適正使用に必要な検体採取～正しい検体採取のすすめ～』

臨床検査技師 内田達弥

開催日：令和6年2月7日

演題：『梅毒について』 泌尿器科 ICD 高原典子 医師

《院外活動状況等》

- ・感染対策向上加算1に係る相互チェック会議（福井総合病院）
- ・感染防止対策加算1に係る加算2医療機関との合同カンファレンス（年4回）
- ・指導強化加算に係る医療機関に対する施設ラウンド（4施設）
- ・福井県看護協会（感染管理地域支援委員会）の参加（年6回）
- ・感染管理地リーダー育成研修会（福井県）の講師（年6回）
- ・福井県感染制御ネットワーク（FICNet）会議
- ・福井県 ICN 交流会（Web 会議）

安全衛生委員会

委員長 病院長（衛生管理者）

委員構成 放射線科主任医長（産業医）、精神科主任医長（衛生管理者）、医療技術部長、
薬剤部長（衛生管理者）、看護部長、事務部長、職員代表 8 名

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第 4 木曜日

- ・定期健康診断の実施（6 月～7 月）
- ・定期健康診断の結果の分析
- ・特定業務従事者健康診断の実施（12 月）
- ・特定業務従事者健康診断結果の分析
- ・ストレスチェックの実施（9 月）
- ・インフルエンザ予防接種の実施（11 月）
- ・B 型肝炎予防接種の実施（9 月～3 月）
- ・化学物質作業環境測定および結果報告（8 月、12 月）
- ・職場巡視・報告

情報システム委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長、医療技術部長、薬剤師、臨床検査技師、看護部副部長、看護師長（2 名）、総務課長、医療サービス課長補佐（2 名）、経営企画課員、医療サービス課員（2 名）

《協議事項・活動状況等》

開催日：4 月 18 日、5 月 23 日、6 月 20 日、9 月 12 日、11 月 21 日、1 月 23 日、
3 月 12 日

- ・病院情報システムの運用管理について
- ・障害発生時の運用について
- ・情報セキュリティ研修の実施
- ・電子処方箋について
- ・中央採血室の自動受付について
- ・患者 WiFi の業務利用について
- ・ネットワークのサーバーのバージョンアップについて

薬事委員会

委員長 副院長

構成委員 病院長（アドバイザー）、診療部長、主任医長、薬剤部長、看護部副部長、
経営企画課長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日： 毎月第3水曜日 16時30分～

5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、
11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月13日

- ・委員会規程改定
- ・新規採用薬剤、削除薬剤の審議
- ・後発医薬品使用割合報告
- ・一般名処方医薬品追加
- ・廃棄薬剤報告
- ・医薬品情報報告

診療録管理委員会

委員長 主任医長

委員構成 病院長、副院長3名、診療部長5名、医療技術部長、看護部副部長、看護師長2名、医療サービス課員、診療支援課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・診療録の管理について

DPC（診療内容検討）委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、看護師長、薬剤部長、診療放射線科長、臨床検査科長、リハビリテーション科長、医療サービス課員、経営強化推進室職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：7月25日、9月26日、12月27日、1月24日、2月28日、3月27日

- ・DPCの適切なコーディングについて
- ・診療報酬査定に関する事について
- ・全職種職員対象の保険診療に関する講習会 開催

第1回 令和6年2月28日～3月15日「最近の査定の傾向について」※WEB開催

第2回 令和6年3月18日「令和6年度診療報酬改定説明会」

院内研修管理委員会（医師臨床研修）

委員長 副院長（プログラム責任者）

委員構成 病院長、副院長、統括診療部長、診療部長、診療部副部長、救命救急センター長、事務部長、看護部副部長

《協議事項・活動状況等》

- 4月3日 新入オリエンテーション、電子カルテ講習、保険診療講習等
- 4月4日 外部委託（㈱インソース）による新卒採用研修
- 4月5日 接遇・倫理講習、個人情報保護講習 等
- 4月6日 他部署研修（薬剤部、画像診断センター、臨床検査科）
- 4月10日 福井県赤十字血液センター オリエンテーション（研修医2年目対象）
- 4月14日 BLS、AED 講習会
- 4月27日 静脈注射講習会（研修医1年目対象）
- 4月19日 第1回 院内研修管理委員会「研修プログラムについて」他
- 4月30日 マイナビRESIDENT FESTIVAL 大阪
- 5月17日 第2回 院内研修管理委員会「募集要項について」他
- 6月17日 福井県専門研修プログラム合同説明会
- 6月21日 第3回 院内研修管理委員会「研修医 施設・プログラム評価について」他
- 6月27日 レジナビ Fair オンライン 2023
- 7月19日 第4回 院内研修管理委員会「選考試験・応募状況について」他
- 8月30日 第5回 院内研修管理委員会「マッチング登録について」他
- 9月20日 第6回 院内研修管理委員会「基本的臨床能力評価試験について」他
- 10月18日 第7回 院内研修管理委員会「2年目研修医の進路について」他
- 10月21日 福井レジデントキャンプ2023
- 11月15日 第8回 院内研修管理委員会「マッチング結果について」他
- 11月25日 レジナビ Fair オンライン 2023
- 12月20日 第9回 院内研修管理委員会「令和6年合同説明会の参加について」他
- 1月17日 第10回 院内研修管理委員会「臨床実習の受入れについて」他
- 1月19日 基本的臨床能力評価試験
- 2月12日 福井県臨床研修病院合同説明会
- 2月21日 第11回 院内研修管理委員会「2年目研修医の評価について」他
- 3月13日 第12回 院内研修管理委員会「次年度の研修について」他
- 3月19日 研修管理委員会「修了判定」「研修計画」他



地域医療連携委員会

- 委員長 副院長（統括診療部長 兼務）
- 委員構成 老健施設長、医療技術部長、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、主任理学療法士、看護部副部長、病棟看護師長、外来看護師長、地域連携室長、事務職員2名

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・消化器内科医師増員のお知らせと紹介のお願いに近隣病院へ訪問
- ・市立敦賀病院 地域医療連携室と面談、意見交換
- ・若狭高浜病院 地域医療連携室と必要時、情報交換

接遇委員会

委員長 看護部副部長

委員構成 医師 3 名、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、言語療法士、放射線技師 2 名、看護部 19 名、事務部 4 名、学院専任教員、老健相談員

目的 公立小浜病院全職員の医療人としてのモラルの高揚と医療サービス内容の充実を図る。

業務 (1) 職員接遇の向上に関する事
(2) 病院接遇の調査に関する事
(3) 接遇教育に関する事
(4) 機関紙「せっちゃん」・接遇に関するポスターの発行
(5) その他必要な事項

開催状況 毎月第 3 火曜日に定例開催、またその他必要時に開催

開催日 5 月 16 日・6 月 20 日・7 月 18 日・8 月 22 日・9 月 19 日、10 月 17 日
11 月 21 日・12 月 19 日、1 月 16 日、2 月 20 日、3 月 19 日

《協議事項・活動状況等》

年間スローガン 「目配り・気配り・心配り」

年間テーマ 5・6 月 「挨拶」、7・8 月 「笑顔」、9・10 月 「言葉遣い」
11・12 月 「態度」、1・2 月 「身だしなみ」

職員接遇の向上に関する事

- ・看護部各部署による身だしなみチェック
- ・ご意見箱の接遇に関する内容を委員会にて電子カルテに公開
- ・部門別研修

病院接遇の調査に関する事

- ・入院満足度調査（令和 6 年 1 月 22 日から 7 日間）
- ・外来満足度調査（令和 5 年 9 月 4 日から 3 日間）

接遇教育に関する事

- ・部門別研修

○部門 外来診療補助員・医師事務作業補助者・事務職員 計 21 名

日時 令和 6 年 1 月 19 日（金）15 時から

内容 クレームのあった内容でロールプレイング

- ・全職員研修

内容 動画視聴研修
機関紙「接遇せつちゃん」の発行
年2回発行（令和5年10月、令和6年2月）

広報委員会

委員長 診療部長
構成委員 副院長、主任医長、薬剤師、看護部副部長、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、リハビリテーション科技師補、栄養士、組合事務局課長、地域連携室長、経営強化推進室員、事務職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：4月25日、10月16日、2月19日
・病院年報第21号発行
・院外広報誌「いきいき」発行（5月、11月、3月）
・病院ホームページの更新
・構成市町広報誌への寄稿

緩和医療検討委員会

委員長 診療部長（外科）
委員構成 医師5名（内科、外科、精神科、泌尿器科、麻酔科）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、看護部職員5名、臨床心理士、地域連携室員、医療サービス課員

《協議事項、活動内容等》

開催日：4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、8月23日、9月27日、
10月25日、11月22日、12月27日、1月24日、2月28日
・緩和ケアラウンド（週1回開催）
※コロナ発生により4月から10月はカルテ診にて実施。11月より病棟回診再開
・勉強会開催（6月28日、8月30日、12月7日、2月29日）

救命救急センター運営委員会

委員長 救命救急センター長
委員構成 病院長、内科診療部長、外科主任医長、脳神経外科医長、救急総合診療科医長、看護部副部長、救命救急センター看護師長、救命救急センター主任看護師、経営強化推進室長、医療サービス課員

《協議事項、活動内容等》

開催日：隔月第4月曜日

- ・救命救急センターの利用状況について
- ・救命救急センター2階病棟 転室基準について
- ・ECMO稼働時の各部署の役割・協力体制について
- ・スケールベッドの運用について
- ・救命救急センター2階における携帯電話の使用について

診療材料検討委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、医療技術部長、看護部副部長、経営企画課長、医療サービス課員、
経営企画課員

《協議事項・活動内容》

開催日：5月25日、7月18日、10月5日、3月19日

- ・診療材料新規採用申請について
- ・既採用品の価格交渉結果について
- ・診療材料値上げに対する切替対応について

医療機器選定委員会

委員長 主任医長

委員構成 副院長、統括診療部長、看護部長、事務部長、経営企画課長、
経営強化推進室長、経営企画課員

《協議事項・活動内容》

開催日：令和6年1月18日

- ・令和6年度医療機器備品等の現況報告資料におけるヒアリング
- ・令和6年度予算計上機器の選定について

輸血療法委員会

委員長 診療部長

委員構成 看護師長2名、主任看護師2名、薬剤師、臨床検査技師、事務職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：5月24日、7月13日、9月21日、11月24日、1月29日、3月18日

- ・適正使用量報告
- ・血液製剤の廃棄量について
- ・輸血マニュアルについて
- ・電子カルテの血液型確定情報表示について
- ・輸血の開始・終了の認証について

- ・血液製剤による院内でのアレルギー対応について
- ・アクシデントの報告
- ・血液センターからの遡及調査の依頼について
- ・血液センターへの副作用報告
- ・血液センターからの輸血情報
- ・症例検討

化学療法室運営委員会

委員長 診療部長（外科）

構成委員 医師 6 名、薬剤部長、薬剤師、看護師長 2 名、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：4 月 26 日、7 月 26 日、10 月 25 日

- ・レジメンの整理、審査、承認
- ・化学療法調整件数、外来化学療法加算算定件数の確認
- ・外来化学療法室の予約枠の見直し

クリニカルパス推進委員会

委員長 副院長（統括診療部長 兼務）

構成医員 医師（整形外科、産婦人科、小児科、泌尿器科、歯科口腔外科、外科）
看護部 8 名、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師
栄養士、医療サービス課員、経営強化推進室員

《協議事項・活動状況等》

開催日：4 月 17 日、5 月 17 日、8 月 31 日、10 月 23 日

- ・クリニカルパス見直し変更について
（検査内容、退院日設定、アウトカム、その他追加項目等について）
- ・患者用パス作成について

手術センター運営委員会

委員長 手術センター長

構成委員 副院長、統括診療部長、診療部長、整形外科主任医長、脳神経外科医長、眼科
医長、耳鼻咽喉科医長、看護部副部長、救命救急 2 階看護師長、手術セン
ター看護師長、本館 5 階看護師長、手術センター主任看護師、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・手術センター運営に関することについて

画像診断運営委員会

委員長 画像診断センター長

構成委員 副院長、診療部長、放射線科主任医長、医療技術部長、主任放射線技師 4 名
看護部副部長、救命救急 1 階看護師長、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・協議事項：画像診断センター運営に関すること

臨床検査適正化委員会

委員長 臨床検査担当医

構成委員 健診センター副センター長、医療技術部長、臨床検査科長、臨床検査技師 2 名
看護師長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：3 月 15 日

- ・業務量等について
- ・日本臨床検査技師会精度管理調査について
- ・次年度購入要望機器について
- ・マグネシウム（Mg）に関して
- ・検体検査管理加算Ⅳの算定について

院内保育所運営委員会

委員長 総務課長

構成委員 看護部長、総務課長補佐、保育士、総務課員、看護学院事務職員、
老健総看護師長

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・院内保育所ふくろうの運営について

栄養治療食委員会

委員長 食事療法科長

構成委員 診療部副部長、医療技術部長、栄養士 2 名、調理師 2 名、看護師長、
主任看護師 2 名、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・食事提供に関することについて

図書委員会

委員長 診療部長
構成委員 薬剤部長、主任診療放射線技師、栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、
臨床工学技士、看護部副部長、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：2月27日

- ・次年度購入雑誌の選定について
- ・図書室の移転について

血液浄化センター運営委員会

委員長 血液浄化センター長代理
委員構成 病院長、副院長、副センター長、看護部副部長、臨床工学科長、
血液浄化センター看護師長、医療サービス課長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：6月23日、3月14日

- ・新型コロナウイルス感染症 血液浄化センター対応マニュアルについて
- ・緊急で血液浄化療法が必要となった場合の対応について
- ・土、日、祝日、時間外の CE 連絡手順について
- ・透析室ベッド稼働状況について
- ・透析当番医表について

患者サポート委員会

委員長 事務部長
委員構成 副院長、薬剤部長、医療技術部長、看護部副部長、医療安全管理者、
地域連携室長、事務職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎週金曜日（定例）

- ・患者相談窓口での相談事項について
- ・意見箱へ寄せられた意見への対応について
- ・その他 各部からの相談事項について

行動制限最小化委員会

委員長 精神科主任医長
委員構成 精神科医師、精神科病棟看護師長・主任看護師・看護師、精神保健福祉士

《協議事項・活動状況等》

- ・行動制限患者に対する病状改善について
- ・行動制限の状況の適切性について
- ・行動制限最小化に向けた取り組みについて

(活動内容等)

開催日：毎月第4火・木曜日（定例）

研修会：令和6年3月27日「行動制限最小化について」

令和6年3月28日「精神保健福祉法について」

褥瘡対策委員会

委員長 副院長

委員構成 皮膚科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、
看護師長、看護師 15 名

目的 入院生活における褥瘡を防止、治療し QOL を改善する。

《協議事項・活動状況等》

開催日：4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、9月15日、
10月20日、11月17日、12月15日、1月19日、2月16日、3月15日

・病棟回診：毎週火曜日 15 時から

毎月 1、3、5 火曜日：本館・東館・新規依頼患者

毎月 2、4 火曜日：西館・新規依頼患者

・入院患者褥瘡発生率調査

・エアマット管理強化状況調査

・ポジショニングラウンドの実施

・症例発表（褥瘡回診で介入した症例について、経過や治療内容をまとめ、院内に掲示）

・院内研修会の開催

第1回 令和6年3月22日「おむつのあて方勉強会」 ・講師：柊ユニチャーム

第2回 令和6年3月「褥瘡回診で介入した患者の症例について」※WEB 開催

医療機器安全管理委員会

委員長 医療機器安全管理責任者（医療技術部長）

委員構成 手術センター長、臨床工学科長、臨床検査科長、看護師長 6 名
経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：9月19日-

・人工呼吸器の管理・運用について

研修会：令和5年4月1日「医療機器安全管理講習」（新人オリエンテーション）

ハラスメント防止対策委員会

委員長 看護部長

構成委員 副院長、事務部長、看護部副部長、食事療法科長、経営企画課長、
学院副学院長、老健総看護師長

《協議事項・活動状況等》

開催日：5月1日、7月11日、8月18日、12月7日

- ・委員会規程等の見直し
- ・ハラスメントマニュアルの改定
- ・相談案件に対する対応（随時）
- ・令和5年度研修会開催について（研修内容・研修期間の検討、評価）
- ・研修会の開催

内 容：「ハラスメント防止対策研修会」

開催日：令和5年9月22日

講 師：社会保険労務士 医療労務管理アドバイザー 國久弘敏氏

リハビリテーション運営委員会

委員長 副院長（統括診療部長 兼務）

委員構成 副院長、診療部長、泌尿器科医長、整形外科主任医長、精神科主任医長、
耳鼻いんこう科医長、医療技術部長、看護部長、看護部副部長、病棟看護師長3
名、リハビリテーション科長・理学療法士、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・リハビリテーションの運営について

医療放射線管理委員会

委員長 画像診断センター長

委員構成 病院長、放射線取扱主任者、医療技術部長、主任診療放射線技師、看護部長、
総務課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・診療放射線の安全利用に係る管理について

医師の負担軽減および処遇の改善委員会

委員長 副院長（統括診療部長 兼務）

委員構成 副院長、診療部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、事務部長、総務課長
病院長（オブザーバー）

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第4金曜日

- ・委員会での超過勤務実績の報告
- ・医局会での超過勤務実績報告
- ・超過勤務短縮に関する検討

健診センター運営委員会

委員長 健診センター副センター長

委員構成 副院長2名、診療部長1名、主任医長1名、医長2名、看護師長2名、主任放射線技師、主任検査技師、事務局（事務部）

《協議事項・活動状況等》

開催日：5月18日、6月15日、2月27日

- ・健診センターの現状について（提案、課題など）
- ・今後の方針等について
- ・認知機能セルフチェッカーの導入、特定健診の増枠

透析機器安全管理委員会

委員長 血液浄化センター長（代理）

委員構成 副センター長、臨床工学科長、血液浄化センター看護師長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：6月23日、3月14日

- ・透析液水質検査結果報告について
- ・次年度透析液水質検査計画について
- ・当年度の機器更新について

人事評価制度運営委員会

委員長 副院長（老健施設長 兼務）

委員構成 統括診療部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、事務部次長、看護部副部長、リハビリテーション科長、看護学院副院長、老健総看護師長、美方病院総看護師長、組合事務局課長補佐

《協議事項・活動状況等》

開催日：5月11日、7月13日、9月28日、11月30日、12月18日、3月22日

- ・委員会規程および目標について
- ・人事評価年間スケジュールについて
- ・多面評価者の選定および実施

- ・令和4年度人事評価の集計結果について
- ・人事評価システムの導入および選定について
- ・公立小浜病院組合 人事評価制度ガイドラインの改定について

薬草園運営委員会

委員長 病院長
 構成委員 小西名誉院長、薬剤部長、総務課員
 外部委員 アドバイザー 渡辺 斉 氏（日本植物園協会名誉会員）
 すみれの会 竹島会長、網本元会長、出口次期役員、平田次期役員

《協議事項・活動状況等》

開催日：5月10日、7月4日

- ・令和5年度外部委員への委嘱状交付
- ・薬草園開園10周年記念行事について、今年度は恒例の見学会と10周年の記念講演会を、春と秋に分けて開催することとした。

(1) 薬草に親しむ会

開催日：令和5年5月27日（土）14時から

内 容：市民や園芸ボランティア「すみれの会」、共催する小浜市の「歴史と文化を守る市民の会」の会員のほか、病院関係者など約40人が参加した。これまで新型コロナ禍のため開催を見送ってきたが、この日4年ぶりに開催し、薬草園の一角にアドバイザー渡辺委員より寄贈のカラタネオガタマの苗木を記念植樹した。同園には、約120種類の薬用植物や香辛料になる植物が植えられている。植樹後に、渡辺斉アドバイザーにより、園内の植物の特徴についての解説が行われた。

(2) 中川淳庵顕彰薬草園 開園10周年記念式典ならびに講演会

開催日：令和5年10月28日（土）14時から

会 場：小浜市まちの駅、旭座

内 容：感謝状贈呈式 渡辺斉アドバイザー、園芸ボランティア すみれの会
 講演1 武長秀樹 現代医療における漢方薬の役割
 講演2 大橋正博 上田三平著「日本薬園史」を巡って

- ※ 当日は資料として、発足以来の歩みを綴ったパンフレットと植えられている薬草一覧を作成・配布した。記念品として薬草園の歴史、薬草の解説、すみれの会の活動記録であるホームページ（<https://yakusouen.obamahp-wakasa.jp>）などを収録したCDを添付した「中川淳庵顕彰薬草園の歩み」開園10周年記念誌を編集し、2024年3月15日に発行した。

排尿ケアチーム

リーダー 泌尿器科医長
 チーム構成 看護師長、看護師7名、理学療法士、事務職員

《活動状況等》

- ・週 1 回（水曜日）排尿ケア回診実施（排尿ケア回診：年間 4 3 回）
- ・包括的排尿ケアの計画策定及び評価（評価件数 1 6 4 件）
- ・排尿ケアチーム、病棟看護師等による患者への指導・援助
- ・病棟看護師へ専門的ケアの教育
- ・「第 35 回北陸排尿障害研究会プログラム」リモート講演会開催（2023.7.2）

栄養サポートチーム（NST）

リーダー 救急総合診療科医長

チーム構成 医師 4 名、管理栄養士 2 名、薬剤師 3 名、臨床検査技師、言語聴覚士、
看護師 2 名、リンクナース 9 名、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第 1 月曜日

- ・栄養アセスメント（栄養評価）、疾患に応じた適切な栄養投与計画作成・提案
- ・チーム（医師、看護師、管理栄養士、薬剤師等）による回診、カンファレンスの実施
(週 2 回)
- ・栄養治療実施計画書 兼 報告書作成件数 1,194 件
- ・退院時、転院先・かかりつけ医宛て栄養情報提供書の作成
- ・適切な栄養ルートの検討と、主治医への提言
- ・ミールラウンドの実施、摂食嚥下状況の確認・評価・再計画
- ・NST 終了時退院前栄養指導の実施
- ・臨床栄養に関する勉強会などの研究活動
- ・早期栄養介入管理加算算定件数 1,420 件
- ・水分のとりみ調整基準・マニュアルの改定・施行
- ・NST 介入基準の見直し
- ・業務改善・半固形経腸栄養剤の水分含有タイプの採用と注入メニュー提案

《講演・研修》

- ・5 月 19 日 全病棟看護師・看護補助員、言語聴覚士、NST・医療スタッフ対象勉強会
「改定当院の『お茶（水分）のとりみ調整基準』、摂食嚥下の基礎、学会分類 2021、とりみ調整食品の種類と特徴、お茶のとりみの作り方・実習」
39 名参加
- ・9 月 27 日 本館 7 階病棟勉強会 「NST 活動と介入の流れについて」 13 名参加
- ・9 月 29 日 栄養士・調理師対象勉強会
「改定水分のとりみ調整基準・実習」 11 名参加
- ・10 月 2 日 入院患者の再評価のための体重測定について討議
(看護部副部長・各階 NST リンクナース・代表看護師参加)
- ・10 月 11 日 栄養士・調理師対象勉強会
「改定水分のとりみ調整基準・実習」 3 名参加

- ・11月6日 水分含有タイプ半固形経腸栄養剤（PGソフト → PGソフトエース）
変更についてトライアル結果、討議（西館4階看護師長参加）

術後疼痛管理チーム

リーダー 診療部長

チーム構成 薬剤師、手術看護認定看護師、手術センター看護師、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・全身麻酔を受けた患者で手術後に継続した硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入、麻薬を静脈内注射により投与している方に対し、術後疼痛管理、術後悪心嘔吐（PONV）対策を行い、評価を実施。

3. 学 術 活 動 等

【学会発表】

- ・ COVID-19感染を契機にPRES(Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome)を発症した血液透析患者の1例 坂下紗弓、島本侑樹、糟野健司、西川 翔、西森一久、西川雄大、小林麻美子、高橋直生、岩野正之 第68回日本透析医学会学術集会 神戸市 2023.6.17
- ・ 治療が先行してもランダム皮膚生検が有用であった血管内大細胞性リンパ腫の1例 長谷川竜也、玉直人、松田安史、松本玲奈、細野菜穂子 第250回日本内科学会北陸地方会 永平寺町 2023.6.18
- ・ 抗 VEGFR2 抗体投与により糸球体微小血管症を発症した一例 酒井雅人、吉田治義 第53回日本腎臓学会西部学術大会 岡山市 2023.10.7
- ・ 抗 VEGFR2 抗体投与により糸球体微小血管症による広範な糸球体障害を発症した一例 酒井雅人、吉田治義、岡田英志、増田貴博、長田太助 第62回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会、第346回日本臨床化学会東海・北陸支部例会、連合大会 津市 2024.3.2
- ・ 術後26年目に多発骨転移再発を来した胃の印環細胞癌の1例 齋藤大雅、井上元気、田邊陽邦、村田陽介、永谷菜穂、汐見雄一郎 第252回日本内科学会北陸地方会 福井大学医学部附属病院 2024.3.3
- ・ HSCT for children and adolescents/young adults with de novo blast phase CML in the TKI era Hisashi Ishida, Hiroyuki Shimada, Akihiko Tanizawa, Yutaka Shimazu, Takayoshi Tachibana, Noriko Doki, Takahide Ara, Yayoi Matsuo, Miho Nara, Tomomi Toubai, Kazuko Ino, Hirohisa Nakamae, Keisuke Kato, Koji Kato, Atsushi Sato, Moeko Hino, Kimikazu Matsumoto, Yoshiko Atsuta, Masahiro Yasui, Tokiko Nagamura 第85回日本血液学会学術集会 東京 2023.10.13-15
- ・ Ponatinib in children with relapsed or refractory Philadelphia chromosome-positive leukemia Yuichi Kodama, Masanori Nishi, Atsushi Sato, Chiyo Imamura, Takao Deguchi, Akihiro Hirakawa, Nobutaka Kiyokawa, Kentaro Ohki, Haruko Shima, Keisuke Kato, Motohiro Kato, Hirohide Kawasaki, Hirotoshi Sakaguchi, Hidefumi Hiramatsu, Hiroaki Goto, Shohei Yamamoto, Masaki Ito, Akihiko Tanizawa, Yuki Yuza, Akiko Saito, Chitose Ogawa, Takashi Taga, Soichi Adachi, Hiroyuki Shimada 第85回日本血液学会学術集会 東京 2023.10.13-15

- ・若狭・嶺南地区の就学前健診における知能検査の実施状況について 原慶和 第 338 回日本小児科学会北陸地方会・第 27 回日本小児科学会福井地方会 福井大学医学部附属病院 2023.6.11
- ・CT 画像のテクスチャー解析に基づく未熟奇形腫の新たな鑑別診断法の確立 中森あかり、津吉秀昭、加藤将人、藤田将行、清水可奈子、井上大輔、宮崎有美子、山田しず佳、白藤文、川村裕志、高橋望、玉村千代、品川明子、折坂誠、黒川哲司、吉田好雄 第 51 回北陸産科婦人科学会 2023.6.3-4 (最優秀演題賞)
- ・CT 画像のテクスチャー解析に基づく未熟奇形腫の新たな鑑別診断法の確立 中森あかり、津吉秀昭、加藤将人、藤田将行、清水可奈子、井上大輔、宮崎有美子、山田しず佳、白藤文、川村裕志、高橋望、玉村千代、品川明子、折坂誠、黒川哲司、吉田好雄 第 70 回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会 アートホテル弘前シティ 2023.9.22-24
- ・髄膜炎菌性尿道炎の 1 例 高原典子、勝木舞結、内田達弥、宮谷恵里佳、鈴木裕志 第 475 回日本泌尿器科学会北陸地方会 金沢市 2023.7.29
- ・精巣上体腫瘍と鑑別を要した精子肉芽腫症の 1 例 勝木舞結、高原典子、鈴木裕志、内木宏延 第 476 回日本泌尿器科学会北陸地方会 金沢市 2023.11.18
- ・口腔リンパ上皮性嚢胞の 2 例 林樹、牧田浩樹、土井田誠、山田陽一 第 48 回(公社)日本口腔外科学会中部支部学術集会 じゅうろくプラザ(岐阜市) 2023.6.4
- ・インフルエンザ大流行時の対応と課題 村瀬英樹、上原敏、梅木誠一郎、白波瀬正樹、林博子、山崎寛、高畠崇太、中島優太、青山修一、中静美紀、加藤英治 第 63 回北陸信越薬剤師大会・第 56 回同学術大会 朱鷺メッセ(新潟市) 2023.10.8-9
- ・外傷性脳出血後に運動開始困難を呈し股関節伸展と足関節背屈の随意運動に困難さが残存した症例ー後進歩行と靴下・靴の更衣動作に着目してー 時下由宇 第 39 回東海北陸理学療法学会 小松市 2023.9.30
- ・OT が行う学童野球チームでのトレーナー活動についての報告 吉村真樹 第 10 回福井県作業療法学会 あわら市商工会 2024.3.16
- ・地域防災に対して要配慮者と支援者との合同研修会開催の意義 河原千都 日本災害看護学会第 25 回年次大会 アクリエひめじ 2023.9.3
- ・A 病院で出産した褥婦の妊娠期におけるバースプランの認識 梶川詩乃 第 39 回福井県看護学会 福井県看護協会 2023.9.9
- ・精神科病棟における認知症看護～カンフォータブル・ケアに関する意識の調査からの

【論文】

- A Case of IgG4-related Retroperitoneal Fibrosis and Hypophysitis with Antecedent Respiratory Disease followed by Spontaneous Remission and Recurrence. Masato Sakai, Yuta Ohno, Nana Kozuki, Yuki Kawasaki, Michiko Yoshida, Hiroyuki Ikeda, Junji Konishi, Toshiki Maeda, Motoki Sugano, Satoshi Kawakami, Isao Ito, Aina Yamaguchi, Hironobu Naiki, Kenji Notohara, Takashi Akamizu, Mitsuhiro Kawano and Haruyoshi Yoshida Mod Rheumatol Case Rep 2024, 8(1): 163-171. Advance Access Publication Date: 7 July 2023.
- 双孔式 S 状結腸ストーマ脱出に対して自動縫合器による修復術を施行した 1 例 林泰生、横山翔平、佐藤里咲、岸和樹、渡辺倫夫、前田敏樹、菅野元喜 臨床雑誌 外科 85 巻 13 号 : 1446-1453, 2023
- Allogeneic stem cell transplantation for children and adolescents/young adults with de novo blastic phase chronic myeloid leukemia in the tyrosine kinase inhibitor era. Ishida H, Shimada H, Tanizawa A, Shimazu Y, Tachibana T, Doki N, Ara T, Matsuo Y, Nara M, Toubai T, Ino K, Nakamae H, Kato K, Kato K, Sato A, Hino M, Matsumoto K, Atsuta Y, Yasui M, Nagamura-Inoue T. Am J Hematol 2023 May 12. doi: 10.1002/ajh.26959.
- 経膈分娩後の子宮出血に対して OB バルーンを経膈的に使用し止血を得た 1 例 中森あかり、横田貴子、荒木皓光、榎本咲子、高橋仁、小林寛人、堀芳秋、加藤じゅん、田中政彰 日本産科婦人科学会雑誌 76 巻臨時増刊号 : S.594, 2024
- Factors affecting reasonable duration of continuous electrocardiographic monitoring to detect atrial fibrillation in acute ischemic stroke. Tsunetoshi C, Tsunetoshi K, Komori O, Higashino Y, Isozaki M, Arai Y, Arai H, Yamada S, Arishima H, Hasegawa M, Kikuta K. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023 Aug;32(8):107173. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2023.107173. Epub 2023 May 13
- 前舌腺由来と考えられた上皮筋上皮癌の 1 例 阿部幸二郎、山下知己、林 樹、井上敬介、土井田誠、柴田敏之 日本口腔外科学会雑誌 69 巻 7 号 : 341-347, 2023

- ・ 杉田玄白記念公立小浜病院歯科口腔外科における過去 10 年間の外来手術の臨床統計的検討 (2013～2022 年) 土井田誠、水井工、片岡辰明、安藤幸司、杉山健、林樹、波野公香、阿部幸二郎、山田賢議、山下知己 公立小浜病院年報 第 21 号：97-105, 2023
- ・ 杉田玄白記念公立小浜病院歯科口腔外科における過去 10 年間の入院症例の臨床統計的検討 (2013～2022 年) 土井田誠、水井工、片岡辰明、安藤幸司、杉山 健、林樹、波野公香、阿部幸二郎、山田賢議、飯田一規、畠山大二郎、加藤恵三、山下知己、柴田敏之 公立小浜病院年報 第 21 号：106-118, 2023
- ・ Two cases of oral lymphoepithelial cyst Itsuki HAYASHI, Makoto TOIDA, Hiroki MAKITA, Wataru KATAGIRI, Yoichi YAMADA In: ORAL SCIENCE IN JAPAN 2023 (単行本), Japanese Stomatological Society pp.27-28, 2023
- ・ Epstein-Barr virus-positive mucosal skin ulcer resulting in oral lesions during concomitant use of tacrolimus and prednisolone. Itsuki HAYASHI, Makoto TOIDA Cureus 2024 Mar 27 ; 16(3) : e57091. doi : 10.7759/cureus. 57091. eCollection 2024 Mar. PMID: 38681285

【講演会】

- ・ 研究集会「コロナと医療と街づくり」 小浜市における街おこし第 10 回 地域医療・介護研究会 JAPAN (LMC) 小西淳二 都ホテル (京都市) 2023.9.16
- ・ 「CokoUta かふえ」 講師 原慶和 於：cokouta (小浜市後瀬町) 2023.10.21
- ・ 医師と小児慢性特定疾病のお子さんを持つ保護者の相談会 相談助言者：原慶和 (コロナ禍のため、電話での相談助言のみ実施) 於：小児慢性特定疾病児童等自立相談所 (福井県総合福祉相談所内) 2023.11.17
- ・ 薬剤師のための緑内障薬物治療アップデート 2023 柿本宙志 APO フォーラム若狭勉強会 せくみ屋 (小浜市) 2023.10.26
- ・ 地域・僻地医療に根ざす病院薬剤師として～私の現在地と未来のビジョン 北野拓真 令和 5 年度薬学生のための飛騨高山実施研修 飛騨・世界生活文化センター (高山市) 2023.9.10
- ・ 制吐療法の臨床的意義を考える 白波瀬正樹 制吐療法講演会 in Fukui～アロカリス発売 1 周年記念講演会 オンライン開催 2023.9.23

- ・ステロイド薬についていっしょに学びましょう 白波瀬正樹 難病患者・家族相談会
小浜市総合福祉センター・若狭健康福祉センター（小浜市）2024.1.18、2024.2.5

<小浜病院健康講座>

- ・ピロリ菌と胃がん～あなたの胃にもいませんか？ 永谷菜穂 小浜働く婦人の家（小浜市）2023.7.22
- ・最も多い目の病気～白内障と緑内障を正しく理解しよう!! 柿本宙志 小浜働く婦人の家（小浜市）2023.7.22
- ・ひざの痛みを理解しよう～変形性ひざ関節症を中心に 竹野建一 小浜働く婦人の家（小浜市）2023.12.3
- ・脳外科医から診た認知症 廣瀬敏士 小浜働く婦人の家（小浜市）2023.12.3
- ・介護サービスのお話 大江良生 小浜働く婦人の家（小浜市）2023.12.3

【著書・報告・その他】

- ・開園 10 周年を迎えて 小西淳二 中川淳庵顕彰薬草園の歩み(開園 10 周年記念誌、中川淳庵顕彰薬草園運営委員会編集) P7 2024.3.15 発行
- ・「中川淳庵顕彰薬草園」の開設趣意書 小西淳二 中川淳庵顕彰薬草園の歩み(開園 10 周年記念誌、中川淳庵顕彰薬草園運営委員会編集) P20 2024.3.15 発行
- ・中川淳庵と本草学 小西淳二 中川淳庵顕彰薬草園の歩み(開園 10 周年記念誌、中川淳庵顕彰薬草園運営委員会編集) P24 2024.3.15 発行
- ・長編時代小説に登場する中川淳庵 小西淳二 中川淳庵顕彰薬草園の歩み(開園 10 周年記念誌、中川淳庵顕彰薬草園運営委員会編集) P45 2024.3.15 発行
- ・「薬草園ことはじめ」 小西淳二 中川淳庵顕彰薬草園の歩み(開園 10 周年記念誌、中川淳庵顕彰薬草園運営委員会編集) P46-50 2024.3.15 発行
- ・トレーシングレポートについて 白波瀬正樹 福井県薬剤師会会報 第 204 号 p8-9 2023 年秋号

【院内活動】

＜京大連携「わかさせミナー」＞

平成 26 年 4 月に京都大学医学部に開設された公立小浜病院組合寄付講座「地域医療システム学講座」(代表 木下 秀之 特定准教授)の地域活動の一環として、小浜医師会及び関連製薬会社との共催で毎月開催し好評を得ている。院内外の医療従事者を対象に京都大学および関連病院の若手医師が臨床トピックスを講演している。

令和 5 年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらハイブリッド形式(オンライン併用)で開催を行った。

第 91 回 2023.4.24 「疼痛コントロールにおける漢方薬の活用」

京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 漢方診療ユニット

助教 加藤 果林 先生

第 92 回 2023.5.29 「Onconeurology 腎臓病とがん」

京都大学大学院 医学研究科 腎臓内科学 講師 松原 雄 先生

第 93 回 2023.6.29 「鉄欠乏対策による女性ヘルスケアの土台づくり」

京都大学大学院 医学研究科 婦人科学産科学 助教 江川 美保 先生

第 94 回 2023.7.27 「疾患としての慢性偏頭痛認識と診療の実践」

京都大学大学院 医学研究科 附属脳機能総合研究センター

神経機能回復・再生医学講座 特定助教 島 淳 先生

第 95 回 2023.8.24 「腎臓病の新しい治療と CKD 病診連携の重要性

(腎性貧血を中心に)」

関西電力病院 腎臓内科 部長 石井 輝 先生

第 96 回 2023.9.26 「京大病院リエゾンチームの取り組み

～不眠症診療・せん妄リスク対策を含めて～」

京都大学医学部附属病院 精神神経科 特定病院助教 戸瀬 景菜 先生

第 97 回 2023.10.13 「せん妄のとらえ方と向精神薬の使い方」

京都大学医学部附属病院 精神神経科 川島 啓嗣 先生

第 98 回 2023.11.17 「骨カルシウム代謝疾患の最近の話題

FGF23 関連疾患を含めて」

京都大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科 助教 藤井 寿人 先生

第 99 回 2023.12.14 「心不全薬物治療の up to date、

心不全患者の高カリウム血症に対する新たな治療戦略」

京都大学医学研究科 地域医療システム学・循環器内科学 特定講師 牧山 武 先生

第 100 回 2024.1.12 「肝胆道癌をメスでどこまで治せるか？」

～低侵襲手術から移植まで～

京都大学医学研究科 肝胆膵・移植外科 教授 波多野 悦朗 先生

第 101 回 2024.2.6 「イメグリミンの膵β細胞量保護効果と

膵ミトコンドリアへの作用」

京都大学大学院 医学系研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 助教 村上 隆亮 先生

第 102 回 2024.3.14 「身近だが謎の多い蕁麻疹その病態と治療について」

京都大学医学部附属病院 皮膚科学 特定教授 神戸 直智 先生

<医局カンファレンス>

4 月 19 日 『小児てんかん重積状態の治療』 小児科 佐野 正太郎

5 月 17 日 『HPV ワクチンについてー最初のペンギンになろう』

産婦人科 中森 あかり・新谷 万智子

6 月 21 日 『当科における最近 10 年間(2013-2022)の口腔外科手術について』

歯科口腔外科 土井田 誠

7 月 19 日 『先人の足跡ー智・仁・勇を体現した外科の先達』 外科 前田 敏樹

9 月 20 日 『嚥下障害の理想と現実』 耳鼻科 富田 かおり

10 月 18 日 特別講演『陽子線がん治療について』

福井県立病院 陽子線がん治療センター長 玉村 裕保 先生

11 月 15 日 『前立腺肥大症の新しい治療法について』 泌尿器科 高原 典子

1 月 17 日 『日常診療で役立つ画像所見』 放射線科 吉川 大介

2 月 21 日 『アルツハイマー病の新薬「レカネマブ」の適応について』

内科 眞田 采也加

<院内感染対策講演会・抗菌薬適正使用支援研修会>

1 回目 開催日：令和 5 年 8 月 29 日

演題：『新型コロナウイルス感染症のまとめー2類感染症相当時期を振り返ってー』

泌尿器科 ICD 鈴木裕志 医師

『令和 5 年 5 月 8 日以降における当院の新型コロナウイルス感染症院内
感染対策ー新型コロナ感染対策について - 』

感染防止対策室 ICN 刀根正彦 看護師

『抗菌薬適正使用に必要な検体採取～正しい検体採取のすすめ～』

臨床検査技師 内田達弥

2 回目 開催日：令和 6 年 2 月 7 日

演 題：『梅毒について』 泌尿器科 ICD 高原典子 医師

<医薬品の安全使用のための研修>

開催日：令和 6 年 3 月（院内 WEB 配信）

演 題：『医薬品に関する医療安全情報』

<医療安全研修会>

1 回目 開催日：令和 5 年 7 月 14 日

演 題：『院内急変時対応 チームビルディング』

2 回目 開催日：令和 5 年 12 月 15 日

演 題：『第 11 回 5S 活動報告会』

<臨床研修医研究発表会>

第 24 回 令和 5 年 9 月 8 日 18 時～

I 大腿骨転子部骨折の保存的加療中に発症したせん妄の一例

研修医 2 年目 高島 一

II 胎盤低形成による胎児発育不全の一例

研修医 2 年目 辻 季野

III 診断に苦慮した結核性肺炎の一例

研修医 2 年目 奈嶋 美緒

IV ビーフリード®の末梢静脈投与がエントリーとなった *Bacillus cereus* 菌血症の一例

研修医 2 年目 黄 圭正

第 25 回 令和 6 年 3 月 8 日 18 時～

I 感染経路不明の肝膿瘍の一例

研修医 1 年目 伊藤 皓亮

II リスペリドン内服開始 1 か月後に悪性症候群を発症した一例

研修医 1 年目 川瀬 雅人

III 外眼筋麻痺で救急外来を受診し、フィッシャー症候群と診断した一例

研修医 2 年目 高島 一

IV 行路病者におけるウェルニッケ脳症の一例

研修医 2 年目 辻 季野

V ビスホスホネート製剤の長期投与により非定型大腿骨骨折を来した一例

研修医 1 年目 奈嶋 美緒

VI 睡眠治療薬の現在

研修医 1 年目 黄 圭正

<看護研究発表会>

令和 6 年 2 月 9 日 本館 9 階大会議室

I 失禁関連皮膚炎予防に対する取り組み

～看護師・看護補助員への意識調査を行って～

本館 6 階 東谷紗希

II 集中治療領域における早期リハビリテーション導入による効果の検証

救命救急センター2 階 近藤恵美

III COVID-19 患者の隔離病床入院中における心理的ストレス調査

本館 8 階 呉服かほり

Ⅲ. 各種統計

延べ外来患者数 診療科別 () は診療実日数

診療科	令和3年度 (242日)	令和4年度 (242日)	令和5年度 (242日)	前年度比
内科・循環器内科	53,287	52,336	51,402	△ 934
外科・消化器外科	7,893	7,867	8,395	528
整形外科	19,255	18,495	18,859	364
脳神経外科	5,565	5,192	5,217	25
小児科	11,895	12,278	11,730	△ 548
産婦人科	9,652	8,571	8,828	257
精神科	12,297	12,322	12,698	376
耳鼻いんこう科	6,444	6,437	7,722	1,285
眼科	11,725	11,604	11,901	297
皮膚科	6,218	6,082	7,267	1,185
泌尿器科	9,421	9,329	9,279	△ 50
麻酔科	0	0	0	0
放射線科	1,313	1,195	1,199	4
歯科口腔外科	13,772	13,179	12,651	△ 528
心臓血管外科	161	192	205	13
形成外科	793	793	791	△ 2
救急総合診療科	8,009	8,447	9,477	1,030
合 計	177,700	174,319	177,621	3,302

() は診療実日数

1日平均外来患者数 診療科別

診療科	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
内科・循環器内科	220.2	216.3	212.4	△ 3.9
外科・消化器外科	32.6	32.5	34.7	2.2
整形外科	79.6	76.4	77.9	1.5
脳神経外科	23.0	21.5	21.6	0.1
小児科	49.2	50.7	48.5	△ 2.2
産婦人科	39.9	35.4	36.5	1.1
精神科	50.8	50.9	52.5	1.6
耳鼻いんこう科	26.6	26.6	31.9	5.3
眼科	48.5	48.0	49.2	1.2
皮膚科	25.7	25.1	30.0	4.9
泌尿器科	38.9	38.5	38.3	△ 0.2
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	5.4	4.9	5.0	0.1
歯科口腔外科	56.9	54.5	52.3	△ 2.2
心臓血管外科	0.7	0.8	0.8	0.0
形成外科	3.3	3.3	3.3	0.0
救急総合診療科	33.1	34.9	39.2	4.3
合 計	734.3	720.3	734.0	13.7

※小数点第2四捨五入

延べ外来患者数 市町別 () は診療実日数

市 町 名		令和 3 年度 (242 日)	令和 4 年度 (242 日)	令和 5 年度 (242 日)	構成比
小 浜 市		121,035	118,206	120,440	67.8%
若狭町	旧上中町	17,691	17,515	17,690	10.0%
	旧三方町	6,201	5,865	6,085	3.4%
おおい町	旧名田庄村	6,875	6,794	6,924	3.9%
	旧大飯町	10,815	10,803	10,781	6.1%
美 浜 町		1,196	1,254	1,343	0.8%
高 浜 町		10,045	9,882	10,518	5.9%
その他地域 (県内)		1,427	1,542	1,581	0.9%
その他地域 (県外)		2,415	2,458	2,259	1.3%
合 計		177,700	174,319	177,621	100.0%

() は診療実日数

1 日平均外来患者数 市町別

市 町 名		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
小 浜 市		500.1	488.5	497.7	9.2
若狭町	旧上中町	73.1	72.4	73.1	0.7
	旧三方町	25.6	24.2	25.1	0.9
おおい町	旧名田庄村	28.4	28.1	28.6	0.5
	旧大飯町	44.7	44.6	44.5	△ 0.1
美 浜 町		4.9	5.2	5.5	0.3
高 浜 町		41.5	40.8	43.5	2.7
その他地域 (県内)		5.9	6.4	6.5	0.1
その他地域 (県外)		10.0	10.2	9.3	△ 0.9
合 計		734.3	720.3	734.0	13.7

※小数点第 2 位四捨五入

延べ入院患者数 診療科別

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
内科・循環器内科	30,511	30,532	35,649	5,117
外科・消化器外科	8,777	10,461	11,633	1,172
整形外科	13,098	14,166	12,701	△ 1,465
脳神経外科	13,429	10,694	11,354	660
小 児 科	2,346	1,603	1,584	△ 19
産婦人科	3,310	3,330	3,535	205
精神科	27,324	27,164	28,483	1,319
耳鼻いんこう科	998	1,190	1,313	123
眼 科	614	618	660	42
泌尿器科	4,121	4,056	3,771	△ 285
歯科口腔外科	242	183	276	93
救急総合診療科	2,582	3,264	2,922	△ 342
療養病床	12,488	11,493	13,798	2,305
合 計	119,840	118,754	127,680	8,926

1 日平均入院患者数 診療科別

診療科	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
内科・循環器内科	83.6	83.6	97.4	13.8
外科・消化器外科	24.0	28.7	31.8	3.1
整形外科	35.9	38.8	34.7	△ 4.1
脳神経外科	36.8	29.3	31.0	1.7
小 児 科	6.4	4.4	4.3	△ 0.1
産婦人科	9.1	9.1	9.7	0.6
精神科	74.9	74.4	77.8	3.4
耳鼻いんこう科	2.7	3.3	3.6	0.3
眼 科	1.7	1.7	1.8	0.1
泌尿器科	11.3	11.1	10.3	△ 0.8
歯科口腔外科	0.7	0.5	0.8	0.3
救急総合診療科	7.1	8.9	8.0	△ 0.9
療養病床	34.2	31.5	37.7	6.2
合 計	328.3	325.4	348.9	23.5

※小数点第 2 位四捨五入

延べ入院患者数 近隣市町別

市 町 名		令和 3 年度 (365 日)	令和 4 年度 (365 日)	令和 5 年度 (366 日)	構成比
小 浜 市		74,969	71,556	78,321	61.3%
若狭町	旧上中町	12,960	13,365	14,826	11.6%
	旧三方町	2,988	3,684	3,773	3.0%
おおい町	旧名田庄村	5,358	5,947	5,508	4.3%
	旧大飯町	7,462	7,825	9,096	7.1%
美 浜 町		2,097	2,114	1,729	1.4%
高 浜 町		9,004	8,918	9,086	7.1%
その他地域（県内）		1,912	1,977	2,597	2.0%
その他地域（県外）		3,090	3,368	2,744	2.1%
合 計		119,840	118,754	127,680	100.0%

（ ）は診療実日数

1 日平均入院患者数 近隣市町別

市 町 名		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
小 浜 市		205.4	196.0	214.0	18.0
若狭町	旧上中町	35.5	36.6	40.5	3.9
	旧三方町	8.2	10.1	10.3	0.2
おおい町	旧名田庄村	14.7	16.3	15.0	△ 1.3
	旧大飯町	20.4	21.4	24.9	3.5
美 浜 町		5.7	5.8	4.7	△ 1.1
高 浜 町		24.7	24.4	24.8	0.4
その他地域（県内）		5.2	5.4	7.1	1.7
その他地域（県外）		8.5	9.2	7.5	△ 1.7
合 計		328.3	325.4	348.9	23.5

※小数点第 2 位四捨五入

平均在院日数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一般病床合計	15.9	15.9	16.4

病床利用率（実稼動病床数による）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
一 般 （250 床）	71.7%	70.9%	78.1%
療 養 （50 床）	68.4%	63.0%	75.4%
結 核 （8 床）	0.8%	4.8%	9.2%
精 神 （100 床）	74.9%	73.4%	77.1%
感染症 （2 床）※	※ 1	※ 2	※ 3
合 計 （450 床）	72.0%	71.3%	76.5%

※1 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 2,538 人受入れております。
 ※2 " 3,725 人受入れております。
 ※3 " 89 人受入れております(5/8～5 類移行)

休日および時間外患者数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ患者数	8,184	9,803	10,302
一日平均	22.4	26.8	28.1

救急車搬送患者数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
平日日勤帯	593	674	696
休日・時間外	1,102	1,177	1,128
合 計	1,695	1,851	1,824
一日平均	4.6	5.1	5.0

へき地巡回診療患者数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
延べ患者数	520	420	361
一回平均	6.2	5.0	4.3

〔へき地巡回診療地区〕

〔小浜市〕 堅海、根来、宮川（休止）

〔若狭町〕 西浦、奥杉山（休止）

〔高浜町〕 日引、音海（休止）、上瀬（休止） 年間診療回数：計 84 回

手術件数（中央手術室における件数）

診療科	令和３年度	令和４年度	令和５年度	前年度比
内科（循環器科含）	42	53	29	11
外科	325	404	422	79
整形外科	333	351	287	18
産婦人科	109	116	70	7
耳鼻いんこう科	79	72	90	△ 7
泌尿器科	108	119	146	11
脳神経外科	54	42	64	△ 12
眼科	530	537	517	7
歯科口腔外科	83	77	87	△ 6
形成外科	86	86	91	0
合 計	1,749	1,857	1,803	108

分娩（出産）件数

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	前年度比
分娩件数	275	295	238	△ 57

内視鏡検査件数 ※健診・ドックの検査件数を含む

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	前年度比
上部消化管検査	2,351	2,123	2,358	235
（粘膜切除術）	23	6	13	7
（内視鏡的胃ろう増設術）	22	30	18	△ 12
下部消化管検査	1,080	899	1,272	373
（大腸ポリープ切除術）	158	153	291	138
（粘膜下層剥離術）			13	13
（シグモイドファイバー）	90	76	100	24
気管支ファイバー	40	98	94	△ 4
膵胆管造影検査	176	140	174	34
（内視鏡的胆道碎石術）	29	12	19	7
（乳頭切開術+碎石術）	45	35	47	12
小腸内視鏡	1	6	4	2

薬剤部 統計

処方箋枚数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
外 来	院内処方	5,954	8,904	8,216	△ 688
	院外処方	83,632	79,646	83,911	4,265
入 院		42,190	42,108	45,767	3,659
注 射		31,918	40,042	45,446	5,404

期限切れ院外処方箋枚数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
枚数(割合)		350(0.42%)	306(0.38%)	150(0.18%)	△156

無菌製剤処理加算件数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
抗がん剤	外 来	743	1,050	1,187	137
	入 院	351	441	445	4
TPN	入 院	416	751	881	130

薬剤管理指導件数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
ハイリスク※ ¹		216	326	388	62
そ の 他※ ²		24	101	168	67
退院時服薬指導加算		14	64	142	78
麻薬管理指導加算		3	14	19	5

※¹ 特に安全管理が必要な医薬品の使用患者への指導件数

※² 1以外

持参薬鑑別件数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
鑑別件数		2,605	2,612	2,803	191
1日平均件数		7.1	7.1	7.7	0.6

疑義照会件数

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
院外処方		3,538	3,775	4,310	535
院 内	内用・外用	477	750	689	△ 61
	注射	111	139	134	△ 5

一般名処方加算

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
一般名処方加算1		349	794	842	48
一般名処方加算2		7,899	11,127	12,683	1,556
対象医薬品品目数*		128	193	224	31

*：各年度末の一般名処方可能医薬品品目数

インシデントレポート

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
レポート登録数		72	101	92	△ 9

院内製剤

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
調製品目数		13(下半期)	15	19	4
調製件数		78(下半期)	108	128	20

トレーシングレポート(服薬情報提供書)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
レポート報告数		未調査	未調査	336	-

画像診断センター 統計

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
X線一般撮影	20,954	26,775	28,911	2,136
C T	10,906	11,356	11,962	606
M R I	3,672	3,628	3,603	△ 25
核医学検査（R I 検査）	264	318	279	△ 39
血管造影	322	419	308	△ 111
骨塩定量検査	443	516	588	72
超音波検査	4,951	5,100	5,365	265
P E T／C T 検査	297	322	405	83
治療計画件数	47	48	54	6
放射線治療体外照射件数	1,144	1,113	1,391	278

リハビリテーション科 統計

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
理 学 療 法	33,878	32,218	33,053	835
作 業 療 法	20,292	18,554	18,216	△ 338
言 語 療 法	2,639	3,325	3,763	438
摂食機能療法	9,446	8,788	9,241	453

（上記各項目には、物理療法、心理検査等の件数を含む）

食事療法科 統計

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
常 食	55,201	50,021	53,692	3,671
軟 菜 食	148,888	150,782	148,649	△ 2,133
流 動 食	2,140	1,523	1,850	327
特 別 食	107,745	106,297	120,703	14,406
栄養指導件数（集団）	0	0	0	0
栄養指導件数（入院）	196	119	185	66
栄養指導件数（外来）	364	336	336	0
栄養管理件数	5,075	5,095	5,393	298
栄養治療実施計画作成件数 （栄養サポートチーム）	841	1,017	1,194	177

臨床検査科 統計（主要なものを掲載）

血液生化学検査	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比
A S T	44,232	43,636	46,950	3,314
A L T	44,170	43,572	46,885	3,313
γ-G T	29,360	29,130	32,346	3,216
総コレステロール	16,401	16,415	17,230	815
H D L コレステロール	11,992	11,689	12,400	711
尿酸	19,769	20,273	20,865	592
血糖	31,277	31,964	37,568	5,604
ヘモグロビン A 1 C	10,800	10,449	10,769	320
一般検査				
尿検査定性(糖・蛋白・潜血他)	24,864	24,564	24,658	94
便潜血検査	2,574	2,643	2,946	303
血液学的検査				
一般血液検査(血球数等測定)	47,506	46,985	49,987	3,002
血液細胞像/白血球分類検査	31,840	31,426	34,166	2,740
プロトロンビン時間	8,230	8,116	8,899	783
Dダイマー	4,122	4,070	3,744	△ 326
免疫・血清学的検査				
B型肝炎ウイルス抗原	4,686	4,433	4,696	263
C型肝炎ウイルス抗体	4,531	4,262	4,495	233
C E A	5,089	5,095	5,409	314
C A 19-9	3,570	3,590	3,786	196
B N P	3,789	3,824	3,903	79
生理機能検査				
心電図	7,065	6,601	7,383	782
ホルター心電図	289	190	168	△ 22
脳波	224	167	201	34
A B I	336	371	357	△ 14
神経伝導速度	84	83	105	22
微生物学的検査				
一般細菌培養検査	7,578	7,303	7,554	251
結核菌培養検査	385	477	629	152
細胞診検査				
細胞診検査	2,339	2,065	2,307	242
病理組織検査				
病理組織検査	1,767	1,590	1,814	224
術中迅速病理検査	5	14	17	3
病理解剖件数	1	2	0	△ 2

地域連携・医療福祉相談件数

紹介および逆紹介の状況

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
紹介件数	4,978	5,116	5,275	5,159
紹介率	33.3%	31.1%	25.6%	22.9%
逆紹介件数	3,578	3,876	4,766	4,693
逆紹介率	37.2%	35.7%	30.2%	26.9%

ふくいメディカルネット運用件数

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
件 数	171	165	140	145

新規相談件数

	入 院	外 来	他院等より	計
件 数	447	407	2	856

新規相談の主訴別分類（重複あり）

転院、退院（在宅医療）等の調整	472 件
各種制度紹介、活用援助	331 件
医療費等の経済的問題に関すること	3 件
そ の 他	72 件

新規相談の受診科別分類（重複あり）

内 科	外 科	整形外科	脳神経外科	小児科
252	68	158	122	13
産婦人科	精神科	耳鼻いんこう科	眼 科	皮膚科
14	40	43	7	57
泌尿器科	循環器科	歯科口腔外科	救急総合診療科	他院等より
24	0	13	36	1

退院支援の状況

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
総 件 数	744	802	834	850
転院支援	153	179	181	161
特養老健	155	102	212	113
養 護	3	5	4	6
高齢者賃貸	23	39	47	51
障害福祉施設	38	26	17	24
生保指定施設	0	2	0	0
自 宅	366	347	366	395
その他	6	6	7	16

退院支援加算

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
件 数	95	85	417	796

多職種カンファレンス（介護支援連携加算）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
件 数	119	89	105	106

療養病棟転棟支援

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
件 数	26	26	26	49

精神科訪問看護実施回数（往診同行含む）

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
件 数	0	2	0	0

IV. 決算概要

経営・財務指標

項 目		単位	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
年延患者数	入院	人	119,840	118,754	127,680
	外来	人	177,700	174,319	177,621
1 日平均患者数	入院	人	328	325	349
	外来	人	734	720	734
平均在院日数	一般	日	15.9	15.9	16.4
患者 1 人 1 日 当たり診療収入	入院	円	36,262	39,521	38,941
	外来	円	11,800	12,668	13,200
病床利用率 (実稼動病床数)	一般	%	71.7%	70.9%	78.1%
	療養	%	68.4%	63.0%	75.4%
	結核	%	0.8%	4.8%	9.2%
	精神	%	74.9%	73.4%	77.1%
	合計	%	72.0%	71.3%	76.5%
	感染症	%	※ 1	※ 2	※ 3
職員 1 人 1 日 当たり診療収入	医師	円	281,456	311,728	298,363
	看護師	円	49,409	52,234	55,309
病院事業収益		千円	9,070,240	9,239,056	8,986,195
医業収益		千円	6,768,815	7,165,288	7,577,683
病院事業費用		千円	8,342,857	8,828,361	8,906,014
医業費用		千円	7,694,484	8,176,631	8,299,871
損益		千円	727,383	410,695	80,181
給与費		千円	4,650,325	4,819,169	4,934,690
給与費対医業収益比率		%	68.7%	67.3%	65.1%
材料費		千円	1,431,319	1,639,649	1,699,356
材料費対医業収益比率		%	21.1%	22.9%	22.4%
薬品費		千円	803,506	1,001,640	1,033,474
薬品費対医業収益比率		%	11.9%	14.0%	13.6%
経費		千円	859,330	895,026	933,051
経費対医業収益比率		%	12.7%	12.5%	12.3%
委託費		千円	464,042	478,975	496,778
委託費対医業収益比率		%	6.9%	6.7%	6.6%
光熱水費		千円	126,135	153,198	136,939
光熱水費対医業収益比率		%	1.9%	2.1%	1.8%
燃料費		千円	29,652	28,755	35,672
燃料費対医業収益比率		%	0.4%	0.4%	0.5%
減価償却費		千円	570,216	687,250	608,039
減価償却費対医業収益比率		%	8.4%	9.6%	8.0%

※1 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 2,538 人受入れております。

※2 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 3,725 人受入れております。

※3 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 89 人受入れております(5/8～5 類移行)

令和 5 年度公立小浜病院組合事業会計決算報告

1 令和 5 年度公立小浜病院組合病院事業報告書（抜粋）

〔杉田玄白記念公立小浜病院事業〕

（ア）患者数

外来患者数は、年間延べ 177,621 人(1 日平均 734 人)で、前年度に比較し 3,302 人(1 日あたり 14 人)減少し、入院患者数は、年間延べ 127,680 人(1 日平均 349 人)で、前年度に比較し 8,926 人(1 日平均 24 人)増加しました。

（イ）収益的収支

収入総額は、8,986,194,763 円で、前年度に比較し 252,861,356 円(2.7%)減少しました。また、支出総額は、8,906,014,158 円で、前年度に比較し 77,652,827 円(0.9%)の増加となり、80,180,605 円の利益を生じる結果となりました。損益は前年度に比較し、330,514,183 円悪化しました。

（ウ）資本的収支

収入は、補助金 132,355,000 円、市町負担金 1,683,000 円、企業債 219,500,000 円、修学資金貸付金返還金 6,000,000 円の合計 359,538,000 円となり、支出は、建設改良費 356,121,370 円、企業債償還金 715,338,771 円、修学資金貸付金 26,700,000 円の合計 1,098,160,141 円となりました。収入不足額 738,622,141 円については、損益勘定留保資金 491,585,753 円及び当年度分資本費繰入収益 247,036,388 円にて補てんしました。

建設改良費は、東館空調設備機器更新工事や全身用 X 線 CT 診断装置などを含む 17 品を購入しました。また看護学院 ICT コンピュータシステムの今年度分をリース資産購入費として計上しました。

2 事業収入に関する事項

区 分	令和4年度		令和5年度		対前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸率%
医業収益	7,165,288,326	77.6%	7,577,682,641	84.3%	412,394,315	5.8
外来収益	2,208,329,299	23.9%	2,344,534,893	26.1%	136,205,594	6.2
入院収益	4,693,319,105	50.8%	4,971,926,092	55.3%	278,606,987	5.9
その他医業収益	263,639,922	2.9%	261,221,656	2.9%	△ 2,418,266	△ 0.9
医業外収益	1,932,682,301	20.9%	1,266,999,879	14.1%	△ 665,682,422	△ 34.4
財産収益	58,298,081	0.6%	61,234,359	0.7%	2,936,278	5.0
患者外給食収益	488,102	0.0%	275,080	0.0%	△ 213,022	△ 43.6
付添寝具料	98,226	0.0%	61,159	0.0%	△ 37,067	△ 37.7
他会計補助金	746,611,765	8.1%	720,686,409	8.0%	△ 25,925,356	△ 3.5
市町補助金	10,229,758	0.1%	10,371,840	0.1%	142,082	1.4
県助成金	723,813,864	7.8%	60,120,645	0.7%	△ 663,693,219	△ 91.7
国庫補助金	5,286,000	0.1%	5,020,000	0.1%	△ 266,000	△ 5.0
地域療育拠点運営事業受託料	6,172,752	0.1%	6,172,752	0.1%	0	0.0
長期前受金戻入	132,826,621	1.4%	141,356,919	1.6%	8,530,298	6.4
資本費繰入収益	231,213,723	2.5%	247,036,388	2.7%	15,822,665	6.8
その他医業外収益	17,643,409	0.2%	14,664,328	0.2%	△ 2,979,081	△ 16.9
へき地医療拠点病院事業収益	9,514,680	0.1%	9,144,400	0.1%	△ 370,280	△ 3.9
へき地巡回診療収益	2,085,680	0.0%	1,721,400	0.0%	△ 364,280	△ 17.5
補助金	7,429,000	0.1%	7,423,000	0.1%	△ 6,000	△ 0.1
高等看護学院収益	131,570,812	1.4%	132,367,843	1.5%	797,031	0.6
負担金	20,857,000	0.2%	18,497,000	0.2%	△ 2,360,000	△ 11.3
助成金	110,713,812	1.2%	113,870,843	1.3%	3,157,031	2.9
事業収益計	9,239,056,119	100.0%	8,986,194,763	100.0%	△ 252,861,356	△ 2.7

3 事業費に関する事項

区 分	令和4年度		令和5年度		対前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	伸率%
医業費用	8,176,631,044	92.62%	8,299,871,073	93.19%	123,240,029	1.5
給与費	4,819,169,298	54.59%	4,934,689,608	55.41%	115,520,310	2.4
材料費	1,639,648,977	18.57%	1,699,356,195	19.08%	59,707,218	3.6
経費	895,026,428	10.14%	933,050,967	10.48%	38,024,539	4.2
減価償却費	687,250,089	7.78%	608,038,685	6.83%	△ 79,211,404	△ 11.5
資産減耗費	37,607,812	0.43%	23,602,000	0.27%	△ 14,005,812	△ 37.2
研究研修費	97,928,440	1.11%	101,133,618	1.14%	3,205,178	3.3
統轄管理費	42,324,406	0.48%	42,278,893	0.47%	△ 45,513	△ 0.1
給与費	40,476,462	0.46%	40,761,294	0.46%	284,832	0.7
経費	1,847,944	0.02%	1,517,599	0.02%	△ 330,345	△ 17.9
医業外費用	470,628,782	5.33%	424,489,419	4.77%	△ 46,139,363	△ 9.8
支払利息及び企業債取扱諸費	117,435,886	1.33%	105,548,001	1.19%	△ 11,887,885	△ 10.1
患者外給食材料費	519,569	0.01%	433,629	0.00%	△ 85,940	△ 16.5
患者外寝具委託費	297,840	0.00%	298,656	0.00%	816	0.3
消費税	16,923,900	0.19%	17,614,600	0.20%	690,700	4.1
その他医業外費用	335,451,587	3.80%	300,594,533	3.38%	△ 34,857,054	△ 10.4
へき地医療拠点病院費	9,258,544	0.10%	8,908,861	0.10%	△ 349,683	△ 3.8
へき地巡回診療事業費	9,258,544	0.10%	8,908,861	0.10%	△ 349,683	△ 3.8
高等看護学院費	129,518,555	1.47%	130,465,912	1.46%	947,357	0.7
給与費	109,810,887	1.24%	112,262,439	1.26%	2,451,552	2.2
教材費	1,513,809	0.02%	1,174,430	0.01%	△ 339,379	△ 22.4
研究研修費	1,482,047	0.02%	399,188	0.00%	△ 1,082,859	△ 73.1
経費	16,711,812	0.19%	16,629,855	0.19%	△ 81,957	△ 0.5
事業費用計	8,828,361,331	100.0%	8,906,014,158	100.0%	77,652,827	0.9

令和 5 年度 病院年報
(第 22 号)

令和 6 年 10 月発行
杉田玄白記念公立小浜病院

〒917-8567

福井県小浜市大手町 2-2

TEL 0770-52-0990

FAX 0770-53-3745

<https://www.obamahp-wakasa.jp>